

石川県立看護大学

年報

第24巻

令和5年度

巻頭言

今年度の最も大きな出来事は、令和六年一月一日に起こった千年に一度といわれる能登半島地震に他ならないでしょう。まさか元旦にこのような惨事が起こるとは誰が予測できたでしょう。被災された皆様にお見舞い申し上げるとともに、ご支援くださった教職員に心から御礼を申し上げたいと思います。その後の大学の体制、方針、実践に関しては教職員の知るところであります。

そして、学長として教職員に出したメッセージは、以下です。

「どんな危機状況に社会が置かれても、教育・研究を止めてはいけません。未来を創る人材を育成することが、復興につながる最も大切な手段だからです」

まず教育において、この令和5年度には、我々はどうのような次世代を担う学生を育ててきたのでしょうか。それは、Society5.0時代／ポストコロナ・災害時代の新たな医療に対応し先導できる、**情報リテラシーと自律性、他分野と融合する探究力**を備えた“次世代看護職”の育成です。令和4年度から学年進行で始まった教育のDX化に向けての学内実習をソフト、ハード両面から整備してきました。また、グローバル化を担う国際研修を再開するための準備を進めるとともに、受験生増を目的に高校大学間連携のシーズ集を作成し、オープンキャンパスではミニレクチャーを開催するなど、多くのチャレンジをしてきました。

一方、研究はどのように進化したのでしょうか。研究の成果が論文として発表され、社会に還元されてこそ、科学は進化していきます。本学からも今年度は多くの論文が発表されました。また、文部科学省（学術振興会）の科学研究費助成事業の採択率が41%に達したことは最大の成果でしょう。現在の日本では、全大学の三分の一が看護学部または看護学科を有する、あるいは学部があり、そのほとんどが修士課程を持ち、さらに二分の一が研究者を養成する博士課程を開講しています。その中で本学は、研究の面でも他学をリードする存在となることを目指しています。「未来の看護を創る研究者は育っているのか？」これは、以前より看護学に対して他領域の科学者達からの投げかけられている問いです。実践科学である看護学の未来を創るために、発表されたみなさんの研究が現場に繋がり、評価されることと確信しております。

さらに本学は、看護系大学として唯一の産学連携講座を開設するに至りました。共同研究講座「看護理工学」には分子生物学や栄養学を専門とする教員を迎え、単科大学でありながら文理融合による研究が進められることを期待しています。

最後に県立大学としての地域貢献では、地域ケア総合センターがeスポーツで高齢者の認知機能の改善を目指すプロジェクトをかほく市と共同で実施し、大変有意義な結果をもたらしました。さらに、看護キャリア支援センターは、特定行為研修を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）の実施施設として厚生労働省と日本看護協会から認可をいただきました。こうした取り組みは、石川県の保健医療水準を高め、また次世代の看護のリーダーとなる人材の育成に繋がることでしょう。

来年度は、本年度の実績と成果を基盤として、次世代の看護を創生しつつも、目の前の能登半島地震の復興を支援できる、災害に強い看護大学を目指して、All IPNUで最善をつくして参りましょう。

石川県立看護大学 学長 真田弘美



第24回入学式（令和5年4月4日）



夏のオープンキャンパス（令和5年7月15日）



夏期アメリカ看護研修（令和5年6月9日～9月1日）



石川県看護教員現任研修
(令和5年6月17日、7月8日、9月16日、10月28日)



秋のオープンキャンパス (令和5年10月14日)



インターナショナルカフェ（令和5年10月6日）



第20回卒業式・学位授与式（令和6年3月16日）

目 次

巻頭言

1. 学事	1
1.1 2023 年度学事暦	1
1.2 大学組織図	2
1.2.1 大学組織図	2
1.2.2 常設委員会構成	3
1.3 懇話会	5
1.4 オープンキャンパス	6
1.4.1 夏の対面型オープンキャンパス	6
1.4.2 秋の対面型オープンキャンパス	6
2. 教員・職員	8
2.1 教員紹介	8
2.2 特任教員等紹介	12
2.3 教員組織構成	12
2.3.1 所属領域・講座と職位構成	12
2.3.2 職位別年齢構成	13
2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員	13
2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	13
2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	13
2.4 職員紹介 (2024 年 3 月現在)	14
3. 中期計画	15
4. 看護学部看護学科	20
4.1 理念・目標	20
4.1.1 教育理念	20
4.1.2 教育目標	20
4.1.3 アドミッション・ポリシー (求める人材)	20
4.1.4 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	21
4.1.5 ディプロマ・ポリシー (学位授与に関する方針)	21
4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況	22
4.3 教育・履修体制	25
4.4 委員会活動	26
4.4.1 常設委員会	26
4.4.1.1 教務委員会	26
4.4.1.2 学生委員会	27
4.4.1.2.1 学生相談専門部会	30
4.4.1.2.2 進路支援専門部会	32
4.4.1.3 研究推進委員会	33
4.4.1.3.1 学内研究助成専門部会	35

4.4.1.4	石川看護雑誌編集委員会	35
4.4.1.5	情報システム委員会（含む情報セキュリティ）	37
4.4.1.6	広報委員会	37
4.4.1.7	入学試験委員会	39
4.4.1.7.1	入試実施部会	40
4.4.1.7.2	入試評価部会	40
4.4.1.8	自己点検・評価委員会	41
4.4.1.8.1	教員評価部会	44
4.4.1.8.2	年報編集部会	45
4.4.1.9	FD委員会	46
4.4.1.10	ハラスメント委員会	47
4.4.1.11	コンプライアンス委員会	48
4.4.1.12	倫理委員会	49
4.4.1.13	衛生委員会	50
4.4.1.14	動物実験委員会	51
4.4.1.15	微生物安全管理委員会	51
4.4.1.16	DX推進委員会	52
4.4.2	特設委員会	54
4.4.2.1	高校生の探求活動支援ワーキング	54
4.5	令和5年度 卒業研究論文題目一覧	56
5.	大学院・看護学研究科	60
5.1	理念・目標	60
5.1.1	博士前期課程（修士）	60
5.1.1.1	教育理念	60
5.1.1.2	教育目標	60
5.1.1.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	61
5.1.1.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	61
5.1.1.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	61
5.1.2	博士後期課程（博士）	62
5.1.2.1	教育理念	62
5.1.2.2	教育目標	62
5.1.2.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	62
5.1.2.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	63
5.1.2.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	63
5.2	大学院生の入学・在学・修了の状況	64
5.3	大学院教務学生委員会	66
5.4	令和5年度 修士論文題目一覧	67
5.5	令和5年度 博士論文題目一覧	68
6.	教員の業績	69
6.1	石川県立看護大学・学長	69
6.2	人間科学領域	84

6.3	健康科学講座	89
6.4	基礎看護学講座	95
6.5	母性看護学講座	103
6.6	小児看護学講座	109
6.7	成人看護学講座	114
6.8	老年看護学講座	135
6.9	地域看護学講座	140
6.10	在宅看護学講座	146
6.11	精神看護学講座	149
6.12	看護理工学共同研究講座	153
7.	国際交流	158
7.1	国際交流委員会	158
7.2	アメリカ看護研修	159
8.	附属図書館	160
8.1	図書館運営委員会	160
8.2	今年度の主な活動概況	160
8.2.1	図書館事業の実施	160
8.3	資料整備状況	161
8.3.1	分野別蔵書構成（令和6年3月31日現在）	162
8.3.2	医学分類蔵書構成（令和6年3月31日現在）	162
8.3.3	看護系資料分類別構成（令和6年3月31日現在）	162
8.4	利用統計	163
8.4.1	開館日数・入館者数	163
8.4.2	館外利用者数及び冊数	163
8.4.3	他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数	163
8.4.4	他大学・公共図書館・その他機関からの文献複写受付件数	163
8.4.5	館内設置コピー機による複写件数・枚数	164
8.4.6	相互貸借貸出冊数	164
8.4.7	相互貸借借受冊数	164
8.4.8	データベース利用状況	164
8.5	利用者サービス	165
8.5.1	学内向図書館サービス	165
8.5.2	学外向図書館サービス	165
8.5.3	学内で利用できるデータベース	166
8.6	職員研修	166
8.6.1	附属図書館職員の研修	166

9. 附属地域ケア総合センター	167
9.1 地域ケア総合センター運営委員会.....	167
9.1.1 人材育成部会	169
9.1.2 地域活動・地域創生部会	169
10. 看護キャリア支援センター.....	172
10.1 看護キャリア支援センター運営委員会	172
10.2 認定看護師教育課程フォローアップ研修	172
10.3 石川县委託事業の開催	174
10.3.1 石川県看護教員現任研修事業.....	174
10.3.2 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」	177
10.3.3 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」	178
10.4 地域貢献	180
11. 大学施設の開放.....	181
編集後記.....	182

1. 学事

1.1 2023年度学事暦

令和5年

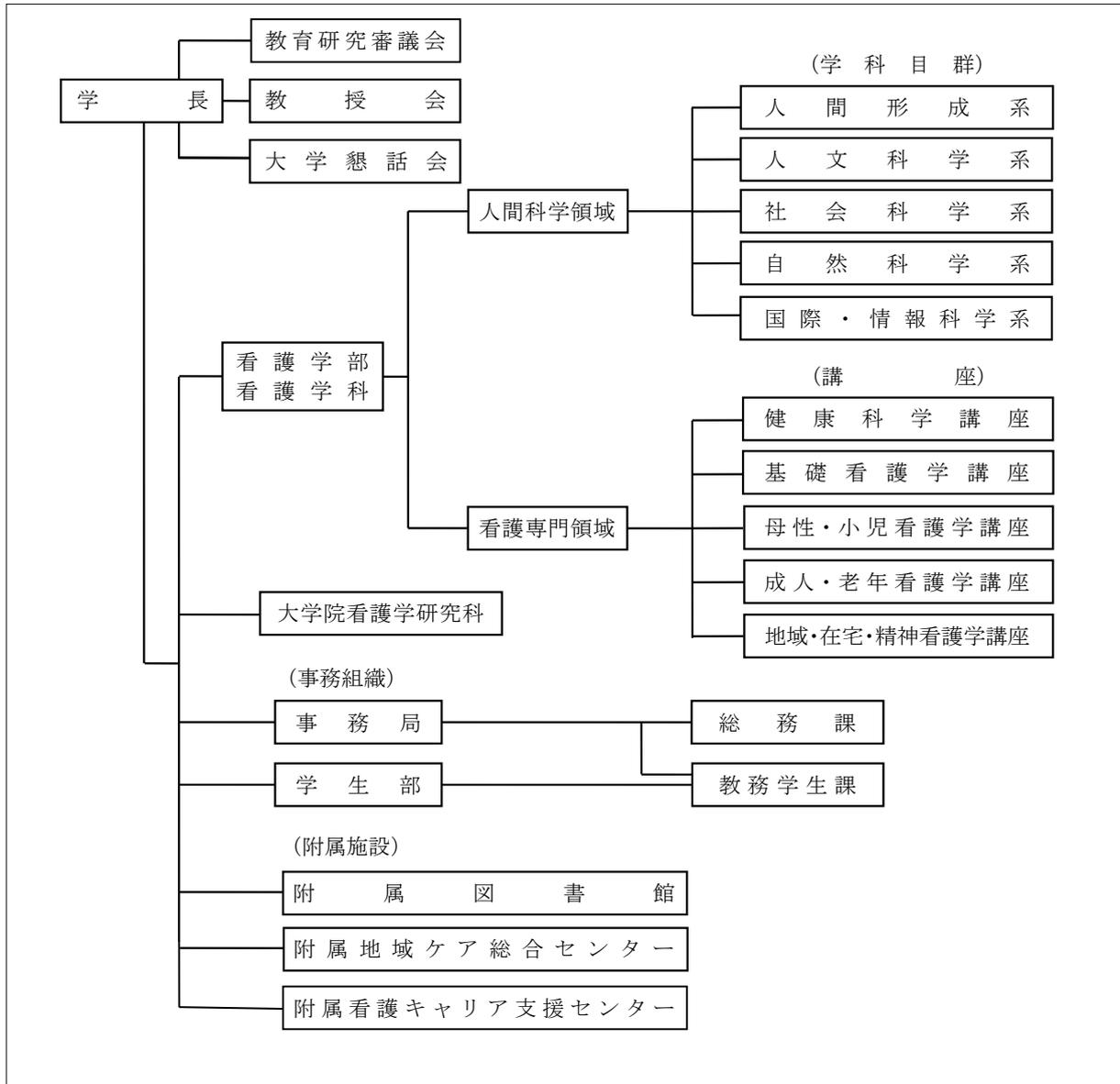
4月 4日 (火)	入学式
4月 3日 (月) ~ 4月 7日 (金)	ガイダンス 学生健康診断
4月10日 (月)	授業開始
4月 1日 (土) ~ 4月10日 (月)	前期履修登録受付
5月29日 (月)	開学記念日
7月15日 (土)	夏のオープンキャンパス
8月 1日 (火) ~ 8月10日 (木)	前期補講・試験
8月11日 (金) ~ 9月30日 (土)	夏季休業
8月 6日 (日)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程)
10月 2日 (月)	後期授業開始
9月21日 (木) ~ 10月 2日 (月)	後期履修登録受付
10月14日 (土)	秋のオープンキャンパス
10月21日 (土)	大学祭
11月18日 (土)	入学試験 (学校推薦型選抜・社会人選抜)
12月22日 (金) ~ 1月 4日 (木)	冬季休業

令和6年

1月13日 (土) ~ 1月14日 (日)	大学入学共通テスト
2月13日 (火) ~ 2月21日 (水)	後期補講・試験
2月25日 (日)	入学試験 (一般選抜前期日程)
3月12日 (火)	入学試験 (一般選抜後期日程)
3月16日 (土)	卒業式・学位授与式
2月22日 (木) ~ 3月31日 (日)	春季休業

1.2 大学組織図

1.2.1 大学組織図



1.2.2 常設委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（助教以上） ただし、基礎からは各2名	26
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（助教以上） +各学年担任から1名	27
学生相談専門部会	学生部長の指名	4名（助教以上）+学生部長	30
進路支援専門部会	学生部長の指名	看護の小講座から1名（講師以上）	32
図書館運営委員会	附属図書館長	大講座から各1名（講師以上）	160
石川看護雑誌編集委員会*	図書館長の指名	5名	35
研究推進委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	33
学内研究助成専門部会	学長の指名	5名（教授のみ）	35
情報システム委員会	学長の指名	5名	37
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア 総合センター長	小講座から1名（講師以上）	167
人材育成部会		3名	169
地域活動・地域創生部会		3名	169
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア 支援センター長	センターの教員3名 その他学長が指名する者5名	172

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載 ページ
国際交流委員会	学長の指名	大講座から各1名（講師以上） +委員長指名3名	158
広報委員会*	学長の指名	役職者+HPへの文章掲載の 役割を担う者	37
入学試験委員会	学長	大講座から各1名（准教授以上）	39
入試実施部会	入試委員長の指名	大講座から各1名以上（助手以上）	40
入試評価部会	入試委員長の指名	3名（講師以上）	40
作問専門部会（非公表）	学長の指名	3名	
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名4名	41
教員評価部会	学長の指名	3名	44
年報編集部会	学長の指名	3名	45
FD委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	46
ハラスメント委員会	学長	5名	47
コンプライアンス委員会	研究科長	5名	48
大学院教務学生委員会	研究科長	5名	66
倫理委員会	研究科長	学内7名+学外2名	49
衛生委員会	委員の合意により 決定	理事長指名+過半数代表者 推薦	50
動物実験委員会	学長の指名	動物実験にかかわる教員	51
微生物安全管理委員会	学長の指名	微生物実験にかかわる教員	51
DX推進委員会	学長の指名	規程に定める者	52

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

1.3 懇話会

石川県立看護大学懇話会

県内の看護関係の団体、県民の代表者等から意見を聴取し、地域に密着した大学としての運営に資するため、石川県立看護大学に懇話会を設置する。

1. 開催日時： 令和6年3月4日（月）15時00分～
2. 開催形式： ハイブリット開催（対面・Zoom）
3. 学外出席者： 石川県看護協会長 小藤 幹恵
 (11名) 石川県立中央病院長 岡田 俊英
 石川県立中央病院看護部長 江藤 真由美
 金沢医科大学病院副院長兼看護部長 中村 真寿美
 金沢医療センター看護部長 藤田 恵子
 金沢大学医薬保健学域保健学系教授 表 志津子
 石川県婦人団体協議会長 能木場 由紀子
 会議通訳、翻訳者 早川 芳子
 石川県保健所長会長石川中央保健福祉センター所長 木曾 啓介
 石川県高等学校校長協会会長金沢泉丘高等学校長 岡橋 勇侍
 かほく市長 油野 和一郎
- 学内出席者： 学長、学部長、研究科長、学生部長、図書館長、地域ケア総合センター長、看護キャリア支援センター長、教務委員長、事務局長、総務課長、教務学生課長
4. 主な内容： (1) 看護大学の現況について
 ・組織、教職員数、入学定員、入試の状況等について
(2) 学生の進路状況について
 ・学部の状況、大学院の状況について
(3) 学部教育・大学院教育・生涯教育について
 ・大学院修士・博士課程の研究、皮膚・排泄ケア課程の概要等について
(4) 地域貢献及び国際貢献について
 ・地域ケア総合センターの事業等について
(5) 意見交換
 ・看護教育、看護師の離職率、能登半島地震における学生の支援、海外研修・グローバル化、他大学との連携、地域包括連携等

1.4 オープンキャンパス

1.4.1 夏の対面型オープンキャンパス

1. 日 時：令和5年7月15日(土) 9時40分～13時30分
2. 参加者：355名
3. 概 要：
 - 1) 大学説明会
 - ・学長挨拶
 - ・本学の特徴、入試制度と受験対策、卒業後の進路、助成金等について
 - 2) メイン模擬授業
「これからの地域・在宅医療を担う次世代遠隔看護技術」
 - 3) キャンパスライフ紹介
 - ・入学、授業、実習、課外活動等について
 - 4) 看護体験×ミニ模擬講義
 - ・基礎看護学 「1年前期でここまでできます体験」
 - ・成年・老年看護学 「看護のDXに挑戦しよう」
 - ・母性・小児看護学 「子どもと家族のナース体験プロジェクト」
 - ・地域・在宅・精神看護学 「Let'sフレイルチェック ～体の強さを測定しよう～」
 - 5) 研究ミニイベント
 - ・岩佐和夫 教授 「細胞培養を体験」
 - ・松本 勝 准教授 「次世代看護技術『エコーによる身体の可視化』で腹部の観察を体験してみよう」
 - ・垣花 渉 教授 「あなたの『歩き』はピッチ型 or ストライド型」
 - ・中嶋優太 講師 「哲学をしてみようー哲学カフェ体験ー」
 - 6) 教員・学生による相談会

夏の対面型オープンキャンパスでは、県内外から高校生及び保護者ら355名の参加があった。

本年度5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類感染症へ移行したことを受け、コロナ禍以前と同様に定員を設けずに実施した。

当日は、本学の特徴等に関する説明会等を開催した後、「キャンパスライフ紹介」「看護体験×ミニ模擬講義」「研究ミニイベント（事前申込制）」「個別相談会」といった各ブースに自由に参加できる形式とした。

コロナ禍が一段落したこともあり、気軽に話し合う学生と参加者が打ち解けた様子が見て取れるオープンキャンパスとなった。

1.4.2 秋の対面型オープンキャンパス

1. 日 時：令和5年10月14日(土) 9時30分～12時00分
2. 参加者：151名

秋の対面型オープンキャンパスでは、夏と同様に定員を設けずに実施し、高校生及び保護者ら151名が参加した。

高校2年生・1年生が多く、早い段階から進路を意識している高校生の増加が目立った。

2. 教員・職員

2.1 教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名	
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	教授	垣花 渉	
	社会科学系群	哲学・生命倫理学	講師	中嶋 優太	
	人文科学系群	心理学	准教授	松田 幸久	
	自然科学系群	人間工学	教授	小林 宏光	
	国際・情報科学系群		英語	講師	工藤 義信
			情報	講師	佐能 唯
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	今井 美和	
			教授	平居 貴生	
			准教授	市丸 徹	
		保健・治療学	教授	岩佐 和夫	
			教授	今井 秀樹	
			教授	石川 倫子	
	基礎看護学講座	基礎看護学	准教授	寺井 梨恵子	
			講師	田村 幸恵	
			講師	南條 裕子	
			講師	石井 和美	
			助教	瀬戸 清華	
			助教	千田 明日香	
			助教	中嶋 知世	
			助教	濱 耕子	
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	亀田 幸枝	
			教授	米田 昌代	
			講師	曾山 小織	
			講師	桶作 梢	
助教			河合 美佳		
助教			野沢 ゆり乃		

研 究 課 題
身体活動を促進する行動科学および社会的支援アプローチの効果、初年次教育の実践的研究
西田『善の研究』前後の新資料からみた自由論
ヒトの視覚と記憶を中心とした認知機能の解明と応用研究、精神疾患の脳機能・形態的特徴の研究、社会の大量・多変量データを活用した統計学的研究
心拍変動 (Heart rate variability) および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究、体幹加速度による歩行対称性の研究
15世紀イギリス教訓文学作家ピーター・イドリー作『息子への教え』現存写本にみる教訓詩の受容の実態
MRゴーグルを用いた輸液ポンプの輸液管理演習方法の開発
若年女性の子宮頸がん予防に関する研究
生活習慣病の予防・改善に関する研究、時計遺伝子の新規生物作用の解明
生殖機能の中枢制御機構に関する研究、性認識・性教育に関する研究
骨格筋による免疫制御機能の解明
わが国の疾病構造に関する疫学的研究、ヒト集団を対象とした人類生態学的研究
看護管理学に関する研究、看護師のキャリアに関する研究、在宅療養移行支援に関する研究
看護師の視覚情報に関連した観察についての研究、転倒予防に関する研究、看護師の臨床判断に関する研究
基礎看護技術に関する研究、心不全患者への看護に関する研究
クリティカルケア領域の実践・教育・管理に関する研究 EBPの普及と実装に関する研究
看護技術のエビデンスに関する研究 清潔ケアに関する研究
筋萎縮性側索硬化症患者の在宅療養に関する研究
看護師の実践能力に関する研究
外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究、退院調整に関する研究
周産期の健康とQOL評価、女性向け補整下着の開発評価に関わる研究、夫婦の親役割適応に関する研究
プレコンセプションケアの推進に関する研究 健康教育の効果や測定用具に関する研究 助産師教育に関する研究
グリーフケア（主に流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族とその支援者へのケア）に関する研究、周産期のケア・子育て支援・女性の健康に関する研究
妊娠前の健康と行動変容・ヘルスリテラシー、妊婦の身体活動、産後の女性のケア、子育て支援、生殖補助医療の看護、特別養子縁組に関する研究
AYA世代がんサバイバーの性と生殖に関する研究 Sexual and Reproductive Health and Rights (SRHR) に関する研究
女性の尿失禁に関する研究
五本指靴下と分娩時の体温変動に関する研究、妊婦の口腔衛生に関する研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名	
	母性・小児看護学講座	小児看護学	教授	戸部 浩美	
			講師	千原 裕香	
			助教	後藤 亜希	
			助手	西 真理子	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	紺家 千津子	
			教授	峰松 健夫	
			教授	臺 美佐子	
			准教授	松本 智里	
			准教授	松本 勝	
			講師	大西 陽子	
			講師	今方 裕子	
			助教	瀧澤 理穂	
			助教	額 奈々	
			老年看護学	教授	真田 弘美
				教授	川島 和代
				准教授	中道 淳子
				講師	大橋 史弥
				助教	近藤 考朗
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	塚田 久恵	
			教授	米澤 洋美	
			准教授	金子 紀子	
			助教	室野 奈緒子	
			助教	嶋 雅奈恵	
		在宅看護学	教授	桜井 志保美	
			講師	日高 未希恵	
			助教	山路 朋子	
			助手	牛村 春奈	
		精神看護学	教授	美濃 由紀子	
講師			大江 真吾		
助教			高濱 圭子		
助教			川俣 文乃		

研 究 課 題
家族のレジリエンス、虐待・マルトリートメント予防、家族のマインドフルネス、養育態度、怒り、感情調整、感情の社会化、アタッチメント、愛着障害、養子縁組、発達障害、不登校、家族学
親になる前から始めるマルトリートメント予防に関する研究、子育て中の親支援に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
特別養子縁組に子どもを託す実母支援に関する研究
創傷・皮膚障害に関するケア技術開発に関する研究、創傷・スキンケア看護における遠隔支援に関する研究
褥瘡の発生や不顕性感染の予測・同定法、創傷治癒促進法、慢性脱水同定法、軽度認知障害のスクリーニング法の開発を目指した看護理工学研究
リンパ浮腫患者の蜂窩織炎再発予防のためのアドバンストスキンケアの開発 リンパ浮腫管理の質向上に向けた遠隔ケアシステム構築 超音波検査技術を用いた浮腫評価方法の構築
がん患者のアピアランスケアに関する研究、リンパ浮腫患者の遠隔保存療法および靴の開発に関する研究
超音波検査（エコー）を用いたフィジカルアセスメントに関する研究、XR技術を用いた看護師の業務支援・学習支援に関する研究、ICTを利用した訪問看護の遠隔支援に関する研究
クリティカルケア領域における人工呼吸器装着患者への看護に関する研究
がん患者の化学療法による浮腫ケアの開発
子どもをもつがん患者への支援に関する研究、がんサバイバーシップに関する研究
介護保険施設の看取りに関する研究、トランスジェンダーの看護に関する研究
褥瘡に関する研究、看護の可視化に関する研究、看護理工学研究
高齢者施設等の看護と介護の連携に関する研究、高齢者の機能低下を支援するケアの開発に関する研究
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究、高齢者の意思決定支援に関する研究
心不全高齢者の再入院予防に関する研究、高齢者の身体拘束予防に関する研究
認知症高齢者への意思決定支援に関する研究
事業所における健康支援に関する研究、ヘルスリテラシーと保健行動に関する研究
団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築
地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究
産業保健看護職の活動に関する研究、労働者の就労継続に関する研究
障害児施設における発達障害児支援に関する研究
家族介護者の健康支援に関する研究、医療的ケア児の養育者に対する育児支援
地域特性に基づく社会的つながりに着目した高齢者ヘルスケアシステムに関する研究
高齢者の入退院支援に関する研究
高齢者の口腔と栄養に関する研究
重大な他害行為を起こした精神疾患患者の治療・ケアに関する研究
発達障害者への訪問看護に関する研究、農福連携に関する研究
アルコール依存症者の回復に関する研究
看護場面における感情体験と援助関係に関する研究

2.2 特任教員等紹介

職 位	氏 名	担 当	任 期
特任准教授	池 田 富三香	附属看護キャリア支援センター	令和5年 4月 1日～ 令和6年 3月31日
特任講師	石 井 光 子	附属看護キャリア支援センター	令和4年 4月 1日～ 令和5年 3月31日
臨時助手	宮 本 菜々恵	老年看護学	令和5年 4月 1日～ 令和6年 3月31日
—	小 幡 康 二	アドミッションアドバイザー	令和5年 4月 1日～ 令和6年 3月31日

2.3 教員組織構成 (2024年3月現在)

2.3.1 所属領域・講座と職位構成

単位 (人)

学部・センター	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学領域		6(1)	6(1)	2(0)	1(0)	3(1)	-	-
看護専門領域	健康科学	5(1)	5(1)	4(1)	1(0)	-	-	-
	基礎看護学	8(8)	8(8)	1(1)	1(1)	3(3)	3(3)	-
	母性・小児看護学	11(11)	10(10)	4(4)	-	2(2)	4(4)	1(1)
	成人・老年看護学	14(10)	14(10)	5(4)	3(2)	3(2)	3(2)	-
	地域・在宅・精神看護学	13(12)	12(11)	4(4)	1(1)	2(1)	5(5)	1(1)
共同研究講座		2(1)	2(1)	1(0)	1(1)	-	-	-
附属看護キャリア支援センター		2(2)	2(2)	-	1(1)	1(1)	-	-
計		61(46)	59(44)	21(14)	9(6)	14(10)	15(14)	2(2)

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.2 職位別年齢構成

単位 (人)

職位	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
教授	21 (14)	-	1	2	12	6	-
准教授	9 (6)	-	1	6	1	1	-
講師	14 (10)	-	5	6	3	-	-
助教	15 (14)	-	7	7	-	1	-
教員	59 (44)	-	14	21	16	8	-
助手	2 (2)	-	1	1	-	-	-
計	61 (46)	-	15	22	16	8	-

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位 (人)

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	23 (20)	23 (20)	0 (0)
博士後期課程	23 (20)	23 (20)	0 (0)

() の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
研究指導教員	23 (14)	2	4	12	5
研究指導補助教員	0 (0)	-	-	-	-
計	23 (14)	2	4	12	5

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
研究指導教員	23 (14)	2	4	12	5
研究指導補助教員	0 (0)	-	-	-	-
計	23 (14)	2	4	12	5

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.4 職員紹介 (2024年3月現在)

事務局 長	中村 博之
-------	-------

<総務課>

総務課 長	上村 正人
主幹兼係長	中島 晃
主 幹	長谷川 ゆかり
専 門 員	久保石 雄貴
係 主 査	地 藤 拓也
主 事	外 尚之
非常勤嘱託	市塚 武博
非常勤嘱託	安達 幸
事 務 員	田上 弘子
事 務 員	土屋 真寿美

<教務学生課>

教務学生課長	河端 茂久
専 門 員	林 信隆
主任主事	藏谷 光穂
主 事	西野 美紗都
専 門 員	小酒 利恵
事 務 員	赤池 恵子

<附属地域ケア総合センター>

センター長	(兼)塚田 久恵
-------	----------

<附属看護キャリア支援センター>

センター長	(兼)紺家 千津子
非常勤嘱託	一花 麻衣

<附属図書館>

館 長	(兼)岩佐 和夫
専門員(司書)	藤田 一彦
非常勤嘱託(司書)	古橋 和子
非常勤嘱託(司書)	山田 美花

3. 中期計画

3.1 第3期中期計画（2023年度～2028年度）における2023年度計画と実績

3.1.1 2023年度計画の概略（石川県公立大学法人 2023年度計画 概要版より）

計画策定の基本的考え方

第3期中期計画(6年間)の初年度にあたる令和5年度は、中期計画の達成に向けて、3つの柱「教育の質の向上・学生支援及び学生の確保」「研究の質の向上・良好な教育研究環境の整備」「産学官連携・地域貢献の一層の推進」につながる事業に特に重点的に取り組む。

中期計画の3つの柱に関する取組み

項目	看護大	
	内容	
I. 教育の質の向上・学生支援及び学生の確保	①教育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の入試成績や自己効力感等の調査を通じたアドミッション・ポリシーの検証 ・電子教科書等の導入及び導入効果の検証
	②人口減少・少子高齢化の時代における優秀な学生の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の研究室訪問の実施 ・入学者選抜における推薦枠の拡大及び面接方法等の見直しの検討
	③就職・キャリア形成支援、学生満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ティーチング・アシスタントによる学修支援内容の検証 ・学修等の悩みを気軽に相談できる体制の強化 ・入学時からキャリア実現を相談できる支援体制の強化
II. 研究の質の向上・良好な教育研究環境の整備	④研究の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決につながる研究の推進 ・共同研究講座を開設し、新たな看護ケア方法に関する産学共同研究を推進
	⑤教育研究環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教育力・研究力の強化に向けた高度で先進的な教育研究装置の整備 ・大学のデジタル化に向けた環境の整備 ・看護実習におけるサテライト演習室の確保
III. 産学官連携・地域貢献の一層の推進	⑥地域貢献の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職者対象の人材育成事業や、自治体と連携した健康増進活動の実施 ・研究内容を発信するためのシーズ集の作成 ・特定行為を含む認定看護師教育課程の開講準備

その他の主要な取組み

項目	看護大	
	内容	
IV. グローバル化の進展	①国際交流、国際協力の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・海外から看護系教員を招聘し、国際交流研修を実施
V. 経営基盤の維持強化	②ガバナンス機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長および学長のリーダーシップのもと、大学における様々な課題への対応等、戦略的かつ円滑な大学運営を推進
VI. 大学運営の改善、大学の認知度向上	③積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な情報発信のためのホームページの改修、大学紹介動画・ポスターの作成

3.1.2 2023年度実績の概略

(石川県公立大学法人 2023年度業務実績報告書の概要より抜粋)

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育課程及び実施体制の充実

(1) 新科目の導入

- ・「臨床推論・臨床判断演習」を新たに導入し、患者の状況を的確に把握、看護ケアを提供するアセスメント力を向上

(2) 教育のDX推進

- ・新1年生からの電子教科書を導入しペーパーレス授業を開始、操作に不慣れな学生のため情報ガイダンスを実施
- ・患者の状況をリアルに再現したシミュレーションルームでの実習など先進的なシミュレーション教育に取り組む他大学を視察

(3) 多様な研究方法を学修できる環境の整備

- ・共同研究講座「看護理工学」の教員2名を、大学院の指導教員に認定

(4) グローバル化の推進

- ・アメリカから看護教員2名を招聘し講演会を5回開催、延245人の学生・教員が聴講
- ・タイ人留学生、韓国出身の石川県国際交流員を招きインターナショナル・カフェを開催

2 学生の確保

〈学士課程〉

- ・大学ホームページの内容を充実し、スマートフォンやタブレットでも見やすいものに改修
- ・夏と秋のオープンキャンパスで教員の研究を紹介するミニイベントの実施
- ・学校推薦型選抜入学試験における1校あたり推薦枠を3人から5人に拡大

〈大学院課程〉

- ・研究者情報・研究シーズ集を作成、学部生に研究に関する情報を提供

3 学生への支援

(1) 学修を支援

- ・「電子教科書の操作方法などに関する相談窓口の周知」や「学習管理システム内にサークル紹介のページを作成」など学生の要望に対応

(2) キャリアプランの実現を支援

- ・1年生を対象としたキャリア支援セミナーを2月に開催
- ・国家試験対策として、3年生模試や、4年生に模試の結果に応じて補習を実施

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

4 研究及び産学官連携・地域貢献の推進

(1) 地域の課題解決につながる研究の推進

- ・かほく市の働き盛り世代の健康増進のための取り組み

(2) 産学共同研究の推進

- ・サラヤ(株)との共同研究講座
「看護理工学」の開設
- ・(株)モルテンとの共同研究講座
「ウェルビーイング看護学」の開設に向けた協定を締結

(3) 教員の科学研究費補助金申請支援

- ・研究サポート集会の開催や、申請書類作成を指導し、令和5年度の新規申請件数が44件と法人化以降最多

(4) 地域における看護の質向上への支援

- ・県内の看護職を対象とした事例検討会を開催
- ・医療機関からの要請に応え、看護研究の講師として6病院に延べ21人を派遣
- ・県の委託事業「看護教員現任研修」及び「皮膚・排泄ケア研修」を実施

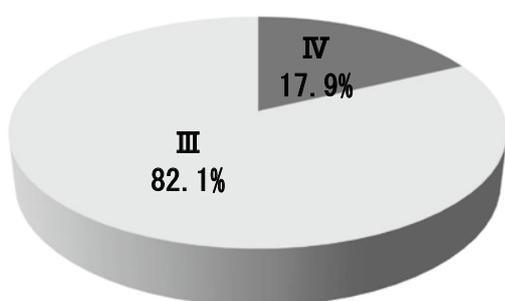
(5) 認定看護師教育課程の令和6年度開講に向けた準備

- ・皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の教育機関として日本看護協会から認定特定行為研修の研修機関として厚生労働省から指定
- ・皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の入学試験を実施、全国から71名の応募があり、30名が合格（うち県内11名）

(6) 令和6年能登半島地震における被災者支援

- ・金沢市内の避難所での健康観察、感染予防等運営支援
- ・輪島市内の高齢者施設での褥瘡ケア及び相談、助言
- ・県立田鶴浜高校の生徒に大学の実習設備等の教育環境を提供

項目別評価の状況



項目	IV	III	II	I	計
教育	1	18	0	0	19
研究	2	2	0	0	4
地域貢献	2	2	0	0	4
グローバル化	0	1	0	0	1
計	5	23	0	0	28

業務運営の改善・効率化に関する目標

1 ガバナンス機能の強化

- ・学長のリーダーシップを発揮できる学内運営体制を構築するため、将来構想委員会及び運営連絡会議を開催
- ・看護学部長を新設

2 事務組織等の整備と効率化

- ・倫理委員会への申請や情報システム利用のための学内手続きをオンライン化
- ・教育研究審議会等の各種会議をペーパーレスで開催

3 両大学間連携の推進

- ・両大学の合同研究発表会・FD研修会を3年ぶりに対面で開催

4 教員にインセンティブを与える仕組み

- ・単年度教員評価の本格運用に向けて、インセンティブを与える基準について検討

財務内容の改善に関する目標

1 令和6年能登半島地震の被災学生への授業料等の減免

- ・法人独自の授業料及び入学金、受験料の減免制度を創設し、学生の学びの継続を支援

2 外部研究資金の獲得

前年度比 ▲34,412千円/+16件

(R5 : 247,730千円/109件、R4 : 282,142千円/93件)

自己点検評価及び情報提供に関する目標

1 大学への評価を活用した取り組み

- ・ 認証評価機関の提言を踏まえ、修了生が大学院で身につけた学修成果を勤務する医療機関で役立っているか確認できるものにアンケート内容を修正

2 大学の活動に関する情報発信

- ・ 大学案内をリニューアルしたほか、大学院案内及び大学PRポスター、大学院PRポスターを新たに作成し、県内高校や医療機関等に配布

その他業務運営に関する目標

1 良好な教育研究環境の整備

- ・ 計画に基づく吸収式冷温水機の改修等
- ・ 動物実験棟の整備
- ・ 看護スキルスラボの整備等、看護教育のDX推進

2 全学的な安全衛生管理体制の整備

- ・ 衛生委員会が職場巡視を実施、グラウンドやテニスコートに常設していた大型用具を危険のない場所へ移動

4. 看護学部看護学科

4.1 理念・目標

4.1.1 教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

4.1.2 教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成
人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。
2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成
看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。
3. 調整・管理能力を有する人材の育成
保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。
4. 国際社会でも活躍できる人材の育成
国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。
5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成
社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

看護とは、「様々な健康レベルの人々が、その人らしく生活できるよう援助する仕事」です。そのため、専門的な知識・技術はもちろん、命を大切にする心や人間としての豊かさが求められます。

本学では以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を広く求めます。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎学力を身につけている。
2. 人間や生命に関心を持ち、保健・医療・福祉分野で活躍・貢献したいという目的意識を持っている。
3. 周囲の人と協力して物事を進めることができる。
4. 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表現できる。
5. 自己学習・自己啓発を継続する意欲がある。

4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技術などを修得できるように、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を体系的に編成しています。教育内容、教育方法、教育評価について以下のように定めています。

〈教育内容〉

学生が大学での学修に適応するための科目を初年次より配置する。加えて、人間科学・健康科学・看護学の科目間の連携を図り、それらを統合して学べるように科目を配置する。

看護専門領域に「健康・疾病・障害の理解」「看護の基本」「看護援助の方法」「看護の実践」「看護の発展」の科目を配置する。また、人間の成長、発達、健康の維持増進から終末に至る健康問題を科学的に評価し、生活・療養の場に応じた看護の必要性を学べるように設定する。

さらに、様々な状況に対応できる能力、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力、将来を切り開いていく能力を統合・発展させるための科目を段階的に学べるように設定する。

〈教育方法〉

幅広く総合的に看護を学ぶことができるよう、積極的に人々の生活の場に出向いたり、アクティブ・ラーニング、異学年交流等を活用した講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。

個々の学習深度や能力に応じた指導を行うため、個別学習やレポート課題を課し、フィードバックを行う。

学生のより積極的な学習ニーズに応えるため、外部の客観的評価試験や外部の開講科目（放送大学、シティカレッジ等）を活用する。

学年進行に沿って、学修を統合的に積み重ねることができるよう履修指導を行う。

〈教育評価〉

各科目の学習目標の達成度を評価し、その基準は授業計画に示す。加えて、本学の履修規程・学則に基づいて総合的に評価する。

4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

教育理念を基に本学の教育課程に沿って研鑽に努め、指定する卒業単位を修得することで、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成します。

1. 看護の基盤となる豊かな人間性や倫理観と教養を身につけている。
2. 看護職として専門分野における学問内容の知識・技術を修得している。
3. 人間の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、的確な判断ができる。
4. 人々の健康維持と増進、予防、また健康障害から回復過程等、全ての健康段階を連続的に捉え、生活に根ざした支援の必要性を理解できる。
5. リーダーシップを身につけ、自ら多職種と連携・協働することができる。
6. 国際化及び社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

単位（人）	
入学定員	収容定員
80	320

②試験実施日

実施日	
推薦入試・社会人入試	令和 5年11月18日（土）
一般入試前期日程試験	令和 6年 2月25日（日）
一般入試後期日程試験	令和 6年 3月12日（火）

③受験状況等

単位（人、倍）						
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
推薦入試	30	54	54	30	1.8	30(26)
社会人入試	若干名	0	0	0	0	0(0)
一般入試前期	40	87	81	43	1.9	41(37)
一般入試後期	10	134	42	14	3.0	14(13)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況（令和6年3月1日現在）

		単位（人）				
学 年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	5	6	5	3	19
	女性	78	78	75	77	308
	計	83	84	80	80	327

(3) 卒業の状況

①卒業者数 第21期生

		単位 (人)	
区 分	計	入学年度別卒業者数	
		令和元年度以前 入 学 者	令和2年度 入 学 者
卒業者数	74(71)	2(2)	72(69)

() の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況 第21期生 (令和6年3月31日現在)

		単位 (人)					
区 分		県 内		県 外		合 計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
就 職	看護師	40	54.1%	16	21.6%	56 (53)	75.7%
	国公立病院 (独立 行政法人を含む)	31	41.9%	9	12.2%	40 (38)	54.1%
	上記以外の病院	9	12.2%	7	9.4%	16 (15)	21.6%
	保健師	6	8.1%	1	1.4%	7 (7)	9.5%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0 (0)	0.0%
	計	46	62.2%	17	23.0%	63 (60)	85.1%
進 学	大学院博士前期課程	4	5.4%	0	0.0%	4 (4)	5.4%
	養護教諭特別別科	3	4.1%	3	4.1%	6 (6)	8.1%
	その他	0	0%	1	1.4%	1 (1)	1.4%
	計	7	9.5%	4	5.4%	11 (11)	14.9%
	未 定	0	0.0%	0	0.0%	0 (0)	0%
	合 計	53	71.6%	21	28.4%	74 (71)	100.0%

() の数字は内数であり女性の数を示す。 割合は、総数74人を100%としたもの

③主な就職先 第21期生 (令和6年3月31日現在)

県内	県外
石川県立中央病院	富山大学附属病院
金沢大学附属病院	金沢医科大学氷見市民病院
金沢医科大学病院	高山赤十字病院
JCHO金沢病院	国家公務員共済組合連合会虎の門病院
金沢市立病院	国立病院機構災害医療センター
石川県済生会金沢病院	順天堂大学医学部附属順天堂医院
公立松任石川中央病院	横浜市立大附属市民総合医療センター
やわたメディカルセンター	横浜市民病院
KKR北陸病院	滋賀県立総合病院
南ヶ丘病院	京都大学医学部附属病院
弘和会訪問看護ステーション	大阪市立総合医療センター
金沢市	神戸市立医療センター中央市民病院
白山市	常滑市 (愛知県)
宝達志水町	
志賀町	
石川県予防医学協会	

4.3 教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めさせるとともに、看護職者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群	社会学	人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
	国際・情報科学系群		英語
情報科学			
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護職者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		老年看護学	
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体)とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。
在宅看護学			
精神看護学			

4.4 委員会活動

4.4.1 常設委員会

4.4.1.1 教務委員会

委員長：桜井 志保美 教授

委員：平居教授（副委員長）、垣花教授、石川教授、戸部教授、臺教授、米澤教授、美濃教授、中道准教授、中嶋（優）講師、曾山講師、千原講師、今方講師

委員補助：中嶋（知）助教、桶作助教、西助手

オブザーバー：川島学部長

事務局：河端教務学生課長、西野主事

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行措置期間であり、円滑なカリキュラム運営に努める。
2. 学生の主体的な活動やアクティブ・ラーニングの授業を実践する。新型コロナウイルス感染症状況を注視しつつ、必要に応じてオンラインを活用する。
3. 医療、社会制度の動向に沿った教育を実施するために、臨床教授等と連携、臨地実習における課題を明確にし、大学と臨床現場双方のニーズや工夫等について意見交換を行う。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 新カリキュラム導入における学修効果等の評価を行う。
2. 単位認定のプロセスを見直す。
3. 異学年交流の機会を確保する。
4. 教育におけるDXの導入を進める。

<今年度の活動実績・評価>

教務の所掌業務に関して、以下の事項について審議し、活動を行った。

1. カリキュラ移行にともなう新・旧カリキュラムの学生への同質の学修の機会の提供と履修指導
2. 随時試験・定期試験の時間割と試験監督の決定
3. 時間割、教室の配置
4. 非常勤講師用の任用
5. 成績判定・修得単位および卒業要件の判定
6. 石川コンソーシアムのシティカレッジの科目提供と受講科目の成績判定
7. 臨床教授等の称号付与、臨床教授等との意見交換会
8. 特別講義の実施
9. 卒業研究に関する教員および学生配置

10. 卒業研究発表会の実施

11. 令和6年度看護学実習計画・実習暦

12. 成績評価に関する申し合わせ事項案、履修規定案を検討し教育研究審議会に提出

－評価－

1. 新カリキュラムでは、臨床推論・臨床判断演習（2年後期）を開講した。2年次旧カリキュラムと新カリキュラムのGPAを比較すると新カリキュラムの平均GPAは、前期・後期とも低かった。これは、特に優れた成績を適切に評価判定するため成績評価の見直しを実施したことや多くの学生が能登半島地震により被災したことが関係した可能性がある。学生委員会を連携し学修支援を進めている。
2. 単位認定のプロセスに成績評価判定会議を導入した。該当期に開講された科目責任者全員で、成績評価判定を確認後、教授会に提出した。成績評価方法について、成績評価に関する申し合わせ案、履修規定案を提出し、教育研究審議会で承認され、次年度から運用予定である。
3. 異学年交流の機会を設けている科目は、HHC（ヒューマン・ヘルス・ケア）と国際看護演習である。HHCにおいて、前期では、異学年が所属している班は9班中2班のみであった。フィールド実習の最後の講義にHHC成果発表会を組み入れたところ、後期履修登録において20名の1年生が加入し、すべての班で異学年交流が可能になった。国際看護演習Ⅰは、1年生5名、2年生10名、3年生10名、4年生5名が履修した。異学年で構成するグループ分けを行い、課題に取り組み、発表を行った。異学年との交流が楽しかったと、多くの学生が感想に記載していた。
4. 1年生からペーパーレス授業を導入した。入学当初に情報ガイダンスを実施、その後も必要に応じて情報端末の機器の使用について学生支援を実施した。ペーパーレス試験実施について、前期定期試験実施結果から、図を描かせる回答用紙を提出する場合、本学の通信環境では対応困難になることが予測された。後期定期試験では、回答に図を描かせる、日本語・アルファベット以外に文字を用いる課題については、通信環境が整うまでペーパー試験での対応可とし、予定通り後期定期試験を終えた。実習記録のペーパーレス化に向け、DX記録部会を立ち上げ、検討している。基礎看護実習Ⅰについて、実習施設と調整し大きな問題なく実習を終了した。基礎看護学実習Ⅱ、Ⅳ段階実習、Ⅴ段階実習に向けて、臨床教授等との意見交換会において、記録システムの説明と意見交換会を実施した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ・カリキュラム移行期間であるため、引き続き学修効果等の評価を行う。
- ・新たに導入する成績評価基準について評価を行う。
- ・国内外の活動参加や異学年交流の機会を確保する。
- ・新たに2年生がペーパーレス授業開始となるため、体制を整備する。
- ・実習記録の電子化に向けて臨地実習先と調整し、基礎看護実習Ⅱに電子実習記録を導入する

4.4.1.2 学生委員会

委員長：米田 昌代 教授（学生部長）

委員：市丸准教授、松本（智）准教授、金子准教授、田村講師、大江講師、工藤講師、

大橋講師

委員補助：野沢助教、嶋助教、千田助教、高濱助教

事務局：河端教務学生課長、林専門員、西野主事

活動内容：

<前年度までの課題>

1. サークル活動の活発化: コロナ禍の影響を受け、サークル数の減少、活動の低迷下が続いている。
2. 初年次学修支援ガイダンスの時期: 4月末であったため、時期としては遅かった。
3. 学生主体による大学祭開催: 参加人数が少なく、1年生の巻き込み方や学生が主体的に動けるような教員のサポートの在り方が課題である。
4. コロナ禍の影響による異学年交流の不足

<今年度の目標・年度計画>

1. 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、新規サークル立ち上げを呼びかけたり、既存のサークルの復活を促し、サークル活動の充実を図る。
2. 学生からの初年次学修支援ガイダンスの開催時期を早めてほしいという要望を受けて、4月の初旬～中旬に実施できるよう準備する。
3. 大学祭の参加人数の増員・学生主体の運営について学生が主体的に動けるような大学祭のサポートの在り方を考える。
4. 上記1～3の活動等を通して、異学年交流がより一層進むように支援する。

<今年度の活動実績・評価>

1. ガイダンス等において、新規サークルの呼びかけ、既存サークルの復活をよびかけた。その結果、新規サークルとして、英語サークルKENA、バスケットボールサークル、フットサルサークル、音楽サークルの4つのサークルが立ち上がり、合計10サークルが活動している。また、サークル活動が活発化するように、サークル室・体育館更衣室の整備、サークル長を集めた会議等を実施した。さらに、サークル顧問の役割について、再確認し、文書化した。活動内容としては、「看護大学子育て応援隊ひよっこ」が高松地区での子ども食堂の開催を熱望し、委員会が調整し、8月に外部団体と連携し、大学内での「夏休みハーフ学童」の開催を実現した。「災害ボランティアサークルふたば」は日頃の活動成果を能登半島震災復興ボランティア活動において発揮し、活躍している。
2. 今年度の初年次学修支援ガイダンスは4月17日に開催し、中旬までには実施できた。今年是对面で開催し、2年生3名を選出し、授業の受け方、勉強の仕方、試験対策、サークル活動、アルバイト等について1年生の事前質問に合わせて、自分の体験に基づき話してもらった。アンケートの結果から、不安が軽減し、今後活かすことができる内容であったと評価される。来年度はより速い時期の開催を目指したいと考える。
3. 大学祭においては、第24回看大祭「テーマ: 繋 (つなぐ～新たな時代を一步ずつ～)」(10月21日)の開催を支援した。模擬店やステージ企画ではかほく市の方々にご参加いただいた。約500名の方に来場いただき、盛況であった。今年度は1年生を初期から企画に巻き込んだり、決起会を開催し、士気を高め、多くの学生が参加できるように工夫した。しかし、学生の

主体性の尊重と支援教員の関わり方については継続課題である。

4. 今年度の上記1～3以外の教員が関わった異学年交流・自治会活動について以下に示す。昨年度よりは、自治会主催で新たな行事も企画され、参加人数は限られてはいたが、少しずつ、活発化してきている。しかし、今年度は2年生にリーダー的存在がいたことにより、進められたが、次年度に関しては難しい現状である。この2年生の作ってきたものをつないでいけるように支援していく必要がある。

4月 7日 新1年生歓迎会（自治会主催）自己紹介ゲーム・サークル紹介

参加人数 学生:95人、教員:7人、計:102人

4月 8日 桜ウォーク(自治会主催)→ 雨天 スポーツ大会・ビンゴ大会

参加人数 学生:55人(自治会:13人)、教員:10人、計:65人

5月29日 学生大会(自治会主催) 参加人数 学生:157人(自治会:17人)

6月29日 スポーツ大会(ドッジボール)(自治会主催)

参加人数 学生:48人(自治会:17人)、教員4人、計:52人

8月 8日 3年生と4年生の交流会(3年生実習調整委員) 進路・実習・就活

3年生58名(実習調整員含む) 4年生10名(領域別連絡委員)

11月 2日 1年生と2年生の交流会(クラス委員) 基礎Ⅱ実習前対策

1年生84名 2年生10名

12月18日 大学との座談会(自治会主催) 学生18名(自治会17人) 教職員8名

2月 1日 バレンタイン企画(生チョコ作り)(自治会主催)

学生:31人(自治会:16人)、教員:3人、計:34人

2月14日 3年生と4年生の交流会(3年生 国家試験委員7名)

3年生70名 4年生11名

3月14日・15日 3年生と卒業生のオンライン座談会(担任・さくら会)

卒業生7名 参加学生 各回3～10名 合計のべ37名

視聴回数 各回1～16回 のべ60回

3月16日 卒業生へのメッセージ集の作成、配布、掲示(自治会主催)

5. その他の活動

- 1) 開学記念日(5月29日)において聖隷クリストファー大学看護学部の小池武嗣先生をお招きし、特別講演「デジタルで描く看護の未来～新しいチャレンジとチャンス」を実施した。参加人数は123名であり、1年生以外少なかったが、学生の感想には、「DX化することによって看護の質があがった」「DX化は今後の看護に活かしていけると思うと夢が広がると思った」等が記されており、学生はもちろん教員にとっても興味深く理解しやすい内容であった。午後の進路セミナーは今年は様々な分野(認定看護師・企業・開業・研究所等)で活躍している人をお呼びして企画したが、学生の参加人数が38名(後日オンライン視聴24名)とこれまでにない少なさであり、全学的に参加者を増やすしかけを作らなくてはならないと考える。学生の感想には「自分の未来にはまだまだ可能性が広がっていることをよく理解できた」「看護を自己実現の手段として何をしたいのか、改めて考え直したい」等が記されており、視野を広げることができていた。
- 2) 前年度からの継続課題である効果的な担任制度の見直しを実施した。担任制度とともに、委員会の役割・人員も見直し、改革案を作成し、次年度から実施予定である。改革のポ

イントは教授をリーダーとした1学年5名体制で4年間継続して担当すること、学生委員とは兼務せず、役割を分担し、担任に負担が大きいかからないような学生支援体制としたことである。

- 3) 卒業研究・成績優秀者、自治会活動、サークル活動、ローカルチャレンジプログラム修了等で活躍した学生に対して、卒業式にて学長表彰を実施した。
- 4) 学生自治会と教職員の座談会(12月18日)を開催し、学生の要望を聞くとともに、建設的な話し合いを実施した。要望に応えられるところ、改善すべきところ(教科書、授業方法等)については教職員に周知した。
- 5) 在学生アンケートを12月・2月のクラスアワー時に自己点検評価委員会と合同で実施し、88%(1問のみ69%)の回答率が得られた。結果から、睡眠不足、電子機器の学習以外の使用時間の長さ、アルバイト時間の多さ、課題の多さ、予習・復習時間がとれていない、大学の相談先の活用が少ないことが明らかになった。今後は学生にアンケート結果をフィードバックし、自己の生活を振り返ってもらう予定である。
- 6) 能登半島地震発災に伴い、学生の被災状況とメンタルヘルス状況の調査を実施した。その結果を各担任と共有し、被災学生を見守る体制を作った。また、経済的支援が受けられる情報についても提供し、調整した。現在も継続的にメンタルヘルス状況を確認し、支援の必要な学生の早期発見に努めている。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 新担任制度実施において、スムーズな運用になるか、各担任の意見を聴取しつつ、学生相談に費やす時間の推移を評価しながら、課題を抽出していく必要がある。
2. コロナ禍前の学生活動には戻っていないため、学生の主体性を尊重しながらも、活発化していくための学生支援の在り方を考える必要がある。
3. 被災した学生の継続的フォロー。

4.4.1.2.1 学生相談専門部会

部会長：米田 昌代 教授

部会員：大橋講師、河合助教、瀬戸助教、高濱助教、河端教務学生課長、小酒養護教諭

心理カウンセラー：堂本

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 高校時代にコロナ禍の影響を受けた学生たちが入学してくることにより、メンタルヘルスに問題を抱えやすい学生が増える可能性がある。
2. 作成した「学生のメンタルヘルス危機対応指針」の実際の活用と課題の抽出

<今年度の目標・年度計画>

1. メンタルヘルスの維持向上のためには、メンタルヘルス問題の早期発見のための啓発活動、教職員に対するメンタルヘルスへの対応に関する研修、学生自身のメンタルヘルス研修等を今後企画し、対策していく必要がある。
2. 新たな保健室を中心としたメンタルヘルスへの対応がスムーズに進むように、新しく着任

する養護教諭・カウンセラーと話し合いを十分に行い、体制を整えていく。

3. 相談員の学生相談に関わる実態の把握（継続）

<今年度の活動実績・評価>

1. 教職員に対する研修は実施していないが、次年度の新年度ガイダンスの全学集会において、メンタルヘルセルフケアについての講演を企画した。また、能登半島地震発災後の自己のメンタルヘルスの状況を知ってもらうために心理尺度を配信し、セルフコントロール、人に相談することの必要性について伝えた。コロナ禍の影響を受けた学生のメンタルヘルス不調に関しては特にみられなかった。
2. 昨年度作成した「学生のメンタルヘルス危機対応指針」に基づいて、チームが結成され、迅速に関係者と対策を講ずることができた。現在のところ教員が一人で抱え込むことはなく、チームで関わるということに関しては、スムーズな運用ではあるが、保健室を中心とした体制づくりというのは難しく、関わった教員、学生部長を中心とした体制になっている。今後、保健室・スクールカウンセラーが中心に関わっていく体制作りが継続課題である。
3. 相談員の学生相談に関わる実態の把握
 - 1) カウンセリング「ほっとルーム」を2回/月（第2木曜日：13:30～17:30、第4木曜日：14:00～18:00）の定期に開室した。カウンセリングの年間のべ相談件数は33件（1年1件、2年0件、3年11件、4年21件、大学院生0件）であり、その内の10件はオンライン面談であった。また、カウンセラーへの保健室担当者および教員の年間コンサルテーションは25件であった。
 - 2) 相談を受けた学生には、本人が情報共有を許可した教職員間（学生部長、担当教員、学年担任、学生相談部員、保健室担当者、カウンセラー、進路アドバイザー等）で連携し、継続的にサポートした。また、緊急性の高いケースでは、学生の意思を尊重しながら早期にカウンセラー・医療機関へ繋いだ。
4. その他
 - 1) 昨年作成した障がいがある学生への修学支援が実施されるまでのプロセスのフローチャート案と修学支援申請書・決定書を障がいを理由に活用する学生はいなかったが、事故・怪我等で身体的に通学・講義受講において配慮すべき事案が生じた場合も、修学支援申請書・決定書を活用して対応することとした。今年度は使用しなかったが、次年度より使用することとする。
 - 2) 学生相談部員による「ほっとルーム便り」を年間4回発行し、カウンセリングの周知、学年暦に応じた心身への健康維持に必要な情報等の発信を行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 次年度から相談部会メンバーは縮小され、学生部長・養護教諭を中心に適宜問題のある学生に関連した担任、科目担当教員等で情報共有・支援していく形式に変更することとなった。この体制で問題となる学生の早期発見、対応に支障がないかみていく。
2. 「学生のメンタルヘルス危機対応指針」の効果的運用について継続的に取り組む。
3. 障がいがある学生への修学支援の効果的運用と課題の抽出（使用する学生がいた場合）

4.4.1.2.2 進路支援専門部会

部会長：松本 智里 准教授

委員：戸部教授、濱教授、米澤教授、寺井准教授、大江講師、大西講師、日高講師

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1) 県外だけでなく、県内の就職試験も早まっているため、3年前期から就職相談対応をしたり、就職説明会への参加を促したりして、卒後の進路に対する意識付けを早期から行う。
- 2) 低学年からのキャリア支援を継続する。
- 3) 国家試験対策の1つである強化学習を希望者も含み行う。

<今年度の目標・年度計画>

- 1) 希望とする進学・就職先の受験・内定ができるよう支援する。
- 2) 国家試験で学生の力が最大限発揮できるよう学習支援、学習環境調整を行う。
- 3) 卒後の進路に対する意識付けを早期から行うため、全学年へのキャリア支援を行う。

<今年度の活動実績・評価>

1) 進路支援

- ①4年生への進路支援は、8名のアドバイザー教員による担当制で行った。
- ②県外を就職希望する学生には、3年後期から進路支援アドバイザーによる支援を行った。
- ③4年生74名全員の就職・進学先が決定した。

2) 国家試験対策：看護師国家試験合格率100%、保健師国家試験合格率100%

- ①4年生が主体となって、模擬試験の年間計画立案、実施を行った。感染対策や大雪を想定して冬季の模試試験の実施方法をオンラインとした。能登半島地震により、1月開催の模試が受験不可となったが、オンライン対応としたことと、被災した学生には受験締め切りを伸ばしたことで、希望者は全員受験できた。
- ②進路アドバイザーが模試試験結果をもとに個別に支援をした。
- ③強化学習として、模試試験の成績不良者と強化学習の参加希望者を対象に、学習方法の支援、必修問題、一般・状況設定問題への強化を図った。
- ④国家試験6日前に、教員が作成した必修問題を用いて試験を実施した。
- ⑤4年生を対象に、看護師対策3回、保健師対策2回の補習を行った。

3) 全学年へのキャリア支援

- ①5月29日の開学記念日に「様々な分野で活躍する先輩の話を聞き自分の進路に活かそう」をテーマに、卒業生を含む5人の講師に講演していただいた。60名程度の参加があり、病院で勤務する看護師以外にも看護職として様々な分野で活躍できる可能性があることと理解できたことがアンケート結果から得られた。
- ②マイナビ看護学生による講座

【就職支援ガイダンス】

- 6月22日（木）13時～14時半 本学大講義室 参加者：3年生80名、教員8名
2月14日（水）11時～12時 本学大講義室 参加者：3年生77名、教員12名

前年度は初回の就職支援ガイダンスを8月に行っていたが、夏季休暇期間に多くの施設で開催されるインターンシップや就職説明会に参加することを推奨するために、今年度は6月の開催とした。全国規模で学生の就職支援をしている外部業者にガイダンスを依頼することで、県内だけでなく全国の就職活動の動向を学生に伝えられた。

【キャリアデザイン講座】

2月9日（金）14時45分～16時10分 参加者：1年生80名、教員5名

今年度の新たな取り組みとして、低学年から自分のキャリアについて意識してもらうために、キャリアデザイン講座を導入した。講義後にストレートマスターのすすめの動画を視聴した。自己分析の重要性や低学年からキャリアを見据えることの必要性を実感していることがアンケート結果から得られた。

③3年生を対象に低学年模試を実施した。

- ・第1回 7月20日（木）9～12時 本学大講義室 参加者：3年生82名
- ・第2回 2月14日（水）～3月14日（木）第112回看護師国家試験問題に取り組んだ。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- 1) 3年後期からの就職支援を継続する。県外就職者だけでなく、県内施設の魅力も周知できるように座談会などを利用する。
- 2) 卒後の進路に対し、低学年から意識しつつあるので、低学年からのキャリア支援を継続する。
- 3) 国家試験対策の1つである強化学習を希望者も含み行うことを継続する。

4.4.1.3 研究推進委員会

委員長：峰松 健夫 教授

委員：石川教授、濱教授

事務局：長谷川主幹

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 科研費等外部研究費獲得の拡大
2. 研究報告会・交流会等の対面開催

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 研究ウェルカムセッション

昼休み時間帯を利用して、全教員参加の下、本年度着任の教員（講師以上）がこれまでの研究活動を紹介する。

2. 学内研究助成成果報告会

昨年度末で終了した学内研究助成による研究成果を対面形式のポスターセッションで発表する。

3. 石川県立大学・県立看護大学合同研究発表会

石川県立大学および本学の教員の研究発表、ならびに両大学による共同研究の正解発表を行う。

4. 科研費申請支援

科研費に申請する教員のうち希望者を対象に、申請課題のトピックに関するディスカッション、および申請書のレビューを行う。

5. 研究助成金申請支援

申請締切の近い民間団体等の研究助成金情報の一覧を作成し、定期的に配信する。また、希望者には科研費申請支援と同様の支援を行う。

<今年度の活動実績・評価>

1. 研究ウェルカムセッション

日時：令和5年6月5～6日 12:15～12:55

形式：Zoomによるライブ配信

演題：米澤洋美教授（地域看護学）：団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築、臺美佐子教授（成人看護学）：がんサバイバーのウェルビーイング向上を目指して～リンパ浮腫研究のこれまでとこれから～、戸部浩美教授（小児看護学）：Enhancing family resilience in the Community、長谷川陽子共同研究講座准教授（共同研究講座看護理工学）：看護理工学を用いた栄養モニタリング方法の確立、佐能唯講師（人間科学）：転倒リスクに関する病的跛行及び加齢に伴う歩行特徴量抽出

2. 学内研究助成成果報告会

日時：令和5年5月4日 13:00～14:00

形式：対面形式によるポスター発表

演題：石川倫子教授（基礎看護学）：新人看護師の入職後1年間におけるコミュニケーション能力の変化と影響要因、今井秀樹教授（健康科学）：高齢化が進む地域に居住する住民の健康状態を決定する様々な要因とその複合影響の検討、岩佐和夫教授（健康科学）：筋細胞内オルガネラにおける免疫制御因子発現調整機構の解明、岩佐和夫教授（健康科学）：筋芽細胞の分化過程における免疫制御因子発現と外部誘導因子の解明、牛村春奈助手（在宅看護学）：在宅Parkinson病療養者の低栄養状態予防に向けた舌・咀嚼機能と接種栄養に関する研究、紺家千津子教授（成人看護学）：PROGを活用した本学学部生との教育評価と課題の探求、池上暁（院生）・牧野智恵教授（成人看護学）：便秘のある進行がん患者をケアする訪問看護師の困難感の経験、天日更織（院生）・瀧澤理穂助教（成人看護学）：新型コロナウイルス感染症の感染拡大における終末期がん患者家族の経験、額奈々助教（老年看護学）：就寝前の足浴による認知症高齢者の夜間睡眠への影響（予備的調査）、平居貴生教授（健康科学）：Fibroblast growth factor (FGF21)、平居貴生（健康科学）：生物時計システムと骨代謝の機能連関に関する基盤研究、松本郁海（院生）・金谷雅代准教授（小児看護学）：AYA世代がんサバイバーの雇用促進に関連する事業所側の要因、宮田広成（院生）・塚田久恵教授（地域看護学）：アルコール依存症者が断酒会継続参加に至る逡巡過程

3. 石川県立大学・県立看護大学合同研究発表会

日時：令和5年9月22日 14:50～17:10（合同FD研修会に続けて開催）

形式：対面形式による口頭発表

演題：東出大志講師（石川県立大学）：自動撮影カメラを通して観る野生動物の現状と生態、
中嶋優太講師（人間科学）：西田『善の研究』前後の新資料からみた自由論、宮島俊
介講師（石川県立大学）：植物の根の形成を制御する分子メカニズムの解明、大貝和
裕共同研究講座教授（共同研究講座看護理工学）：細菌叢からアプローチする褥瘡再
発予防、宮口和義教授（石川県立大学）・垣花渉（人間科学）：両大学共同 研究足元
から見直す姿勢改善プロジェクトー草履サンダル導入による姿勢・歩容の変化ー

4. 科研費申請支援

- A. トピックディスカッション：23名24回のディスカッションを実施
- B. 申請書レビュー：レビューアー 9名で9件の申請書をレビュー
- C. 科研費申請実績：申請課題数39、採択課題数16、採択率41.0%

※選考中の挑戦的研究2件を除く

5. 研究助成金申請支援

令和5年5月以降、毎年研究助成金情報を全教員に発信した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

科研費等の申請支援においては、特に准教授の申請および挑戦的研究への申請の支援に重点を置き、さらなる採択率向上に努める。

4.4.1.3.1 学内研究助成専門部会

委員長：垣花 渉 教授

委員：峰松教授、桜井教授

事務局：長谷川主幹

活動内容：

本部会は、学内研究助成全般のあり方の検討、学内研究助成に関する申請書類の審査、報告書の評価、予算案の提案を主たる活動とする。

学内研究助成に関する申請書類の審査を2回行った。令和5年3月に令和5年度学内研究助成（研究プロジェクト）第1期の募集を行った。採択件数は6件であった（申請7件）。令和5年9月に令和5年度学内研究助成（研究プロジェクト）第2期の募集を行った。採択件数は6件であった（申請6件）。

令和5年6月に1件、10月に1件、令和6年3月に3件の令和5年度学内研究助成（研究成果公表）の申請があり、5件承認された。

令和5年8月に1件の令和5年度学内研究助成（学会開催助成）の申請があり、1件承認された。

4.4.1.4 石川看護雑誌編集委員会

委員長：濱 耕子 教授

委員：今井（秀）教授、紺家教授、米澤教授

委員補助：瀬戸助教、桶作助教

事務局：中村主幹兼係長、外主事

活動内容：

<前年度までの課題>

外部査読制をとらない、且つ本投稿論文が博士論文の申請条件でなくなった本誌は、学術論文としての存続が難しく、大学院生や教員を筆頭とする応募が減少すると予想された。

本誌の新たなあり方について、具体的な対策1)～3)の視点から検討する必要がある。

- 1) 学部生など応募対象の拡大
- 2) 査読体制や投稿スケジュールの見直し
- 3) 論文形態の選択肢を増やす

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 新たなあり方を踏まえた本誌の発刊が無事に終了する。
2. 本誌の新たなあり方と対策について昨年度に引き続き意見交換を行い、共有する。
3. 本誌への投稿が円滑に行えるよう、投稿規定等の見直しを図る。

<今年度の活動実績・評価>

1. 「石川看護雑誌」(第21巻)が本誌の新たなあり方を踏まえて発刊された。

本学独自の活動のアピールになるように、原著論文以外に総説や資料、研修活動報告等による依頼原稿を含め、積極的に投稿を受け入れる方向で進めた。

具体的には、卒業生を筆頭とする卒業研究の内容で原著論文3編、依頼原稿として海外視察と本学の地域貢献事業報告による資料2編の計5編を掲載した。依頼原稿への査読はせず、委員長による校正作業で進めた。予定通り、第21巻は3月末に発刊された。

2. 本誌の新たなあり方と対策について図書館長と編集委員会で検討し、共有した。

- ・視察関連や研修活動等(フィールド実習やヒューマンヘルスケア含む)、最新の学術情報やトピックの発展的な報告を依頼原稿として受け入れる。
- ・依頼原稿の場合、査読は課さない。そのため、投稿スケジュールは通常原稿より遅く開始したり、各締め切りを臨機応変に調整する。
- ・論文形態は、総説、原著論文、資料のままとする。

3. 投稿規定等の見直しについて

第1回編集委員会(7月26～28日のメール会議)にて、検討した本誌の新たなあり方と対策に沿って、発行規定ならびに投稿規定を見直した。

8月4日に改訂作業を終え、9月5日の教育研究審議会にて石川看護雑誌編集委員会規程を添え、発行規定ならびに投稿規定改訂の承認を得た。

<次年度以降に向けた課題・発展>

今後は、石川県内看護職の人材育成や看護の質の向上に役立つ報告等、より多くの現場での取り組みについて掲載できるように検討する。例えば、本学附属の地域ケア総合センター、看護キャリア支援センター事業では次年度から本誌資料での報告を推奨している。これに合わせて、石川看護雑誌編集委員会規程、発行規定ならびに投稿規定についても改訂が必要になってくる。

本誌の配布先や配布数についても、本誌の新たなあり方や掲載内容から検討していく必要がある。

4.4.1.5 情報システム委員会(含む情報セキュリティ)

委員長：峰松 健夫 教授

委員：市丸准教授、佐能講師、中嶋(知)助教

事務局：外主事

活動内容：

<前年度までの課題>

本学のDX推進に連動し、LMSやメールシステム、ファイルサーバーへのアクセシビリティ等について検討、対応、および周知に努める。また、情報システム機器更新に伴う各種調整、対応、教育等を行う。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 教職員を対象とした情報セキュリティ研修
2. 学生を対象とした情報セキュリティ教育
3. 情報資産管理システムによるソフトウェア・ライセンス及び情報機器の適正な管理
4. Moodleの運営・管理のサポート
5. サンダーバードに代わるメールシステム導入のサポート

<今年度の活動実績・評価>

1. 教職員を対象とした情報セキュリティ教育を動画のオンデマンド配信にて行った。
2. 令和5年4月4日 市丸委員(本学Moodleマネージャー)が教職員および大学院生を対象としたMoodle研修会を開催した。
3. 本年度より実施されているDX化に伴うWi-Fi通信速度に関する問題提起を、教務委員会およびDX推進委員会と強調して行った。
4. LMSを用いた講義資料掲載における著作権の注意事項を整理し、周知を行った。
5. Microsoft365のアカウント更新、およびメースシステムの変更のサポートを行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

本学におけるDXのさらなる推進に伴い、通信環境やファイルサーバーへのアクセシビリティ等について、実態の把握、改善の検討、および適正な使用方法等の周知に努める。

4.4.1.6 広報委員会

委員長：平居 貴生 教授

委員：真田学長、川島教授(学部長)、小林教授(研究科長)、米田教授(学生部長)、岩佐教授(附属図書館長)、塚田教授(附属地域ケア総合センター長)、紺家教授(附属看護キャリア支援センター長)、桜井教授、中道准教授、曾山講師、中嶋(優)講師、大西講師、大橋講師、瀬戸助教、後藤助教、中村事務局長、小幡アドミッションアドバイザー

事務局：久保石専門員

活動内容：

1. 次年度以降に向けた課題・発展

- 1) ポストコロナ時代のオープンキャンパス開催方法を検討する
- 2) 高校生が利用しやすいHPに改修する
- 3) YouTubeチャンネルの動画コンテンツを充実させる

2. 目標・年度計画

- 1) 参加型オープンキャンパスの開催
- 2) 大学ホームページの改善

3. 今年度の活動実績・評価

1) 夏のオープンキャンパス

日時：7月15日（土）9時40分～13時30分

参加者：対面355名（保護者94名を含む）

- 4年ぶりの対面オープンキャンパス開催であった
- オープンキャンパスグッズの作製（水、ボールペンなど）
- 大学説明会（学長挨拶、学部長による入試制度の説明）
- 模擬講義（松本勝准教授）
- 学生によるキャンパスライフの紹介
- 看護体験×ミニ模擬講義（看護系の実習室、スキルラボで体験や見学）
- 個別相談コーナー（高校生対象）
- 個別相談（保護者対象）
- 研究ミニイベント（事前予約）
- 施設見学（語学演習室、情報処理室、図書館、スキルラボなどを開放）

2) 秋のオープンキャンパス

日時：10月14日（土）9時30分～12時

参加者：対面151名（保護者58名を含む）

※夏と同様に対面での開催であった

3) キャンパスネットIPNU（大学新聞）

①第43巻（2023年5月号の編集・発行）

単科大学でありながら多様な研究に取り組む本学の大学院の魅力を伝えるため、特集は「創ろう！看護のミライ」をテーマに各分野の研究内容の紹介記事を掲載した。

②第44巻（2023年11月号の編集・発行）

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、人と人との交流が活発さを取り戻す中で、「今ふたたび ふれあいを大切に、学生生活を！」と題した特集を掲載した。

4) 大学案内（学部・大学院）広報誌の発行

①2024大学案内の企画立案・編集・発行

②2024広報誌の企画立案・編集・発行

5) ホームページ

受験生をメインターゲットとして、より使いやすく、かつ、スマートフォンで閲覧した際に見やすくなるよう構成等を全面的に改修した。

6) 大学コンソーシアム石川

①広報事業：石川の大学ガイドブック「イシカレ」編集に協力

②出張オープンキャンパス事業（野々市明倫・門前・星稜・金沢錦高等学校）

③「学都石川」高校教員向けキャンパスツアー受け入れ

10月4日（7名受け入れ）

7) その他の広報活動

①大学・大学院PRポスターの作成

②大学PR動画の作成（大学公式YouTubeチャンネルに追加）

4.4.1.7 入学試験委員会

委員長：真田 弘美 教授（学長）

委員：紺家教授（副委員長）、川島教授、小林教授、今井（秀）教授、平居教授、亀田教授、市丸准教授、中村事務局長

事務局：河端課長、藏谷主任主事、小幡アドミッションアドバイザー

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1 令和8年度以降の入学者選抜試験における「情報」科目の本学の利用に関して
- 2 学部と大学院の受験者増に向けた対策の強化

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- 1 学部と大学院共に、受験者増に向けた入試改革と広報活動を図る。
- 2 今年度より実施した学校推薦型選抜の1校当たりの推薦者数の増加の評価をする。
- 3 その他の入試委員会が担当する役割を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

<今年度の活動実績・評価>

- 1 学部と大学院共に、受験者増に向けた入試改革と広報活動

1) 学部

- ・令和8年度入学者選抜試験における共通テストの科目と配点、および個別学力試験等を見直した。
- ・入試面接評定票の評価項目をさらにアドミッションポリシーに合致するように見直した。
- ・アドミッションアドバイザーによる高校訪問に加え、高校での進路ガイダンスや合同進学説明会に入学試験委員会委員を派遣した。
- ・大学説明会及び意見交換会を8月1日に実施し、北陸3県の高校教諭29名の参加があった。
- ・石川コンソーシアムによる「高校教員向けキャンパスツアー」事業にて、県外の高校教諭7名を対象に入試委員会にて本学の特徴を説明した。

2) 大学院

- ・令和6年度実施の入試から、学内選抜と学外選抜を一本化とし、入試科目を見直した。また、今年度より早期に入学生を確保するために受験時期を9月から8月とした。

- 2 今年度より実施した学校推薦型選抜の1校当たりの推薦者数の増加の評価

- ・21校より応募があり、内6校より4名以上受験者し、倍率は前年より0.2ポイント上昇した。

- 3 本年度の本学の学部入試、大学院入試また大学入試共通テストにおいて、入試実施にかかわる重大なトラブルはなかった。また、令和6年能登半島地震があったことより、入試にお

ける地震対策マニュアルを共通テスト用と前期・後期日程用で作成し、運用した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- 1) 看護学部受験者増に向けた本学の独自性の創出
- 2) 大学院受験者の開拓

4.4.1.7.1 入試実施部会

部会長：非公開

部会員：非公開

活動内容：

1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
3. 大学入学共通テストの会場準備・実施体制およびそれに付随する業務
4. 看護キャリア支援センターが実施する感染管理認定看護師教育課程入学試験の実施支援

4.4.1.7.2 入試評価部会

部会長：市丸 徹 准教授

部会員：非公開

活動内容：

<前年度までの課題>

- ・「情報」科目の本学入試への導入を判断するための指標を検討する。
- ・本学の推薦・社会人入試、一般入試における面接試験の点数配分の変更に伴う合格者への影響を把握し、評価する。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- ・本学の学部入試における面接の評価方法について、入試委員会から見直すように指示を受けた。これまではA～D評価とし、それぞれに配点していた（内訳は非公開）。これにより合否が学力点から逆転しうること、ブロック評価に点数を付すことは不適切との議論があり、令和5年度（令和6年度入試）からは点数評価に変更することとなった。これに伴い部会にて、配点基準や評価方法を検討することとなった。
- ・本学の入試における「情報」科目の利用については、県下高校の教育体制が整ってきた時点での再検討となるが、入試委員会からの指示はなく、令和5年度における部会の目標からは除外された。

<今年度の活動実績・評価>

- ・5月15日、23日、31日、6月8日の4回、対面での部会会議を開催した。第1回では部会での年度目標を説明し、面接試験の問題点、改善点について意見交換を行った。第2回ではアドミッションポリシーと面接評価基準との対応および配点案を検討した。第3回では新しい評価基準に相応する質問例を議論し、面接評定票の改訂にも着手した。入試委員会での確認を挟み、第4回では面接評定の流れについても整理し、面接実施要領を改訂した。

- ・推薦社会人入試、一般前期入試における面接の実施と、面接官からのフィードバックをもとに、面接評定票を適宜改訂した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ・面接方法と合格者の入学後の成績との関係については、入試委員会、IR評価部会にて引き続き解析が求められる。
- ・入試評価部会は令和5年度をもって解散される。

4.4.1.8 自己点検・評価委員会

委員長：真田 弘美 教授（学長）、岩佐 和夫 教授（委員長代行）

委員：今井（秀）教授（副委員長）、今井（美）教授（副委員長）、金子准教授（年報編集部会長）、川島教授（副委員長、学長補佐）、小林教授（研究科長）、紺家教授（学長補佐、看護キャリア支援センター長）、桜井教授（教務委員長）、塚田教授（地域ケア総合センター長）、中村事務局長、濱教授（教員評価部会長）、松田准教授（IR推進部会長）、美濃教授（FD委員長）、米田教授（学生部長）、

委員長補助：河合助教、後藤助教、瀧澤助教

事務局：外主事

委員会開催頻度：5月、7月、9月、11月、2月、3月 計6回開催

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1) 大学基準協会における大学評価で示された改善課題報告書の提出（2023年7月末まで）
- 2) 公立大学評価機構における大学評価（2026年）に向けた本学における取り組みの評価と報告書の作成準備
- 3) 学生委員会、FD委員会、PROG調査の結果評価と学習成果改善に向けた方策を検討
- 4) 単年度教員自己評価の試行と施行後評価
- 5) 本学のIR活動の推進と探究
- 6) 年報における個人業績の明確化と大学自己評価としての活用
- 7) 第3期中期計画における令和5年度計画の実施

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- 1) 大学基準協会における改善課題報告書の提出
- 2) 公立大学評価機構における大学評価（2026年）に向けた報告書の作成準備
- 3) 学生委員会、FD委員会と協働して学生アンケート実施
- 4) 単年度教員自己評価の試行と自己評価報告会の開催
- 5) 本学のIR活動の推進
- 6) 年報における個人業績の明確化と大学自己評価としての活用
- 7) 第3期中期計画における令和5年度計画の実施

<今年度の活動実績・評価>

- 1) 大学基準協会における改善課題報告書の提出（2023年7月）
学部・院の学位授与方針に定めた学修成果の測定・把握方法及び活用法の改善および内部質検証委員会の提言に対する活動内容をまとめた報告書を2023年7月に提出し、大学基準協会より2024年2月21日付けで結果が通知された。
- 2) 公立大学評価機構における大学評価（2026年）に向けた報告書の作成準備
公立大学評価機構における大学評価に向けた評価項目の確認とこれらの項目に関する年報の記載事項を確認した。
- 3) 学生委員会、FD委員会と協働して学生アンケート実施
教育の内部質保証の確保と評価を行うため、学生委員会、自己評価委員会にて在学学生および卒業生アンケートを行った。
FD委員会における授業アンケートについても実施し、教授会で内容を評価し、各教員へのフィードバックを行った。
外部機関によるジェネリックスキルのアセスメントテスト（PROG調査）を行った。
- 4) 単年度教員自己評価の試行と自己評価報告会の実施
教員の評価を数値化し目標設定を明確にするために、自己評価にエフォート率、KGI・KPIを取り入れた単年度教員自己評価方法を試行した。自己評価の根拠および2023年度の目標設定のためのメンターとの面接、学長評価と面談を実施した。さらに研究・教育・社会貢献報告会を2023年5月22、29日および2024年3月6日に行った。
- 5) 本学のIR活動の推進
IRにおけるデータ利用に関し学部4学年にIR活動での学内データ使用について説明を行い、書面での同意書を取得した。取得率は約8割であった。
- 6) 年報における個人業績の明確化と大学自己評価としての活用
年報の記載方法を講座ごとにまとめ、個人業績の明確化を行った。また、公立大学評価機構の評価項目に準じた年報の作成を行った。
- 7) 第3期中期計画における令和5年度計画の実施

【3つのポリシーの検証】

- ① 時代が求める看護職者の人物像を調査し、アドミッション・ポリシーの検証を行う。
- ② 卒業生がカリキュラム・ポリシーに沿った教育が受けられ、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質や能力を備えているか調査し、見直しにつなげる。
 - ・ 12月に在学学生に対し学生生活に関するアンケートを実施した。アンケート結果よりアドミッション・ポリシーに順じた学生の入学を確認し、ポリシーを継続することとした。
 - ・ 入学時の成績やその後の学力や自律性等の調査について、12月に学生にデータ使用の説明を行い、同意書を取得した。IR部会が中心となりデータのクリーニングを開始した。
 - ・ 2月に卒業生に対しアンケートを実施した。その結果からディプロマ・ポリシーに掲げた資質や能力を備えていることを確認した。

【ディプロマ・ポリシーの在り方の検証】

- ① アンケート調査等によりディプロマ・ポリシーに定めた学修成果を把握し、教育現場へフィードバックする。
 - ・ 2月に卒業生に対し行うアンケートを実施した。この結果を3月7日の自己点検・評価委員会にて卒業生に対する学修成果を確認し、情報を共有化した。

- ・ 3月4日に石川県内の医療機関の看護部、看護協会、高等学校校長会の委員等を交えた懇談会を開催し、本学および卒業生に求められる資質に関する聞き取りを実施した。

【時代に即したポリシーの見直し】

- ① 大学院の教育理念と時代に即した看護職者、教育・研究者の育成を踏まえ、アドミッション・ポリシーの検証を行う。
- ② 修了生がカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーで掲げている資質や能力を備えているか調査し、検証する。
 - ・ 大学院の在り方とアドミッション・ポリシーとの整合性を大学院教務委員会、将来構想委員会、教育研究審議会にて協議し、ポリシーは継続していくが、見直しについても継続して検証を行うことを確認した。
 - ・ 大学院における論文審査を振り返り客観的に評価するため審査の内容の審議を2月16日の研究科委員会にて行い、各論文審査委員会にて指導内容や指摘事項が修了生の能力の評価において適切であったことが確認された。
 - ・ 2月19日に修了生に対するアンケート調査を実施した。

【ディプロマ・ポリシーのあり方の検証】

- ① 修了生へのアンケートやヒアリング等を通して、大学院の教育成果を検証し、必要に応じて教育内容を改善する。
 - ・ 2月19日に修了生に対するアンケート調査を実施した。その結果に基づき大学院教務委員会、将来構想委員会、教育研究審議会にて教育内容の検証を行い、R6年度以降の教育内容は継続していくこととした。

【アンケートを活用した評価体制の充実化】

- ① 学生への授業評価アンケート、卒業生・修了生・就職先等に対するアンケートの分析結果を教員にフィードバックし、教育の質の向上につなげる。
 - ・ 学生に対し授業アンケートを実施、アンケート結果を9月7日および3月18日の教授会で提示した。学生の授業への満足度は各教科とも8-9割と高く、今後もわかりやすい授業に務めることを確認した。
 - ・ 学生への他のアンケートについては12月に、卒業生・修了生へのアンケートは2月に実施し、3月7日の教授会および自己点検・評価委員会にて内容を教員へフィードバックした。各教科の課題が多く、睡眠時間が削られている実態が明らかとなった。アンケートの結果の一部は学生にもフィードバックすることとなった。
 - ・ 学生の生活における問題点、授業への取り組み状況、就職情報や指導の満足度、ディプロマ・ポリシーの達成度等の分析結果を教員および学生にフィードバックを行った。

【教員評価制度の活用、適材適所の人事】

- ① 教員自己評価の方法を見直し、単年での評価方式を試行し、適材適所の人材配置につながるかを検証する。
 - ・ 単年度教員自己評価について全教員が目標およびエフォート率を設定し提出を行った。
 - ・ 自己評価の結果および業績の達成度を検証し、3月6日の研究・教育・社会貢献報告会にて発表を行った。また、「適材適所の人材配置」の検討を学長・学部長を中心として実施し、R6年度の各委員会の人材配置を行った。

【教員へのインセンティブ制度】

- ① インセンティブを与える基準について検討する。
 - ・ 単年度教員自己評価の結果を踏まえ、インセンティブについて11月9日、3月7日の自己点検・評価委員会において協議を行い、優秀な教員に対し表彰を行うこととした。インセンティブを与える基準については引き続き検討していくこととした。

【各評価結果の反映、運営の改善】

- ① 自己点検評価、認証評価機関による評価、石川県公立大学法人評価委員会による評価結果を、大学運営の改善に活用する。
 - ・ 石川県公立大学法人評価委員会が行う法人評価の指摘について、教育研究審議会、自己点検・評価委員会および研究科委員会にて情報を共有し、教員の資質について真摯に受け止め、教員の採用基準を明確にし、人間科学講座・健康科学講座教員のキャリアアップの基準を文書化した。
 - ・ 大学院の指導教員が必要とする論文数（査読あり3本以上）を明確化した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- 1) 公立大学評価機構における大学評価（2026年）に向けた本学における取り組みの評価と報告書の作成準備
- 2) 学生委員会、FD委員会、PROG調査の結果評価と学習成果改善に向けた方策を検討
- 3) 単年度教員自己評価の施行と評価
- 4) 教員の研究・教育・社会貢献の報告会開催
- 5) 本学のIR活動
 - ・ 入試形態と成績の関連についてのデータ分析と結果報告
 - ・ IRや自己点検評価委員会外からの分析依頼への対応の規則決め
 - ・ IRデータの使用・借用依頼などに対する規則決めと受付体制の構築
 - ・ R6年度以降、同意書を取るタイミングと実施者（R5年度は松田が実施）
- 6) 年報における個人業績の明確化と大学自己評価としての活用
- 7) 第3期中期計画における令和6年度計画の実施

4.4.1.8.1 教員評価部会

部会長：濱 耕子 教授

部会員：寺井准教授

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 新単年評価の仮試行状況を評価する目的で全教員にアンケートを行い、2024年度の評価実施、その後の改訂により評価のあり方を見直す。
2. 1次評価者との相談体制をしくことで、講座での関係構築や業務の円滑な進行等の波及効果が期待される。仮試行後の評価に活かしていく。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 新単年評価の仮試行状況に関して、全教員にアンケートを行う。
2. 実施年度に向けて仮試行のアンケート結果や試行時の課題を踏まえ、新単年評価シートの

検討を行う。

<今年度の活動実績・評価>

1. 新単年評価の仮試行状況を振り返り、評価する目的で全教員にアンケートを行った。

11月下旬～12月初旬にアンケートを実施し、12月全体会議にてアンケートの結果報告を行った。

評価シートの記載例の理解しやすさは普通を含め計6割、1次評価への負担感は2～3割にとどまった。評価による教員の意識変化として「講座や1教員としての役割を考える機会となり良かった」ことや「評価を経験して慣れてきた」ことから、次年度は現在の方法で評価を実施することへの承認が得られた。

2. 実施年度に向けて仮試行のアンケート結果や試行時の課題を踏まえ、新単年評価シートの検討を行う。

4月の全体会議時に、試行版では目標設定・認証が4～5月になる旨の説明を行った（仮試行版の際は、仮評価案決定後の年度末の2月であった）。

仮試行のアンケートでは、評価領域「教育・研究支援」の記載が難しいと3分の2の教員が回答し、その理由に「教育、研究、社会貢献の評価領域と重なる」、「研究支援の対象に講座で指導対象となる教員や院生も含めるのか」という意見があった。そこで、2024年2月の試行版1次評価案内時には、評価領域「教育・研究支援」に関する目標設定（KGI、KPI）についてどのような立場で関わるか、職位や状況別に具体例をいくつか提示した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 新単年評価の実施と改訂（評価体制の構築）

実施状況の検証と改訂に取り組み、KGI・KPIおよび講座の指導者や学長による1次評価により、目標達成率を更に高められるよう評価体制を構築する。

2. 教員評価結果の活用や教員評価データベースシステム化の可能性の検討

自己点検・評価委員会や学長の責任において、大学内の人事管理や配置、大学間・施設間協働・連携のために人材ポートフォリオとしての戦略的な活用可能性について検討する。

4.4.1.8.2 年報編集部会

部会長：金子 紀子 准教授

部会員：中嶋（知）助教、額助教

事務局：外主事

活動内容：

<前年度までの課題>

- ・新様式を活用した講座単位での教員業績となるため、校正依頼等が円滑となるよう進める必要がある。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- ・教員業績の校正は、講座単位で依頼した。とりまとめ教員によるデータ形式での提出を基本とし、校正編集作業の効率化を図った。

<今年度の活動実績・評価>

- ・年報第23巻（令和4年度）の発刊。
- ・年報第24巻（令和5年度）の発刊に向けた原稿依頼では、委員会活動の原稿が統一されるよう留意事項の内容を見直し、周知した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ・各委員会の活動内容が統一された年報第24巻が発刊される。このほか必要に応じて、年報の内容、原稿依頼の方法等を検討する。

4.4.1.9 FD委員会

委員長：美濃 由紀子 教授

委員：大西講師、田村講師

事務局：藏谷主任主事

活動内容：

1. 新入職員のオリエンテーション

新入職員に対して、本学の学部・大学院教育および研究、地域ケア総合センター、看護キャリア支援センター、図書館についてのオリエンテーションを行った（4月、10月）。学部・大学院教育のオリエンテーションは対面で実施し、その他のオリエンテーションはオンデマンド型の動画視聴による受講とした。個人のスケジュールに合わせて視聴が可能であった点や再視聴できる点において、受講者からはより理解しやすかったという声が聞かれた。

2. 教員の【教育力の改善と向上】のためのFD研修

1) 県立大学との合同FD研修会

石川県立大学との合同FD研修会：2023年9月22日（金）に対面にて開催した。テーマは、「大学教育におけるChatGPT等の生成系AIへの対応を考える」とし、石川県立大学の本多裕司教授に「石川県立大学の教員が考える生成系AIとの付き合い方」について話題提供をいただいた。その後、合同のグループディスカッションを行った。研修会の参加者数は、県立看護大23名、県立大30名の計53名であった。評価アンケートの回答数は40名、回答率は75%であり、回答者の約80%が満足と回答していた。ChatGPT等の生成系AIへの対応については、両大学の教員の共通する懸念事項であったことから、各職位の立場からディスカッションできたことが効果的であったと評価できた。

2) 教育力向上のためのFD研修会

FD委員会主催（学長企画）によるFD研修会：2023年12月1日に全教職員対象として対面にて開催した。「人類の持続的発展の科学」というテーマにて、公立小松大学顧問の林勇二郎先生よりご講演をいただいた。参加者数は、教員45名、事務職員4名の計49名であり、評価アンケートの回答数は40名、回答率は84%であり、回答者の約78%が満足と回答していた。中でも、普段我々が意識することの少ない看護とは異なる壮大なビジョンから大学の組織的な教育をインクルージブに捉えるための指針を得るのに貢献したと評価できた。

3) ハラスメントFD研修会

FD委員会主催（ハラスメント委員会共同企画）によるFD研修は、株式会社ビズアップ

が提供するオンデマンド動画の視聴と確認テストの受講による研修とした。視聴期間は、2024年2月19日から3月11日とし、全教職員76名を対象として実施した。採用動画は、e-JINZAI for universityの中のハラスメントに関するトピックを教員用と事務職員用にFD委員がカスタマイズした内容のもので、非常にわかりやすく理解につながった、空き時間に視聴でき効率的であったなどの意見が聞かれた。

4) 教職員に向けた研修に関する広報活動

石川県や他県の大学コンソーシアム、他大学等が開催する先進的な教育力向上のFD研修への参加を教員に促し、そこで得られた情報を随時メールにて発信し共有した。これまで、FD委員より外部研修の案内の発信や研修参加への推奨を行ってきたものの、実際に教員が年間にどのくらいの数の研修に参加していたかについては大学全体として把握できていなかったため、教員全体にアンケート調査を行った。その結果、対象者49名に対して回答数は31名、回答率は63%であった。外部研修に参加したと回答した者が97%であり、積極的に研修会の参加している教員がほとんどであった。参加回数としては、0回～25回幅があったものの、1人あたりの平均としては4.55回であり、教員は自己研鑽のために学外の研修に積極的に参加していることが明らかとなった。このように教員がのびのびと自己研鑽の活動ができることは、大学からの個人研究費が充実していること、無料で受けられる研修の機会が多いこと、オンデマンドや遠隔での参加ができる内容のものが増えたことによる移動時間や拘束時間の最小化が利点となっていることがうかがわれた。

3. 学生による授業評価の実施

授業評価の実施・評価・分析を実施した。

昨年度、学生委員委員会と合同で授業評価項目を検討し、今年度からはより教員の授業の評価に特化した項目となって開始した。前期と後期の2期に渡って、Moodle「学習管理システム (Learning Management System; LMS)」を用いて、学生による授業評価を実施した。授業評価の結果は、評価アンケートの回収率、各科目・質問項目ごとの得点を集計し、平均得点を一覧表にまとめた。その結果を、前期と後期と2回に渡って教授会にてフィードバックを行い授業改善に活用するように呼びかけた。結果としては、学生の総合的満足の評価は高く、「授業準備」「特色のある教育」の項目が特に高かった。「アンケート回収率」については、昨年度に比べると飛躍的に上昇しているが、教員によって差がみられること、非常勤講師による講義の回答率が低いことが課題としてあげられた。今後、適切な評価を行うためには、回収率の改善は必須課題であり、担当教員と担当事務職員へ回収率の増加に向けた工夫を行うこと、教員自身も学生評価に対する意識を高めるよう周知した。

4.4.1.10 ハラスメント委員会

委員長：真田 弘美 教授

委員：小林教授、岩佐教授、米田教授、紺家教授、塚田教授、中村事務局長

ハラスメント相談員：岩佐教授、田村講師、大江講師

活動内容：

<前年度までの課題>

- ①2022年4月からのパワーハラスメント防止措置の義務化についての学内への継続的な周知
- ②ハラスメントのないキャンパスの醸成

<今年度の目標・年度計画>

- ①パワーハラスメント防止措置として研修会の開催
- ②ハラスメントのないキャンパスの環境整備
- ③ハラスメント事案が生じた場合の適切な対処
- ④性の多様性を鑑みた学内の啓発活動と環境整備

<今年度の活動実績・評価>

- ①新学期のガイダンスで学生と教職員にパワーハラスメント防止措置の義務化と相談体制等について周知した。
- ②ハラスメントの起こりにくい環境として、個室における面談時の入り口の開放を周知した。
- ③FD委員会と合同で2024年1～2月にハラスメント研修（e-learning）を実施した。ハラスメント（疑い）として委員長に3件の事案の相談があったが、提訴者から丁寧に聞き取り、環境委整備等により問題の解消が図られ、検討の俎上には載せる必要がないことを確認した。
- ④性の多様性を鑑みた学内の啓発活動と環境整備に向けて、学生部長と学部長が研修を受講して次年度以降の活動の準備を開始した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ①ハラスメントのないキャンパスの醸成
- ②ハラスメント事案が生じた場合の適切な対処
- ③性の多様性を鑑みた学内の啓発活動と環境整備

4.4.1.11 コンプライアンス委員会

委員長：小林 宏光 教授

委員：中村事務局長

事務局：林専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

前年度までに本学において研究倫理・コンプライアンスに関する重大な問題は生じていないが、これを継続しコンプライアンス遵守の風土を醸成する。

<今年度の目標・年度計画>

研究会の実施など倫理委員会や総務課など関連部署と連携し、教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。特に今年度は学内にCOI委員会が新設されたことから、これに関する研修を重視する。

<今年度の活動実績・評価>

令和6年3月1日（金）にコンプライアンス委員会・倫理委員会・COI委員会の合同研修会を開催した。内容は以下のとおりである。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 研究不正防止に関して | 総務課 外主事 |
| 2. 利益相反（COI）に関して | COI委員長 今井秀樹教授 |
| 3. 倫理申請の変更点について | 倫理委員長 米澤教授 |
| 4. 確認テストの実施方法 | コンプライアンス委員長 小林教授 |

昨年度は情報システム委員会からの説明があったが、今年度は新設されたCOI委員会からの説明に変更した。当日参加できなかったものへの配慮として、説明会の内容を録画し後日視聴できるようにした。説明会内容の理解を確認するためのオンライン小テストを実施し、合格者に受講証を発行した。3月末までの合格者は教員・大学院生あわせて89名であった。

<次年度以降に向けた課題・発展>

研究倫理ガイドラインの変更等は常に生じるので、次年度以降も新たな変更点や課題に対応できるよう研修内容をアップデートしていく必要がある。

4.4.1.12 倫理委員会

委員長：米澤 洋美 教授

委員：小林教授、今井（秀）教授（11月迄）、戸部教授、臺教授（1月～）松本（勝）准教授、大江講師、大西講師、中嶋（優）講師

事務局：地藤主査

活動内容：

<前年度までの課題>

人を対象とした生命科学・医学系研究倫理指針（令和4年一部改訂）に準拠した倫理委員会の運営体制を整えること

<今年度の目標・年度計画>

- ①倫理審査を適切かつ迅速に行い、本学の教員・学生の研究推進を図る。
- ②人を対象とした生命科学・医学系研究倫理指針（令和4年一部改訂）に準拠した倫理委員会の運営体制の下、学生・教員への周知を徹底する。

<今年度の活動実績・評価>

①倫理審査の実施

本年度1年間で一般審査件33件、迅速審査71件で計104件の審査を行った。R4年度は78件であり30%あまりの増加であった。

②新倫理審査システムの運用

- ・R5年5月より本学HP画面より倫理審査システムの申請を可能とし、申請の手引き、申請様式等の整備を行った。
- ・厚生労働省研究倫理報告システムに、審査結果を随時UPした。
- ・教育・研修体制として基本および継続研修を定め、倫理審査申請資格と定義づけた。
- ・研究責任者への研究の中止、終了、継続の年次報告について、新システムを通じての報告を義務化した。

③倫理研修の実施

R6年3月1日に学内教職員向けにコンプライアンス合同説明会を行った。この説明会はコンプ

ライアンス委員会、情報セキュリティ委員会と合同開催であったが、倫理委員長が「次年度の変更点について」と題し40分ほど説明を行った。

＜次年度以降に向けた課題・発展＞

R5年3月に倫理指針の一部改訂、R5年7月に施行となっているため、本学の倫理規定ならびに、手順書の見直しを進めており、その早期改定を目指している。

4.4.1.13 衛生委員会

委員長：中村 博之 事務局長

委員：岩佐教授、河合助教、千田助教、外主事、小酒囑託、中川産業医

活動内容：

＜前年度までの課題＞

- ・コロナ禍による行動制限緩和後初の対面による消防訓練の実施
- ・放置傘や破損・放置されたベンチなどの適切な処理

＜今年度の目標・改善点・年度計画＞

- ① 教職員のストレスチェックを実施し、労働環境の現状把握と改善の検討を継続する。
- ② 職場巡視を実施し、学内の衛生管理が適切性の検討を継続する。

＜今年度の活動実績・評価＞

1. 職場巡視

職場巡視前に職員からメールにて情報収集を行ったうえで、3回（6月、12月、3月）職場巡視を実施し、学内の施設・設備等の安全衛生管理が適切か確認した。

2. 定期健康診断

受診状況を調査し、「職員保健だより（春号）」やメールにて職員に受診を勧奨した。

3. ストレスチェック、長時間労働

法人の指示に基づき、職員のストレスチェックを7月18日～8月1日に実施した。

職員（転任、新任を含む）にリーフレット「自分の時間外労働について考えよう 働き過ぎて疲れていませんか？」（衛生委員会作成）を配布した。

4. 防災訓練

防火管理者の主導のもと、職員及び学生の防災訓練を7月13日に実施した。コロナ禍のため新しい生活様式を考慮した訓練とした。地震対応訓練の実施と避難経路や消火栓・消火器、AED、車椅子等の設置場所、消火隊の組織や役割等の説明を行った。

5. 「職員保健だより（春号）（冬号）」の発行

春号では、定期健康診断の受診勧奨、新型コロナワクチンQ&Aについて掲載した。冬号では、インフルエンザウイルスQ&A、ストレスのセルフケアについて掲載した。

6. その他

- ・長期間使用されていない錆びたサッカーゴールやテニスコートの審判台、椅子を危険のない場所へ移動した。
- ・衛生上問題のある放置傘を一括廃棄した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

来年度は消防訓練をコロナ禍前と同水準に戻し実施する。実施に当たって教職員説明会を開催し、各自の役割理解を深め、円滑な実施を目指す。

長年放置され座面の木材や骨組みが腐りつつあるベンチを随時更新する。

4.4.1.14 動物実験委員会

委員長：峰松 健夫 教授

委員：岩佐教授、大貝共同研究講座教授、長谷川共同研究講座准教授、市丸准教授

事務局：久保石主事、外主事

活動内容：

<前年度までの課題>

本学にて動物実験を実施できる設備および体制の構築

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 動物実験委員会の新設
2. 動物実験棟および実験室の開設・管理
3. 動物実験教育の開始
4. 動物実験計画の審査・承認

<今年度の活動実績・評価>

1. 動物実験委員会の新設

昨年度動物実験委員会・微生物安全管理委員会準備委員会に置いて整備された動物実験規定に基づき、本年度動物実験委員会が新設された。

2. 動物実験棟および実験室の開設・管理

・動物実験棟：令和5年12月14日承認

・人間病態学実験室・準備室：令和5年12月19日承認

いずれも適切に管理・運用されている。

3. 動物実験教育の開始

令和6年3月20日現在、6名が受講し、確認テストに合格した。

4. 動物実験計画の審査・承認

3件の動物実験計画を受け付け、いずれも承認した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 動物実験教育の充実
2. 動物実験施設の利用拡大

4.4.1.15 微生物安全管理委員会

委員長：峰松 健夫 教授

委員：今井（美）教授、大貝共同研究講座教授、平居教授

事務局：久保石主事、外主事

活動内容：

<前年度までの課題>

本学にて微生物を安全に管理・利用できる設備および体制の構築

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 微生物安全管理委員会の新設
2. 微生物等使用・保管施設確認届の受付
3. レベル2微生物等使用・保管届等の受付

<今年度の活動実績・評価>

1. 微生物安全管理委員会の新設

昨年度動物実験委員会・微生物安全管理委員会準備委員会に置いて整備された微生物安全管理規定に基づき、本年度微生物安全管理委員会が新設された。

2. 微生物等使用・保管施設確認届の受付

・看護デザイン科学実験室：令和5年10月12日受付

3. レベル2微生物等使用・保管届等の受付

本年度は申請がなかった。

<次年度以降に向けた課題・発展>

引き続き微生物等使用・保管施設確認届、およびレベル2微生物等使用・保管届等の受付を行い、必要に応じて適正な使用・保管がなされるよう助言を行う。

4.4.1.16 DX推進委員会

委員長：平居 貴生 教授

委員：岩佐教授、紺家教授、垣花教授、市丸准教授、松本（勝）准教授、佐能講師、大貝共同研究講座教授、中村事務局長、上村総務課長、河端教務学生課長

事務局：西野主事

活動内容：

<今年度の目標・年度計画>

- 1) 本学におけるデジタルトランスフォーメーション(以下「DX」という)を推進する。
- 2) 本学教育DX化構想(2023年度～)の計画、準備、実施の支援を主たる活動とする。

<今年度の活動実績・評価>

1. 電子教科書導入の支援（対象：新入学生）

- 1) 電子教科書の導入方法の検討（教務委員会と連携）
- 2) 新入生ガイダンスにおける説明会の実施（4月）

新入生ガイダンス内で電子教科書の使い方などについて説明した。また、情報システム委員会（市丸准教授）、学生委員会（学生ガイダンス担当教員、学年担任）、アカデミックリテラシー担当教員と協議し、新入生が情報端末を使う環境にスムーズに慣れるよう

努めた。

3) 電子教科書に関するトラブル対応窓口（教務学生課）の設置

学生が抱える問題について、教務学生課が集約し、DX推進委員が個々のトラブルに対応した。

4) 電子教科書導入に対する評価

7月にアンケートを実施（対象：令和5年度入学生）

2. 情報端末の必携化に向けた環境整備

1) ICTを活用したアクティブラーニング、グループワークや体験学習、事前・事後学修、オンライン授業の実施、レポート・課題作成に対応可能な情報端末の大学推奨スペックの検討・紹介（対象：令和5年度入学生、令和6年度入学生）

2) 大講義室の改修（電源の確保）

3) 講義室の改修案の作成

委員会にWG（岩佐教授、松本（勝）准教授、佐能講師）を設置し、次年度に向けて2-4年次の学生が使用中講義室改修案を作成した。

3. 教育DX化の構想における令和6年度の「学内講義のデジタル化」、「技術演習のデジタル化」、「病院演習のデジタル化」に向けた計画の立案・準備と実施

1) 学内講義のデジタル化

教務委員会と連動し、教科書の電子化に取り組んだ。1年次の各科目における講義資料のデジタル化の推進するために、教員対象のガイダンスを企画した（Moodleを介した資料の配布方法など）。さらに、情報端末のトラブルに関する学生相談会を年2回実施した（市丸准教授、松本（勝）准教授、佐能講師）。また「学修データの活用による次世代学修計画プロジェクト」を立案し、中期計画推進事業に申請した（WG:佐能講師、大貝共同研究講座教授）。

2) 技術演習のデジタル化に向けた準備

DX教育研究部会（部会長松本（勝）准教授）を中心に、2年次以降の演習科目における教育デジタル化による演習内容と評価方法を検討し、次年度の実施体制を整えた。

3) 病院演習のデジタル化に向けた準備と新たな実習記録システムの導入

DX実習記録部会（部会長石川教授）を中心に、実習記録の電子化に向けて準備した。1年次後期から開始する基礎看護実習から実習記録システムを導入した。

<次年度に向けた課題・発展>

電子教科書に関しては準備期間が少なかったが、教務委員会と連携することによってスムーズに導入することができた。しかしながら、一部の学生はデジタル教材に慣れない、あるいは苦手な学生がいるので、そのような学生に対する適切なサポートが必要である。それらの改善のために教員のスキル向上や学生の意見を取り入れたサポート体制の構築が今後の課題である。

4.4.2 特設委員会

4.4.2.1 高校生の探究活動支援ワーキング

委員長：垣花 渉 教授

委員：川島学部長、臺教授、佐能講師、中嶋（優）講師、小幡アカデミックアドバイザー

活動内容：

<今年度の目標・年度計画>

- ・本年度新規に立ち上がったワーキング

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- ・「総合的な探究の時間」で学ぶ高校生の探究活動を、本学の研究の視点から支援する。
- ・本学の研究力を高校へアピールし、研究を志す高校生に対して本学への入学を促す。

<今年度の活動実績・評価>

- ・研究ミニイベント：オープンキャンパス開催時において、本学教員の研究内容に高校生が触れる少人数制のイベントを企画・開催した。今年度は、7月14日午前と10月14日午前に開催し、約80名の高校生が参加した。
- ・高校生の学術集会体験：本学で9月17日に開催された「第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会」に5名の高校生が参加し、特別講演やワークショップを聴講・体験した。
- ・フィールドワーク体験：10月28日に教員が企画・運営した海岸ゴミの収集と分析に関するフィールドワークに、2名の高校生が参加した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ・上記の活動に参加した高校生のイベントに対する満足度は、いずれも極めて高いものであった。そのために、次年度も高校生の探究的な学習を、本学の強みである研究力の観点から支援し、研究を志す高校生へ本学への入学を促したい。

4.5 令和5年度 卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目	
人間科学領域 (14人)	木下 采香 陣出 奈瑠 舩岡 怜奈 宮本 滯奈 豆野 友香	高齢者体験キット着用が歩行動作に与える影響	
	船塚 省吾	自己調整学習理論による高齢者の運動支援の検討 —運動習慣のある高齢者を対象に—	
	北村 彩恵	スモールチェンジ活動による野菜摂取量を増やす実践的アプローチ —働き盛りの労働者を対象に—	
	村田 桃子	スモールチェンジ活動が労働者の形態や運動習慣に及ぼす影響	
	泉 愛莉	砂浜を利用したウォーキングの動作特性	
	原 綾乃 山口 未悠 山本 真帆	食物アレルギー (FA) を有していない者が持つFAについての意識 —交友関係に着目した意識調査—	
	剣村 あい	西田幾多郎の喫煙・禁煙行動についての考察	
	西東 果音	「共に考える」とはどういうことか —哲学カフェの進行を通して—	
	健康科学領域 (15人)	荒木野乃可	人口動態指標と福祉・社会保障関連指標との相関について —都道府県別データを用いた検討—
		梶 寿々寧	離婚率に影響する生活時間について —都道府県別データを用いた検討—
菅田日花梨		合計特殊出生率と栄養素摂取量および食品群摂取量との関連について —都道府県別データを用いた検討—	
石黒 凜奈 茶谷 紗紫 中谷 あい 西浦葉乃子		ヒト横紋筋肉腫細胞 (TE671細胞) を使用したミトコンドリア機能修飾と免疫チェックポイント因子の発現に関する研究	
濱口歩乃果 本谷明日香		「はどめ規定」に該当する若者の性知識から推察する次世代の性教育	

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
健康科学領域 (15人)	相羽 凜花	牛蒡子抽出エキスとその活性成分アルクチゲニンの新規生物作用の探索
	時国 玲羅	
	野村 春香	
	荒勢 りら	HPVワクチン接種意向の関連要因：キャッチアップ世代若年女性において
加藤 玲音		
羽生 心愛		
基礎看護学 (4人)	鹿本菜々子	患者の動作観察から転倒リスクを判断する時の看護師・看護学生・理学療法士の視点の特徴
	高井美叶子	
	関根 彩里	壮年期の慢性心不全患者が働きながら自己管理する中で体験した困難とその対処
	新川 都	
母性看護学 (7人)	河野向日葵	特別養子縁組をした養親が夫婦で協同して子への真実告知を行う過程—複線経路等至性モデルによる一事例の分析—
	中橋 奈智	特別養子縁組をした養親が地域から孤立せずに子育てする過程—複線経路・等至性モデリングによる一事例の分析—
	小間 堇	若年女性の子宮頸がん予防を促すための母親への介入効果；スコーピングレビュー
	小山 愛	避妊についての教育活動と効果に関する文献検討
	島田明日華	父親の育児時間と関連要因についてのスコーピングレビュー
	野崎 光来	海外における妊婦の口腔衛生に関するスコーピングレビュー
	河端 里咲	デスカンファレンスの効果と課題に関する文献検討
小児看護学 (3人)	多田里胡奈	日本の学校看護師に関する研究の現状と課題—地域の小中学校の学校看護師と特別支援学校の学校看護師の比較を通して—
	花野 愛実	被養育態度、自尊感情、レジリエンスが看護系大学生の精神的健康度に与える影響
	松井美夏帆	
成人看護学 (10人)	松崎 雅	終末期がん患者のリンパ浮腫に対する圧迫療法の看護実践～看護師3名の語りから～
	上森 美雨	術後出血の徴候の観察における客観的臨床能力試験(OSCE)評価表の作成
	宮崎 愛	アトピー性皮膚炎において非紫外線光線療法が皮膚に与える影響に関する研究

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目	
成人看護学 (10人)	今村 魁星	初学者を対象とした非対面での直腸エコー教育による技術習得度に対する効果検証：対面教育・遠隔ライブ教育・オンデマンド教育の比較	
	稲實 瑠夏	軽微な組織障害を検出するためのスキンプロットティングを用いたポイントオブケアATP検査の検出試薬の改良と信頼性・妥当性の検証	
	黒橋明日加 武田和日子 福田 未夢	ポジショニングピロー使用によるシーティングの接触圧低減と快適性の検討	
	高松 楓佳 野村 風花	スキンプロットティングによる軽度認知障害スクリーニング法の開発—アミロイドβおよびリン酸化Tauの検出とMCI同定精度—	
老年看護学 (5人)	今井彩也香	長時間の座位で日常生活を過ごす高齢者への立位介入の試み—看護小規模多機能型居宅介護施設でのユマニチュードの実践—	
	相原 令依	看護学生の要介護高齢者に対する家族介護経験—介護経験から得たこと・求める支援に焦点をあてて—	
	小倉 楓	認知症看護認定看護師が行う認知症高齢者への意思形成・表明支援の実態	
	石和日菜美 木村 泰基	外来通院中の慢性心不全患者によるセルフ心エコー実施可能性の検討	
地域看護学 (7人)	石原 亜美 角谷 美幸 寺田 恵理 西 紅羽 橋本 千愛 橋本 知佳 宮下 春菜	地域在住高齢者のeスポーツ体験における効果検証	
	在宅看護学 (5人)	牧野 優花 山形 千春 山本 紀子	A市に暮らす高齢者のフレイルと生活状況、ソーシャルキャピタルの実態
		中 ひとみ 一瀬 千尋	生活状況とフレイルとの関連—A市高齢者の現状—

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
精神看護学 (4人)	澤田 萌愛	看護学生の臨地実習におけるストレス対処に関する文献検討
	柴 愛莉	統合失調症患者を主人公とした映画の視聴が疾患・対象理解に及ぼす影響 —看護学生によるインタビュー調査—
	中田 桃寧	精神看護学領域におけるプロセスレコード教育の実態 —国公立大学の学士課程のシラバス調査より—
	稲原 寧々	諦めが日常化した知的障害をもつ精神疾患患者との関わりの再検討 —プロセスレコードを用いて—

5. 大学院・看護学研究科

5.1 理念・目標

5.1.1 博士前期課程（修士）

5.1.1.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2 教育目標

1. 看護学教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

本学の看護学研究科では、入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている。

5.1.2 博士後期課程（博士）

5.1.2.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2 教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を發展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

5.2 大学院生の入学・在学・修了の状況

1. 入学の状況

1) 入学定員・収容定員

課 程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	15	30
博士後期課程	3	9

2) 試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験 (学内選抜)	令和 5年 7月 1日 (土)
博士前期課程入学試験	令和 5年 8月 6日 (日)
博士前期課程入学試験 (第2次募集)	実施なし
博士後期課程入学試験	令和 5年 8月 6日 (日)
博士後期課程入学試験 (第2次募集)	実施なし

3) 受験状況等

課 程	単位 (人、倍)					
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
博士前期課程	10	6	6	6	1.0	6(4)
博士前期課程 (2次)	実施なし	-	-	-	-	-
博士前期課程助産	5	7	7	5	1.4	5(5)
博士前期課程助産 (2次) 実施なし	-	-	-	-	-	-
博士後期課程	3	6	6	6	1.0	5(5)

() の数字は内数であり女性の数を示す
博士前期課程には学内選抜を含む

2. 在学の状況 (令和6年3月1日現在)

課 程	単位 (人)		
	1年次	2年次	計
博士前期課程	12(10)	13(10)	25(20)

課 程	1年次	2年次	3年次	計
	博士後期課程	6(6)	1(1)	9(8)

() の数字は内数であり女性の数を示す

3. 修了の状況

1) 修了者数と修了後の進路状況（令和6年3月31日現在）

単位（人）

課 程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第17期生	11(8)	医療機関
博士後期課程第16期生	3(3)	医療機関・教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2) 修了後の進路状況（令和6年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第19期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	7	4	11(8)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	0	0	0(0)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
合 計	7	4	11(8)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
進 学 大学院博士後期課程	0	0	0(0)
そ の 他 ・ 未 定	0	0	0(0)
合 計	0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第16期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	0	1	1(1)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	2	0	2(2)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
未 定	0	0	0(0)
合 計	2	1	3(3)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3 大学院教務学生委員会

委員長：小林 宏光 教授

委員：石川教授、亀田教授、美濃教授、米澤教授

事務局：河端教務学生課長、林専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

大学院の教育研究環境の一層の充実をはかり、また修士。博士論文の質的な向上も目指す。

<今年度の目標・年度計画>

大学院教育に係る業務を滞りなく執り行う。また大学院の教育研究環境の一層の充実をはかり、また学生の年限内での修了を促進するために必要な処置を検討する。

<今年度の活動実績・評価>

前期・後期課程の単位認定、学生の休学・復学、非常勤講師/臨床教員の申請、TA/RAの申請などの大学院に関する学務全般及び、新入生ならびに在學生へのガイダンスの実施、中間発表会の実施、論文発表会の実施、大学院教育懇談会の実施、修了生のアンケート調査の実施など、例年通り大学院教育に係る業務を担当した。

今年度に行った新規の活動は以下の通りである。

- 博士論文に対する剽窃チェックの導入およびその手順の策定
- 博士論文審査における録音記録の導入
- TAの時間数上限の設定
- 大学院入試説明会の開催時期変更（7月から4月）

大学院入試説明会は従来夏のオープンキャンパスに併せて開催されていたが、大学院入試時期の変更に伴い、7月では効果がないことから4月開催に変更した。R7年度入試向けの説明会はR6年4月に開催されたが、その企画・準備等はR5年度大学院教務委員会が主に担当した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

近年、前期課程も後期課程も入学者数が増えてきており、教務全般をより効率的に運営する工夫が必要である。

5.4 令和5年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	修士論文題目	指導教授
地域・精神・保健学	宮田 広成	アルコール依存症者が断酒会参加の中止に至るプロセス － 複線径路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model) による分析－	塚田 久恵
看護管理学	北山 哲也	2年目看護師が自己目標を達成するためにとる行動	石川 倫子
看護管理学	酒井 和彦	新人看護師教育における実地指導者が行う On the Job Training の実施状況と関連要因	石川 倫子
看護管理学	日向千恵子	若手看護師がキャリア発達における課題を乗り越えるプロセス	石川 倫子
成人看護学	越田 美晴	がん患者の遺伝性乳癌卵巣癌症候群の遺伝学的検査受検への意思決定に関する体験：質的記述的研究	臺 美佐子
成人看護学	窪田 晃奈	思春期・若年成人 (AYA) 世代造血器がん患者の再発告知後の体験：2事例へのインタビューによる質的研究	臺 美佐子
助産看護学	半田 悠理	日本人女性のポジティブボディイメージに影響する要因と体型認識やダイエット行動の関連	濱 耕子
助産看護学	宮谷 愛美	出生前検査に関する相談への看護職が行う初期対応の現状と課題	米田 昌代
助産看護学	尾田 朋香	若年女性の緊急避妊薬使用に対する助産師の認識とスイッチOTC化への支援に対する考え：10～20代女性の緊急避妊薬使用支援経験のある助産師への半構造化面接	米田 昌代
助産看護学	西谷 音々	子宮頸がん予防プログラムのHPVワクチン接種促進効果に対する母親の影響：キャッチアップ接種事業対象の女子大学生を対象とした前後比較研究	亀田 幸枝
助産看護学	丹後 京香	キャッチアップ接種事業対象である娘の子宮頸がん予防プログラムに参加した母親が娘のワクチン接種に及ぼす影響	亀田 幸枝

5.5 令和5年度 博士論文題目一覧

氏 名	学 位 論 文 題 目	指 導 教 授
前川 弓枝	早期産褥期の母親を対象とした「ママにっこり安心子育てプログラム」の効果の検討	小林 宏光
桶作 梢	AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティに関する情報共有ツールの開発	濱 耕子
松本 美晴	Study on Respiratory Modulation of Superficial Vein Diameter as an Application for Venipuncture (静脈穿刺への応用のための表在静脈直径の呼吸性変調に関する研究)	小林 宏光

6. 教員の業績

6.1 学長

所属（大講座等）・職位	老年看護学講座・教授	氏名	真田 弘美
-------------	------------	----	-------

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>正木治恵, <u>真田弘美</u>（編集）：老年看護学概論（改訂第4版）「老いを生きる」を支えることとは, 全385頁, 南江堂. 東京, 2023. 3.</p> <p><u>真田弘美</u>, 正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する, 全481頁. 南江堂, 東京, 2023. 3.</p> <p><u>真田弘美</u>：現代の高齢者とその理解. 老年看護学技術：最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第4版）. 1-16. 南江堂, 東京, 2023. 3.</p> <p>東村志保, 松本勝, 大江真琴, <u>真田弘美</u>：排泄. 老年看護学技術：最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第4版）. 65-84. 南江堂, 東京, 2023. 3.</p> <p>仲上豪二郎, <u>真田弘美</u>：褥瘡. 老年看護学技術：最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第4版）. 232-250. 南江堂, 東京, 2023. 3.</p> <p>東村志保, 大江真琴, <u>真田弘美</u>：尿失禁. 老年看護学技術：最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第4版）. 232-250. 南江堂, 東京, 2023. 3.</p> <p>東村志保, 大江真琴, <u>真田弘美</u>：認知機能障害の看護（アルツハイマー病）. 老年看護学技術：最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第4版）. 395-411. 南江堂, 東京, 2023. 3.</p> <p>峰松健夫, 北村言, <u>真田弘美</u>：老年看護の将来に向けた看護技術の動向. 老年看護学技術：最後までその人らしく生きることを支援する（改訂第4版）. 452-458. 南江堂, 東京, 2023. 3.</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p>Tobe H, Tamai N, Mugita Y, Nakai A, Nagata M, Minematsu T, <u>Sanada H</u>: Effect of a UV-free, carbon-arc phototherapy on eczema of a 3-year-old child: A single-case experimental study. Journal of Nursing Science and Engineering, 10, 76-87, 2023. 1.</p>

注1) 本学の教員の氏名の下にはアンダーライン

注2) 本学の学生・院生（卒業・修了生含む）の氏名の下にはアンダーラインかつ氏名の前にアスタリスク（*）

Hasegawa Y, Yoshida M, Minematsu T, Hattori N, Sanada H: Nutritional management using ultrasonography of the temporal muscle for patients with pressure injuries in a home care setting: a case report. Journal of Japanese Society Wound, Ostomy, and Continence Management, 26(4), 384-390, 2023.1.

Syabariyah S, Nurachmah E, Widjojo BD, Prasetyo S, Sanada H, Irianto, Nakagami G, Suriadi, Kardiatur T, Hisan UK: The Effect of Vibration on the Acceleration of Wound Healing of Diabetic Neuropathic Foot Ulcer: A Prospective Experimental Study on Human Patients. Healthcare(Basel), 11(2), 191, 2023.1.

Abe-Doi M, Murayama R, Komiyama C, Tateishi R, Sanada H: Effectiveness of ultrasonography for peripheral catheter insertion and catheter failure prevention in visible and palpable veins. The Journal of Vascular Access, 24(1), 14-21, 2023.1.

遠藤真穂, 小倉康平, 大貝和裕, 岡本成史, 真田弘美, 須釜淳子: 誤嚥性肺炎発症を唾液タンパク質から検知することを目標とした, 頬粘膜唾液タンパク質採取手法の検討とプロテオミクス解析による評価. 看護理工学会誌, 10, 66-75, 2023.1.

土田敏恵, 田中秀子, 飯坂真司, 横野知江, 高橋聡明, 小柳礼恵, 酒井透江, 間直子, 渡辺光子, 渡邊光子, 宮前奈央, 佐藤文, 真田弘美, 須釜淳子, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会WOC専門外来モデル構築アドホック委員会: WOC領域における看護専門外来の現状と将来展望. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26(4), 396-416, 2023.1.

佐々木早苗, 大江真琴, 志村知子, 高木良重, 真田弘美: ハイリスク患者におけるソフトシリコン・ポリウレタンフォームドレッシングの褥瘡予防効果 褥瘡発生要因の検討. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26(4), 355-361, 2023.1.

Saad SS, Suriadi, Okuwa M, Sanada H, Sugama J, Oe M: Factors associated with the discontinuation of wound care specialist clinic visits in patients with diabetic foot ulcers. Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Continence Management, 26(4), 335-346, 2023.1.

Tobe H, Tamai N, Mugita Y, Nakai A, Nagata M, Minematsu T, Sanada H: Effect of a UV-free, carbon-arc phototherapy on eczema of a 3-year-old child: A single-case experimental study. Journal of Nursing Science and Engineering, 10, 76-87,

2023. 1.

Murayama R, Abe-Doi M, Masamoto Y, Kashiwabara K, Komiyama C, Sanada H, Kurokawa M: Verification study on the catheterization of an upper arm vein using the new long peripheral intravenous catheter to reduce catheter failure incidence: A randomized controlled trial. *Drug Discovery & Therapeutics*, 17(1), 52-59, 2023. 2.

Kunimitsu M, Nakagami G, Kitamura A, Minematsu T, Koudounas S, Ogai K, Sugama J, Takada C, Yeo S, Sanada H: Relationship between healing status and microbial dissimilarity in wound and peri-wound skin in pressure injuries. *Journal of Tissue Viability*, 32(1), 144-150, 2023. 2.

Tsuchiya S, Suriadi, Sanada H, Sugama J, Oe M: Relationship between items of DMIST and healing of diabetic foot ulcers. *International Wound Journal*, 20(2), 345-350, 2023. 2.

Sugama J, Ishibasi M, Ota E, Kamakura Y, Saitoh E, Sanada H, Nakayama T, Nomura T, Yamada M, Nakagami G, Sato N, Shibata S, Hase T, Fukada J, Miki T, Arita M, Urai T, Okawa Y, Kitamura A, Dai M, Takahashi T, Tamai N, Tobita I, Noguchi H, Matsumoto M, Miura Y, Mukai K, Mugita Y, Yoshida M, Kurachi M, Shirasaka T, Yamane Y: Japanese clinical practice guidelines for aspiration and pharyngeal residual assessment during eating and swallowing for nursing care. *Japan Journal of Nursing Science*, 19(4), e12496, 2023. 3.

Kunimitsu M, Nakagami G, Minematsu T, Koudounas S, Sanada H: An in vivo critically colonised wound model with dysbiotic wound microbiota. *International Wound Journal*, 20(3), 648-658, 2023. 3.

Abe-Doi M, Murayama R, Takahashi T, Matsumoto M, Tamai N, Nakagami G, Sanada H: Effects of ultrasound with an automatic vessel detection system using artificial intelligence on the selection of puncture points among ultrasound beginner clinical nurses. *The Journal of Vascular Access*, 25(4), 1252-1260, 2023. 3.

Ogura K, Endo M, Hase T, Negami H, Tsuchiya K, Suzuki T, Ogai K, Sanada H, Okamoto S, Sugama J: Potential biomarker proteins for aspiration pneumonia detected by shotgun proteomics using buccal mucosa samples: A cross-sectional case-control study. *Clinical Proteomics*, 20(1), 9, 2023. 3.

Kaitani T, Kamishima S, Nakamura K, Abe M, Fukuda T, Sanada H: The reliability and validity of proxy assessment of quality of life by nurses in patients with pressure injuries. *Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Continence Management*, 27(1), 55-66, 2023. 4.

Konya C, Mizokami Y, Kamide R, Tokunaga K, Nakagami G, Sanada H: Reliability and validity of ABCD-Stoma®: a tool for evaluation of the severity of peristomal skin disorders. *Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Continence Management*, 27(1), 43-54, 2023. 4.

Sari DW, Minematsu T, Yoshida M, Kitamura A, Tomida S, Abe M, Khasanah U, Sanada H: Skin properties of itching without symptoms and associated factors among older adults in long-term care facilities. *Drug Discovery & Therapeutics*, 17(3), 201-208, 2023. 5.

紺家千津子, 林温子, 北村言, 仲上豪二郎, 真田弘美, 大石祐一: 第1～4回褥瘡実態調査の推測統計による褥瘡有病率と褥瘡推定発生率の経年評価. *日本褥瘡学会誌*, 25(2), 90-95, 2023. 6.

山根拓実, 林温子, 北村言, 仲上豪二郎, 真田弘美, 大石祐一: Hydrocellular foam dressingはVEGF/HIF-1 α 経路を介して創傷治癒を促進する. *日本褥瘡学会誌*, 25(2), 84-89, 2023. 6.

Nitta S, Minematsu T, Tomida S, Tobe H, Maeda T, Sanada H: C-fiber numbers increase in the epidermis and papillary dermis of dry skin-derived itch-prone model rats. *Journal of Nursing Science and Engineering*, 10, 146-156, 2023. 7.

Koyano Y, Nakagami G, Sanada H: Comparing the alarm detectability of electronic axillary thermometer in older adults aged 70 years or more: buzzer alarm, vibration alarm, or buzzer/vibration alarm. *Journal of Nursing Science and Engineering*, 10, 168-178, 2023. 7.

Takahashi T, Kitamura A, Matsumoto M, Higashimura S, Nakagami G, Sanada H: Introduction of augmented reality to the remote wound care nursing consultation system. *Journal of Wound Care*, 32(Sup8):clxvi-clxx, 2023. 8.

幅大二郎, 秦斉, 滝沢知大, 富田早苗, 峰松健夫, 真田弘美, 仲上豪二郎: 3T3-L1脂肪細胞における超音波と低周波振動の糖代謝促進効果の比較検証. *物理療法科学*, 30, 83-92, 2023. 8.

Qin Q, Haba D, Takizawa C, Tomida S, Kunimitsu M, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: A method for harvesting viable cells

from wound dressings. *Experimental Dermatology*, 32(9), 1521-1530, 2023.9.

Qin Q, Oe M, Nakagami G, Kashiwabara K, Sugama J, Sanada H, Jais S: The effectiveness of a thermography-driven preventive foot care protocol on the recurrence of diabetic foot ulcers in low-medical resource settings: an open-labeled randomized controlled trial. *International Journal of Nursing Studies*, 146, 104571, 2023.10.

大桑麻由美, 青木和恵, 安部正敏, 紺家千津子, 真田弘美, 玉井奈緒, 石澤美保: 「防ぎきれない褥瘡」の定義策定に向けた検討 超高齢者における予備調査報告. *日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌*, 27(3), 546-552, 2023.10.

Haba D, Ohmiya T, Sekino M, Qin Q, Takizawa C, Tomida S, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: Efficacy of wearable vibration dressings on full-thickness wound healing in a hyperglycemic rat model. *Wound Repair and Regeneration*, 31(6), 816-826, 2023.11.

Hasegawa Y, Yoshida M, Minematsu T, Sugama J, Sanada H: The reliability and validity of visually assessing temporal wasting in older adults. *Journal of Nursing Science and Engineering*, 11, 37-46, 2023.11.

Abe-Doi M, Murayama R, Morita K, Nakagami G, Sanada H: Predictive Factors for Infusion Site Induration After Outpatient Chemotherapy in Japan: A Secondary Analysis. *Asian Nursing Research*, 17(5), 269-275, 2023.12.

Haba D, Qin Q, Takizawa C, Tomida S, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: Local low-frequency vibration accelerates healing of full-thickness wounds in a hyperglycemic rat model. *Journal of Diabetes Investigation*, 14(12), 1356-1367, 2023.12.

Jais S, Oe M, Sanada H, Sasongko A, Haryanto H: Evaluating the Cost-effectiveness of Diabetic Foot Ulcer Management by Wound Care Specialists in Indonesia. *Wound Repair and Regeneration*, 32(1), 80-89, 2024.1.

Tanabe H, Oosawa K, Miura M, Mizuno S, Yokota T, Ueda T, Zushi Y, Nagata M, Murayama R, Abe-Doi M, Sanada H: Effect of a thin-tipped short bevel needle for peripheral intravenous access on the compressive deformation and displacement of the vein: A preclinical study. *The Journal of Vascular Access*,

25(1), 265-273, 2024. 1.

Dai M, Yamashita S, Yang R, Okazaki M, Sugama J, Sanada H: A multidisciplinary approach to managing lymphorrhoea in primary lymphoedema: a case study. *British Journal of Nursing*, 33(3), 104-108, 2024. 2.

<査読無>

真田弘美, 松本勝: 看護理工学におけるケアイノベーション. *日本機械学会誌*, 26(1252), 7-11, 2023. 3.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 高橋聡明, 北村言, 真田弘美: 【老年看護学の新しい姿】 エコーを用いたアセスメントに基づく高齢者の便秘ケア. *Geriatric Medicine*, 61(3), 221-226, 2023. 3.

玉井奈緒, 松本勝, 三浦由佳, 真田弘美: 実践講座 リハビリテーション治療に生かすエコー 排泄ケアにおけるエコーの活用. *総合リハビリテーション*, 51(4), 425-431, 2023. 4.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 真田弘美: 【US Today 2023 超音波検査・診断最前線 腹部領域の最新動向を中心に】 領域別超音波検査・診断・治療のトピックス POCUSのトピックス 看護における超音波検査の活用. *INNERVISION*, 38(5), 19-22, 2023. 4.

玉井奈緒, 真田弘美: 【見かた・読みかたがわかると症状と画像が頭でつながる!がん看護に生かす!ナースのはじめてのエコー】 はじめに ナースがエコーをできると看護のココが変わる!体内の可視化で早期介入や患者の安心感につながる! YORi-SOUがんナーシング, 13(3), 276-278, 2023. 6.

仲上豪二郎, 麦田裕子, 北村言, 松本勝, 真田弘美: 【「デジタルトランスフォーメーション(DX)が変える老年看護学教育・実践・研究のいま】 DXの教育・実践への活用 エコーを用いた高齢者のフィジカルアセスメント技法. *老年看護学*, 28(1), 18-25, 2023. 7.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 真田弘美: 【看護理工学における産学連携研究の現状と取り組み】 (第5章)共同研究講座における産学連携研究. *看護理工学会誌*, 10(Suppl), S18-S20, 2023. 8.

仲上豪二郎, 真田弘美: DESIGN-R®2020にみる新しい褥瘡アセスメントについて. *Journal of Clinical Rehabilitation*, 32(10), 948-957, 2023. 9.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 真田弘美: 便秘エコーを習得してアセスメント力をアップ(第2回) 便秘エコー 撮影方法と画像の読み方. *がん看護*, 28(7), 651-655, 2023. 9.

松本勝, 真田弘美: エコーに関する動向と基礎知識 看護師による活用の拡大に向けて. *看護管理*, 33(10), 864-870, 2023. 10.

	<p>松本勝, 真田弘美:【ケアの質向上と業務の効率化につながるエコー活用 看護師が聴診器のようにエコーを使う時代が到来する!?!】エコーに関する動向と基礎知識 看護師による活用の拡大に向けて. 看護管理, 33(10), 864-870, 2023. 10.</p>
<p>その他の原稿</p>	<p><u>真田弘美</u>: 特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究調査プロトコル ver. 1.0. 令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業), 2022. 12.</p> <p><u>真田弘美</u>: 特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究. 令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業), 2023. 2.</p> <p><u>真田弘美</u>, 大森健, 中谷彩乃, 田中志保: 第12回 高齢化社会において求められる産官学連携とその課題. 医彩-PwC Healthcare Hub, 2023. 4.</p> <p>雑誌掲載等</p> <p><u>真田弘美</u>: 人生100年時代を支える「看護」, わらいふ, 2023年夏号 vol. 13, 30-35, 2023. 6.</p> <p><u>真田弘美</u>: 人生100年時代を生きる-保湿が鍵を握る-「看護とスキンケア」, わらいふ, 2023年秋号vol.14, 22-29, 2023. 9.</p> <p><u>真田弘美</u>: 人生100年時代を生きる「幸福寿命」を伸ばし老いるのも悪くない社会をめざす, わらいふ, 2023年冬号vol.15, 58-65, 2023. 12.</p> <p><u>真田弘美</u>: 看護の質の向上に努めて人間の尊厳を重んじる支援を, THE CLASSY, vol.64, 22-23, 2024. 1.</p> <p><u>真田弘美</u>: 特別企画 DX化で進化する看護の世界 石川県立看護大学, THE CLASSY, vol.65, 14-17, 2024. 3.</p>
<p>学会発表(研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p>1. 基調講演 2. 招聘講演 3. 特別講演</p> <p><u>真田弘美</u>: 看護学における産学連携. 看護薬理学カンファレンス2023 in 東京, WEB, 2023. 6, 看護薬理学カンファレンス2023 in 東京・抄録集, 9, 2023.</p> <p><u>真田弘美</u>: 看護師が行う高齢社便秘ケア-在宅でエコーを使う-. 特別講演, 第6回慢性便秘診断・治療研究会, WEB, 2023. 7</p> <p><u>真田弘美</u>: 近未来のWOC看護に望まれること. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 宮城, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 169, 2023.</p> <p><u>真田弘美</u>: 褥瘡対策2024, 第19回日本褥瘡学会中部地方学術集会,</p>

福井, 2024. 3.

4. パネリスト

真田弘美: 訪問看護のイノベーション. 第31回日本医学会総会, 東京, 2023. 4, 日本医学会総会会誌, 31, 柱3-5-2, 2023.

大江真琴, 四津里英, 玉木毅, 真田弘美: 糖尿病足病変・潰瘍: 治療と予防のアップデート. 糖尿病足潰瘍の評価と管理 糖尿病足潰瘍治癒過程モニタリングスケール(DMIST)への期待. 第66回日本糖尿病学会年次学術集会, 鹿児島, 2023. 5, 糖尿病, 66(Suppl. 1), S-70, 2023.

真田弘美, 宮地良樹, 須釜淳子, 田中マキ子, 溝上裕子, 川上重彦, 森口隆彦, 大浦武彦, 中条俊夫: 日本褥瘡学会25周年記念—その時歴史が動いた, 第25回日本褥瘡学会学術集会, 神戸, 2023. 8.

5. ワークショップ

松本勝, 玉井奈緒, 真田弘美: ポイントオブケア看護エコー最前線エコーを用いた大腸便貯留観察に基づく便秘アセスメントと排便ケア. 第96回日本超音波医学会学術集会, 埼玉, 2023. 5, 超音波医学, 50(Suppl), S500, 2023.

玉井奈緒, 松本勝, 真田弘美: ポイントオブケア看護エコー最前線排泄ケアはこう変わる!膀胱エコーの活用. 第96回日本超音波医学会学術集会, 埼玉, 2023. 5, 超音波医学, 50(Suppl), S500, 2023.

6. 一般口演の研究発表

幅大二郎, 峰松健夫, 真田弘美, 仲上豪二朗: 超音波と低周波振動の糖代謝促進効果の比較検証. 日本物理療法合同学術大会2023, 東京, 2023. 2, 日本物理療法合同学術大会抄録集 2023, J-2, 2023.

津田裕子, 紺家千津子, 松本勝, 小柳礼恵, 仲上豪二朗, 須釜淳子, 真田弘美: 排便に関する不快感やニードを医療者が十分に把握できない入院患者における排便管理の実態. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 宮城, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 400, 2023.

松本勝, 大西陽子, 大橋史弥, 峰松健夫, 真田弘美, 紺家千津子: 膀胱エコー教育に対する初学者の主観的評価 対面教育と非対面教育の比較. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 宮城, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 398, 2023.

松本勝, 大西陽子, 大橋史弥, 峰松健夫, 真田弘美, 紺家千津子: 初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 宮城, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 397, 2023.

佐々木早苗, 河崎明子, 三宅知美, 大場純, 滝沢知大, 阿部麻里, 仲上豪二郎, 真田弘美: 極度なるい瘦や不随運動がある患者にブーメラン型クッションを使用し重度褥瘡の治癒に効果的であった症例. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 宮城, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 327, 2023.

滝沢知大, 阿部麻里, 富田早苗, 佐々木早苗, 河崎明子, 三宅知美, 大場純, 北村言, 仲上豪二郎, 真田弘美: ファイバーパッドを用いた創洗浄による褥瘡のバイオフィルム除去効果の検証. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 宮城, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 308, 2023.

牟田みや子, 高橋聡明, 玉井奈緒, 鈴木基文, 河本敦夫, 真田弘美, 仲上豪二郎: 自己操作による超音波検査を用いた骨盤底筋訓練のバイオフィードバック方法の開発 eラーニングと骨盤底筋収縮自動判定アルゴリズム. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 宮城, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 262, 2023.

新川みなみ, 高橋聡明, 麦田裕子, 真田弘美, 仲上豪二郎: 経時的生体センサーデータに基づく褥瘡発生予測法のための皮膚温度推定法の開発 同一姿勢の健常成人における検証. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 宮城, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 260, 2023.

Takahashi T, Kinoshita T, Noguchi H, Abe-Doi M, Murayama R, Nakagami G, Sanada H: Development of a risk assessment method based on machine learning to promote appropriate use of ultrasonography for the prevention of peripheral intravenous catheter failure. 45th Annual International Conferences of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Australia, 2023. 7.

Shinkawa M, Takahashi T, Mugita Y, Sanada H, Nakagami G: Establishment of a method for estimating skin temperature through clothes via machine learning: a skin thermal simulation study. 45th Annual International Conferences of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Australia, 2023. 7.

Muta M, Takahashi T, Tamai N, Suzuki M, Kawamoto A, Sanada H, Nakagami G: Development of pelvic floor muscle contraction automatic evaluation algorithm using self-performed ultrasound. 45th Annual International Conferences of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Australia,

	<p>2023. 7.</p> <p>Shimada S, Takahashi T, Kitamura A, Matsumoto M, Mugita Y, <u>Sanada H</u>, Nakagami G: Preliminary examination of usability and feasibility of tele-accompanying system using augment reality glasses for nurses. 45th Annual International Conferences of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Australia, 2023. 7.</p> <p>Kinoshita T, Takahashi T, Murayama R, Nakagami G, <u>Sanada H</u>, Noguchi H: Creation of the Forearm 3D-Model with Veins from Transversal Ultrasonography Image Sequence. 45th Annual International Conferences of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Australia, 2023. 7.</p> <p>Sato K, Mugita Y, Takahashi T, Nakagami G, <u>Sanada H</u>, Noguchi H: Estimation of Wound Area and Severity Level of Skin tear using Deep Learning Methods. 45th Annual International Conferences of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Australia, 2023. 7.</p> <p>峰松健夫, 滝沢知大, 富田早苗, 加藤頼子, 尾田友香, 平田善彦, 脇坂都, 仲上豪二郎, 紺家千津子, <u>真田弘美</u>: ソホロファインバブルを用いた創部洗浄によるクリティカルコロナイゼーション創の治療促進. 第53回日本創傷治癒学会, 長野, 2023. 11, 日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 53, 89, 2023.</p> <p>幅大二郎, 滝沢知大, 秦斉, 富田早苗, 堀之内愛, <u>真田弘美</u>, 仲上豪二郎: 高血糖ラットモデル全層欠損創への局所低周波振動刺激による細胞老化抑制効果の検証. 第53回日本創傷治癒学会, 長野, 2023. 11, 日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 53, 87, 2023.</p> <p>大江真琴, 四津里英, 玉木毅, <u>真田弘美</u>: 糖尿病足潰瘍のケア戦略 糖尿病足潰瘍治癒過程モニタリングスケール「DMIST」への期待. 第53回日本創傷治癒学会, 長野, 2023. 11, 日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 53, 74, 2023.</p> <p>7. ランチョンセミナー</p> <p><u>真田弘美</u>: 最新のスキンケア 褥瘡とスキン-テアに焦点をあてて. 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2023. 7, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 60(特別号), S440, 2023.</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>< 科学研究費補助金 > 本学教員が研究代表者 本学教員が分担者</p>

仲上豪二郎, 真田弘美, 小嶋良輔, 酒井崇匡, 野村征太郎, 峰松健夫, 秋下雅弘, 佐久間一郎: 滲出液中老化細胞を標的とした選択的創傷治癒促進セノリティクス, 2023~2026, 学術研究助成基金助成金基盤研究(A).

大江真琴, 真田弘美, 土屋紗由美: インドネシアにおける糖尿病足潰瘍予防プロトコルの実装研究, 2021-2024, 学術研究助成基金助成金国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)).

<科学研究助成基金助成金>

本学教員が研究代表者

真田弘美, 峰松健夫, 仲上豪二郎, 大貝和裕, 紺家千津子: 滲出液エクソソームマーカー検出人工リポソームの開発: 創傷アセスメントの新たな展開研究代表者, 2022-2025, 挑戦的研究(開拓).

本学教員が分担者

大江真琴, 大桑麻由美, 真田弘美, 岡本成史, 野口博史, 四津里英: 糖尿病足潰瘍治癒過程モニタリングスケールを用いた糖尿病足潰瘍マネジメントの確立, 2023-2026, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).

天木伸子, 鎌倉やよい, 百瀬由美子, 真田弘美, 三浦由佳, 西岡裕子: 要介護高齢者の嚥下後誤嚥を予防する咽頭残留除去ケアプログラムの開発, 2023-2025, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).

三浦由佳, 須釜淳子, 紺家千津子, 真田弘美, 野口博史: 睡眠中の誤嚥予防と安楽保持に最適な姿勢を促すロボティクスクッションの開発, 2023-2024, 学術研究助成基金助成金挑戦的研究(萌芽).

玉井奈緒, 峰松健夫, 真田弘美, 高橋聡明: スマートセンサーとAIによるがん性皮膚潰瘍においモニタリング・ケアシステムの開発, 2022-2025, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).

三浦由佳, 真田弘美, 松本勝, 玉井奈緒, 河本敦夫, 長谷剛志, 小路和幸: 在宅でのエコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく介入の肺炎予防効果の検証, 2022-2025, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).

紺家千津子, 真田弘美, 須釜淳子, 松本勝, 大橋史弥: 介護保険施設のリモート支援による最良な皮膚障害予防・管理実装モデルの構築, 2022-2025, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).

土井麻里, 村山陵子, 真田弘美: 繰り返し抗がん剤投与を行う血管を温存する末梢静脈カテーテル留置技術の実装, 2022-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).

津田裕子, 紺家千津子, 真田弘美, 大橋史弥: 革新的な観察手技によるおむつ内皮膚障害のアセスメントツールの開発と検証, 2022-

	<p>2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).</p> <p>玉井奈緒, 松本勝, <u>真田弘美</u>, 高橋聡明, 仲上豪二郎:セルフエコーとAIケアリコメンデーションによる骨盤底筋訓練サポートシステムの開発, 2022-2024, 学術研究助成基金助成金挑戦的研究(萌芽).</p> <p>渡邊直美, 鎌倉やよい, 三浦由佳, <u>真田弘美</u>, 深田順子, 坂上貴之:喉頭摘出者の食道発声トレーニングプログラムの構築と効果の検証, 2021-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).</p> <p>大場美穂, <u>真田弘美</u>, 野村美香, 大江真琴, 峰松健夫, 竹原君江, 小林珠実, 土井英子:透析患者に対するテーラーメイドケアを目指した非侵襲的な皮膚生理機能評価方法の開発, 2021-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).</p> <p>仲上豪二郎, 関野正樹, 山内敏正, 栗田昌和, 南豪, 麦田裕子, 峰松健夫, <u>真田弘美</u>:新規糖代謝促進メカニズムによる糖尿病足潰瘍治癒促進デバイス:創傷看護学の新展開, 2021-2023, 学術研究助成基金助成金挑戦的研究(開拓).</p> <p>峰松健夫, <u>真田弘美</u>, 仲上豪二郎, KOUDOUNAS SOFOKLIS:療養生活モニタリングに有用な採血に代わるスキンプロット生化学検査法の開発, 2021-2023, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).</p> <p>松本勝, 須釜淳子, 河本敦夫, 三浦由佳, <u>真田弘美</u>, 小路和幸, 仲上豪二郎, 玉井奈緒:訪問看護師のための超音波検査技術遠隔学習システムの構築と在宅での実装, 2021-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).</p>
学内研究助成金	
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>その他受賞等</p> <p>受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p>遠藤真穂, 小倉康平, 大貝和裕, 岡本成史, <u>真田弘美</u>, 須釜淳子:誤嚥性肺炎発症を唾液タンパク質から検知することを目標とした, 頬粘膜唾液タンパク質採取手法の検討とプロテオミクス解析による評価, 受賞, 2023年度看護理工学会学会賞, 2023.6.</p> <p>Hasegawa Y, Yoshida M, Minematsu T, Hattori N, <u>Sanada H</u>: Nutritional management using ultrasonography of the temporalis for patients with pressure ulcers in a home care setting: A case report, 受賞, 2023年度日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術論文症例研究賞, 2023.7.</p> <p>Nakai A, Minematsu T, Nitta S, Hsu WJ, Tobe H, <u>Sanada H</u>: Development of a method to identify persistent and blanchable</p>

	<p>redness by skin blotting in mice, 受賞, 日本褥瘡学会 大浦賞, 2023. 9.</p> <p>Takumi Y, Hayashi A, Kitamura A, Nakagami G, Sanada H, Oishi Y: Hydrocellular foam dressing improves wound healing by increasing VEGF/HIF-1α expression, 日本褥瘡学会 若手論文奨励賞, 2023. 9.</p>
<p>社会貢献・地域貢献</p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>社会貢献</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本学術会議：連携会員 2020. 10～現在 <li style="padding-left: 2em;">：看護分科会委員 2020. 10～現在 ・第6期石川県ユニセフ協会：評議員 2022. 12～2024. 12 ・国立研究開発法人科学技術振興機構：創発的研究支援事業アドバイザー 2023. 4～現在 ・国立研究開発法人科学技術振興機構：次期戦略的イノベーション創成プログラム (SIP) 「統合型ヘルスケアシステムの構築」に係る検討タスクフォース 業務アドバイザー 2023. 4～現在 ・国立長寿医療研究センター 長寿医療研究費評価委員会 委員 2023. 4～2025. 3 ・一般社団法人日本看護学校協議会 「看護師等養成所におけるDX促進に向けた実施調査」 委員 2023. 5～2024. 3 <p><u>学会や学外団体での活動</u></p> <p><u>学外団体活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京大学：名誉教授 2022. 6～現在 ・一般社団法人次世代看護研究所 代表理事 2019. 6～現在 ・学校法人藤田学園：理事 2022. 4～2025. 3 ・藤田医科大学：内閣府先端的サービスの開発・構築等に関する調査事業に関する評価委員 2023. 10～2024. 3 ・株式会社アデランス：名誉アドバイザー（医療関連） 2023. 12～2024. 11 ・テルモ生命科学振興財団：研究開発助成（海外）選考委員 2023. 4～2025. 3 ・株式会社タイカ：アドバイザー 2022. 6～2023. 5 ・ニチバン株式会社：独立社外取締役 2023. 6～2024. 6 ・株式会社ケーブ 学術顧問 2023. 4～2024. 3 <p><u>学会活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁理事会：監事 2017.6～現在

:評議員 2009.5～現在

- ・看護理工学会：監事 2019.10～現在
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会：評議員 2002.2～現在
- ・一般社団法人日本老年看護学会：評議員（代議員） 2013.6～現在
- ・一般社団法人日本創傷治癒学会：名誉会員 2022.11～現在
- ・日本老年泌尿器科学会：名誉会員 2022.6～現在
- ・American Academy of Nursing：Fellow of American Academy of Nursing (FAAN) 2019.10～現在
- ・一般社団法人 聖路加看護学会：評議員 2020.6～2024.6
- ・一般社団法人 ライフサポート学会：理事 2016.6～現在
- ・一般社団法人日本医工ものづくりコモンズ：理事 2022.6～2024.5
- ・日本医療経営実践学会：理事 2012.7～現在
- ・一般社団法人日本在宅ケア学会：在宅ケアイノベーション研究研修委員会委員2022.7～2024社員総会終了時
- ・一般社団法人日本がん看護学会 代議員 2023.2.～現在
- ・一般社団法人日本癌看護学会学術集会 査読委員 2023.8
- ・一般社団法人日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員 2023.9～2025.7
- ・国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会 監事 2023.4.～現在

講演会・セミナー

- ・真田弘美：褥瘡対策2023，高岡市民病院研修会，2023.10.
- ・真田弘美：聴診器のようにエコーを使う時代，アルペンリハビリテーション病院研修会，2023.10.
- ・真田弘美：第19回かほく市立志式記念講演，かほく市立河北台中学校，2023.2.
- ・真田弘美：看護理工学におけるケアイノベーション，看護業務の関するシンポジウム，基調講演，2024.3.

新聞掲載等

- ・褥瘡増加の懸念 地域の医療連携重要に，2023.8.23 北陸中日新聞朝刊
- ・「一歩踏み出す勇気を」二水高で看護大学長講演，2023.10.13 北國新聞朝刊
- ・県立看護大と医療機器「モルテン」自立した療養へ共同講座 2023.10.13 北陸新聞朝刊

国際交流

Editorial Board

- International Wound Journal, Editorial Advisory Board 2023.10～
- Journal of Wound Care, Editorial Advisor 2003.10～現在
- Journal of Gerontology & Geriatric Research, Editorial Board Member 2012～現在
- Chronic Wound Care Management and Research (New Zealand), Editor (Honorary editorial board) 2013.5～現在
- Journal of Tissue Viability, Editorial Board 2018.4～
- Advances in Skin and Wound Care, Editorial Board 2018～
- Nursing Outlook, Reviewer

地域貢献

- 河北地区日中友好協会：顧問 2022.04.1～
- 独立行政 法人地域医療機関機能推進機構金沢病院：地域連絡協議会委員 2023.4～2025.3
- 北陸公衆衛生学会：北陸公衆衛生学会理事 2022.4～
- 第36回JAPANTENT：開催委員会参事 2023.6～事業終結まで
- 石川県観光戦略推進部いしかわ観光特使2022.2～2024.3
- 石川県医療計画推進委員会 委員 2023.4～2025.3

非常勤講師等

- 東京大学非常勤講師 大学院医学系研究科 2023.4～2024.3
- 高知県立大学非常勤講師 2023.5～2024.3

6.2 人間科学領域

所属（大講座等）・職位	人間科学領域・教授	氏名	小林 宏光
	人間科学領域・教授		垣花 渉
	人間科学領域・准教授		松田 幸久
	人間科学領域・講師		工藤 義信
	人間科学領域・講師		中嶋 優太
	人間科学領域・講師		佐藤 唯

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p><u>Matsuda, Y</u>: (2023). Can there be a personality test with academic validity that is composed of meaningless questions? Development of a poplar psychological test. Research Highlights in Language, Literature and Education Vol. 5, 15-45.</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p><u>Matsuda, Y</u>: (2023). Inhibition of Return without Attentional Capture in the Traditional Spatial Cueing Paradigm. Advances in Social Sciences Research Journal, 10(5), 1-9. https://doi.org/10.14738/assrj.105.14573</p> <p>広瀬雅一, <u>松田幸久</u>, 山中智香, 猿橋裕子, 藤井早由利, 長崎信浩, 高根浩: (2023). 改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した薬局実務実習への理解と受入意欲の向上を指向したワークショップの効果. 薬学教育.</p> <p><u>Kudo Y</u>: Daibu / Kenreimon' in Ukyō no Daibu. Sauer MM, Watt D, McAvoy LH: The Palgrave Encyclopedia of Medieval Women's Writing in the Global Middle Ages. Palgrave Macmillan, Cham. 2023. 11</p> <p><u>中嶋優太</u>: 西田幾多郎の必然的自由と無我 : 新資料を手がかりに, 倫理学年報, 72, 175-187, 2023. 3</p> <p><u>中嶋優太</u>: 若き西田幾多郎の生の倫理 新資料「倫理学講義ノート」におけるギュイヨー受容, 哲学研究, 611, 57-79, 2024. 2</p> <p><査読無></p> <p><u>垣花渉</u>, 渡邊淳子, 關谷暁子: 「双方向型の授業」を問い直すーコロナ禍での遠隔授業の経験をきっかけとしてー. 初年次教育学会誌,</p>

	<p>15, 57-61, 2024. 3</p> <p><u>垣花渉</u>, *<u>泉愛莉</u>, *<u>北村彩恵</u>, *<u>船塚省吾</u>, <u>村田桃子</u>: 働き盛り世代の健康を増進する実践的アプローチ. 令和5年度地域課題ゼミナール支援事業成果報告集, 37-42, 2024. 2</p> <p><u>松田幸久</u>: (2024). エゴン・シーレの手紙, グラフィック, スケッチブックのカタログ・レゾネ. 都市経営: Urban Management, 16, 99-108.</p> <p><u>松田幸久</u>: (2024). 日本におけるエゴン・シーレ展の特徴と2023年のエゴン・シーレ展. 都市経営: Urban Management, 16, 109-120.</p>
<p>その他の原稿</p>	<p><u>垣花渉</u>: 初年次教育実践交流会in北陸. 初年次教育学会ニューズレター, 16, 3, 2024. 3</p> <p><u>垣花渉</u>: 実践交流会 in 北陸からみえてきた開催のヒント. 初年次教育学会誌15周年記念誌, 59, 2024. 3</p> <p><u>中嶋優太</u>: 翻刻「[論理講義ノート] (A08:29-88)」, 『未公開資料の研究資料化 報告7』, 石川県西田幾多郎記念哲学館, 2024. 3</p>
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p><u>垣花渉</u>, <u>瀬戸清華</u>, <u>澤田忠幸</u>: 探究学習が看護学生の自己効力感に及ぼす影響—双方向型の授業実践の観点から—, 大学教育学会第45回大会, 大阪大学, 2023. 6, 大学教育学会第45回大会発表要旨集録, 238-239, 2024</p> <p><u>澤田忠幸</u>, <u>垣花渉</u>: 大学 3 年生の学習成果 (学業成績・汎用的技能) に関連する入学時の要因の検討, 大学教育学会第45回大会, 大阪大学, 2023. 6, 大学教育学会第45回大会発表要旨集録, 142-143, 2024</p> <p><u>垣花渉</u>: 地域協働による壮年期の運動不足を解消する実践的アプローチ, 2023年度地域活性学会北信越支部総会・研究会, 金沢, 2023. 7</p> <p><u>成田秀夫</u>, <u>山本啓一</u>, <u>吉村充功</u>, <u>菊地滋夫</u>, <u>垣花渉</u>: 2030年、2040年の初年次教育の未来構想—多様性への対応と学生中心の教育へ, 初年次教育学会第16回大会, 山梨学院大学, 2023. 9, 初年次教育学会第16回大会発表要旨集, 29, 2023</p> <p><u>垣花渉</u>, <u>渡邊淳子</u>, <u>關谷暁子</u>: 「双方向型の授業」を問い直す—コロナ禍での遠隔授業の経験をきっかけとして—, 初年次教育学会第16回大会, 山梨学院大学, 2023. 9, 初年次教育学会第16回大会発表要旨集, 40-43, 2023</p> <p><u>垣花渉</u>, *<u>泉愛莉</u>, *<u>北村彩恵</u>, *<u>船塚省吾</u>, <u>村田桃子</u>: 働き盛り世代の健康を増進する実践的アプローチ, 2023年度大学・地域連携アクティブフォーラム, 金沢, 2024. 2, 令和5年度地域課題ゼミナール支</p>

	<p>援事業成果報告集, 37-42, 2024</p> <p><u>松田幸久</u>: (2023). 空間的注意における復帰の促進. 日本心理学会第87回大会.</p> <p><u>中嶋優太</u>: 西田『善の研究』成立前後の新資料における東洋思想に関する言及, 第七回日中哲学フォーラム, 仙台, 2023.9</p> <p><u>中嶋優太</u>: 『善の研究』成立過程とグリーン自由論に対する西田の態度の変化, Nishida's Philosophy Permanent Seminar, オンライン, 2023.9</p> <p><u>中嶋優太</u>: 西田幾多郎の新資料「倫理学講義ノート」とギュイヨールの生の哲学, 日本倫理学会第74回大会, 神奈川, 2023.10</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が研究代表者 本学教員が分担者 <u>澤田忠幸</u>, <u>垣花渉</u>, <u>石川倫子</u>: 初年次教育は学生の汎用的技能の育成にいかに関与しうるか? IRの視点からの検証, R2 ~ 5, 科学研究費補助金基盤研究 (C) (100千円)</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>工藤義信</u>: ピーター・イドリー教訓詩の伝播の実態を探るテキスト批評・人物研究・古写本学的分析, R3 ~ R7, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)</p> <p><u>中嶋優太</u> (代表1100千円): 西田『善の研究』前後の新資料からみた自由論 その形成の背景と発展の可能性, 2023 ~ 2024, 日本学術振興会科学研究費助成金研究活動スタート支援</p> <p>本学教員が分担者 <u>林総太郎</u>, <u>石本恭子</u>, <u>内藤貴司</u>, <u>松田幸久</u>, <u>斉藤篤司</u>: 脊髄損傷者における屋外活動時での適正な体温維持に効果的な実用的対策の確立, 2023年~ 2027年.</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p>2023年度学内研究助成 (第二期). 課題名: 選好判断がもたらす快感情の解明と安静状態の定量化. 期間: 2023年</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p>

	<p><u>垣花渉</u>, *<u>泉愛莉</u>, *<u>北村彩恵</u>, *<u>船塚省吾</u>, <u>村田桃子</u> : 働き盛り世代の健康を増進する実践的アプローチ, R5, 公益社団法人大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業 (200千円)</p> <p><u>藤田萩乃</u>, <u>垣花渉</u> : 地域自然環境に適したソーラークッカーの開発及び普及プログラム・交流事業の開発, R5, 公益社団法人大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業 (300千円)</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p><u>中嶋優太</u> : 受賞, 比較思想学会 研究奨励賞, 2023.7</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>垣花渉</u> : 健康長寿の秘訣“スモールチェンジ”招待講演, 羽咋市粟生町女性の会講演会, 2024.1</p> <p><u>垣花渉</u> : 住民と学生が協働する「健康長寿のまちづくり」招待講演, 令和6年度津幡町シニアクラブ連合会講演会, 2024.2</p> <p><u>垣花渉</u> : 初年次教育学会 理事</p> <p><u>垣花渉</u> : 日本体力医学会 学会評議員</p> <p><u>垣花渉</u> : 地域活性学会 北信越支部副支部長</p> <p><u>垣花渉</u> : 石川県立羽咋高等学校「総合的な探究の時間」講師</p> <p><u>垣花渉</u> : 石川県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会 委員</p> <p><u>垣花渉</u> : かほく市空家等対策審議会 委員長</p> <p><u>垣花渉</u> : 「健康サポート科学」非常勤講師, 富山県高岡看護専門学校, 2023.6～7</p> <p><u>松田幸久</u> : 北陸心理学会誌「心理学の諸領域」査読委員</p> <p><u>松田幸久</u> : 北陸心理学会誌「心理学の諸領域」編集局編集幹事補佐</p> <p><u>Kudo Y</u> : Annotated Chaucer Bibliography日本国内出版文献解題報告担当</p> <p><u>工藤義信</u> : 公益財団法人尚志社 北陸地区奨学生選考委員</p> <p><u>工藤義信</u> : 慶應義塾大学通信教育部「中世英文学史」科目指導員</p> <p><u>中嶋優太</u> : 西田哲学会 査読</p> <p><u>中嶋優太</u> : 比較思想学会 査読</p> <p><u>中嶋優太</u> : 講演, 「西田幾多郎『善の研究』を読む ～自由に生きる～」『尾張町 歴史と伝統文化講演会』2023.6</p> <p><u>中嶋優太</u> : 総合学習「郷土が生んだ思想」, 石川県立金沢二水高校,</p>

2023. 9-10

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

垣花涉：初年次教育実践交流会 in 北陸 実行委員長

垣花涉：シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市・金沢市」
授業コーディネーター，石川県政記念しいのき迎賓館（金沢市），
2023. 7

垣花涉：「医療、健康 食・筋トレ」講師，金沢高砂大学校同窓会，
2023. 4～2024. 3

垣花涉：「健康カフェ事業」講師，津幡町中条地区老人会，2023. 4
～2024. 3

松田幸久：コンソーシアム石川いしかわシティーカレッジ講義「ヒト
の脳と脳画像解析概論」

松田幸久：地域ケアセンター事業，宝達志水町における祭礼行事の
アーカイブ作成に係る活動. NOP法人スポーツ文化コミッションとの
連携事業.

中嶋優太：西田哲学会 幹事

中嶋優太：日本倫理学会 主題別討議委員

中嶋優太：ふらふら哲学カフェ，2023. 4～12（8回）

6.3 健康科学講座

所属（大講座等）・職位	健康科学講座・教授	氏名	岩佐 和夫
	健康科学講座・教授		今井 秀樹
	健康科学講座・教授		今井 美和
	健康科学講座・教授		平居 貴生
	健康科学講座・准教授		市丸 徹

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p><u>岩佐和夫</u>（監修）：薬がみえる vol.3 第2版，メディックメディア，東京，2023.9</p> <p><u>岩佐和夫</u>（監修協力）：病気がみえる 運動器・整形外科 Vol.11第2版，メディックメディア，東京，2024.1</p> <p><u>岩佐和夫</u>（分担執筆）：クエスチョンバンク 第112回看護師国家試験解説書. メディックメディア，東京，2023.4</p> <p><u>岩佐和夫</u>（監修）：Year Note 2025. メディックメディア，東京，2024.3</p> <p><u>岩佐和夫</u>（監修）：看護師・看護学生のためのレビューブック第26版 J章 脳・神経疾患 2024.3</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p><u>Hirai T</u>, Wang W, Muroho N, <u>Iwasa K</u>, Inoue M: Potential role of Akt in the regulation of fibroblast growth factor 21 by berberine. J Nat Med. ;78(1):169-179. 2024 doi: 10.1007/s11418-023-01755-1.</p> <p><u>Narita T</u>, Nakane S, Nagaishi A, Minami N, Niino M, Kawaguchi N, Murai H, Kira JI, Shimizu J, <u>Iwasa K</u>, Yoshikawa H, Hatanaka Y, Sonoo M, Shimizu Y, Matsuo H: Immunotherapy for ocular myasthenia gravis: an observational study in Japan. Ther Adv Neurol Disord. ;16:17562864231163819. 2023 doi: 10.1177/17562864231163819. eCollection 2023.</p> <p><u>Nozaki I</u>, Hashiguchi A, Takashima H, Yamashita Y, Higashide T, <u>Iwasa K</u>, Ono K: Charcot-Marie-Tooth Disease with a Novel Variant in Gap Junction Protein Beta 1 Presenting with Visual Field Defects. Intern Med. ;62(20):3033-3036. 2023 doi: 10.2169/internalmedicine.1403-22. Epub 2023 Feb 15.</p> <p><u>Noguchi-Shinohara M</u>, Hamaguchi T, Sakai K, Komatsu J, <u>Iwasa K</u>, Horimoto M, Nakamura H, Yamada M, Ono K: Effects of Melissa</p>

	<p>officinalis Extract Containing Rosmarinic Acid on Cognition in Older Adults Without Dementia: A Randomized Controlled Trial. J Alzheimers Dis. ;91(2):805-814. 2023 doi: 10.3233/JAD-220953.</p> <p><u>今井秀樹</u>, 水野佑紀, Cindy Rahman AISYAH, 増田桃佳, 小西祥子: 化学物質の複合曝露による健康影響の新しい評価方法とその課題. 日本衛生学雑誌, 78, 22009, 2023.</p> <p><査読無></p>
<p>その他の原稿</p>	
<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等）</p>	<p><u>岩佐和夫</u>, 古川裕, 吉川弘明, 野崎一朗, 小松潤史, 篠原もえ子, 小野賢二郎: 70歳以上で発症した重症筋無力症患者に対する経口プレドニゾロンの有用性, 第35回日本神経免疫学会学術集会, 東京, 2023.9, 神経免疫学 28(1), 131-131.</p> <p><u>岩佐和夫</u>, 古川裕, 吉川弘明, 山田正仁, 小野賢二郎: 重症筋無力症患者骨格筋における補体制御因子発現に関する検討, 第64回日本神経学会学術大会, 千葉, 2023.5, 臨床神経学 63巻 suppl: S196</p> <p>吉川弘明, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 酒井康成, 野村芳子, 松井真, 足立由美, <u>岩佐和夫</u>, 古川裕, 桑原聡: 10年間における我が国の重症筋無力症臨床像の変化 全国疫学調査2006と同2018の比較, 第64回日本神経学会学術大会, 千葉, 2023.5, 臨床神経学 63巻 suppl: S196</p> <p><u>Kazuo Iwasa</u>, Yutaka Furukawa, Hiroaki Yoshikawa, Masahito Yamada, Kenjiro Ono: CD59 cluster at the neuromuscular junction in skeletal muscles and its role in Myasthenia Gravis, WCN 2023 26th World Congress of Neurology, Montreal, 2023.10</p> <p>日高未希恵, 原田奈穂子, 金子美千代, <u>今井秀樹</u>, 牛村春奈, 山路朋子, 桜井志保美: 高齢化・過疎が進行する農村部における高齢者の社会的つながりの現状. 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口2023, 12. (抄録集p.150)</p> <p><u>今井秀樹</u>: 化学物質—複合曝露をどうとらえるか. 第88回日本健康学会総会シンポジウム1, 弘前, 2023, 12. (抄録集p.30)</p> <p>Ushimura H, <u>Imai H</u>, Hidaka M, Muroso N, Yamaji T, Sakurai</p>

	<p>S : Tongue pressure is associated with oral health-related quality of life and nutritional status among Japanese elderly people, The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, 2024</p> <p><u>今井美和</u>, <u>亀田幸枝</u> : 若年成人女性のHPVワクチンキャッチアップ接種行動に関連する因子. 第42回日本思春期学会 総会・学術集会 (東京), 2023. 8. 25-27</p> <p><u>亀田幸枝</u>, *<u>登美礼子</u>, <u>今井美和</u> : 性成熟期の男女別にみた妊孕性知識と関連する因子. 第42回日本思春期学会 総会・学術集会 (東京), 2023. 8. 25-27</p> <p>近藤久貴, 田中健二郎, 兒玉大介, 相羽凜花, 時国玲羅, 野村春香, 井上誠, <u>平居貴生</u> : マウス卵巣摘出モデルにおけるNf13によるRANKLの制御, 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会 合同大会, 横浜, 2023. 9</p> <p>時国玲羅, 相羽凜花, 野村春香, 井上誠, <u>平居貴生</u> : 牛蒡子抽出エキスとその活性成分アルクチゲニンによる時計遺伝子BMAL1の発現調節, 第40回和漢医薬学会学術大会、富山、2023. 8</p> <p>相羽凜花, 野村春香, 時国玲羅, 井上誠, <u>平居貴生</u> : 骨代謝制御におけるレチノイド関連オーファン受容体RORαの標的分子の探索, 第24回応用薬理シンポジウム、横浜, 2023. 9</p> <p>その他の発表</p> <p>吉川弘明, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 酒井康成, 野村芳子, 松井 真, 本村政勝, 鶴沢顕之, 今井富裕, 鈴木重明, 中根俊成, 足立由美, <u>岩佐和夫</u>, 古川裕, 東昭孝, 桑原聡 : 重症筋無力症の治療方法に関する検討—全国疫学調査2006と2018の比較—, 令和5年合同班会議, 東京, 2024. 1, 厚生労働省難治性疾患政策研究班 (神経免疫班) AMED難治性疾患実用化研究班 令和5年合同班会議抄録集, 2024. 1</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>< 科学研究助成基金助成金 ></p> <p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>岩佐和夫</u>, 吉川弘明, 野崎一郎 : 重症筋無力症の新規病態 : 免疫チェックポイント分子と補体制御因子および治療への発展, 2021-2023, 学術研究助成基金助成金基盤研究C</p> <p><u>河合美佳</u>, <u>濱耕子</u>, <u>亀田幸枝</u>, <u>今井美和</u> (赤祖父美和) : 膀胱底の位</p>

	置の縦断的計測による妊産褥婦の尿失禁リスク予測のための指標の探索. (研究課題/領域番号 23K10161) 2023-2026, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
学内研究助成金	<p>岩佐和夫, 今井美和: 横紋筋肉腫細胞 (TE671) の分化過程における補体制御因子機能の解明, 2023, 学内研究助成</p> <p>岩佐和夫: CD59 cluster at the neuromuscular junction in skeletal muscles and its role in Myasthenia Gravis, XXVI World Congress of Neurology (第26回世界神経学会), Montreal, Canada (カナダ、モントリオール), 2023 研究成果公表</p> <p>平居貴生: 末梢時計の新規生物作用と交感神経制御に関する基盤研究. 2023-2024, 学内研究助成</p>
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>日高未希恵, 今井秀樹, 他: 高齢者における尿失禁を起因とする社会的孤立・孤独のメカニズムとフレイルとの関連. 2023年度大和証券財団調査研究助成</p> <p>今井秀樹, 日高未希恵, 牛村春奈, 山路朋子, 桜井志保美, 室野奈緒子: 2023年度すず健やか事業検証事業</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>石田元彦, 市丸徹, 大江真吾, 他6名: 障害者による粗飼料生産での機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発, R4 ~ R5, 農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター・イノベーション創出強化研究推進事業 基礎研究ステージ (基礎研究型)</p>
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	2023年度日本衛生学雑誌最優秀論文賞: 今井秀樹, 水野佑紀, Cindy Rahman AISYAH, 増田桃佳, 小西祥子
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p>岩佐和夫: 講演「認知症の告知について」, 金沢市医師会 もの忘れ健診症例検討会, 金沢健康プラザ大手町東館大研修室&WEB配信, 2024. 2. 14</p> <p>岩佐和夫: 講演「重症筋無力症患者骨格筋における補体制御因子発現」, 第9回日本筋学会学術集会 ランチョンセミナー. 2023. 8. 18 大阪</p> <p>岩佐和夫: 講演「中外製薬 NMOSD症例検討会」, 2023. 9. 21 金沢</p> <p>岩佐和夫: 講演「16ヶ月の間にFcRn阻害薬を5クール投与した抗</p>

AChR抗体陽性MGの臨床経過」, FcRn Forum in Kanazawa. 2023.11.17
金沢

岩佐和夫：講演「神経免疫疾患のUp to Date」, 脳神経内科UpDate.
2024.2.27 金沢

岩佐和夫：金沢大学教育教員, 金沢大学医学類4年生系統講義「末梢
神経障害」, 2024.1.19

岩佐和夫：加賀脳卒中地域連携協議会 理事

岩佐和夫：金沢市医師会 生涯教育委員会, 認知症健診精度委員会

岩佐和夫：日本神経学会 代議員

岩佐和夫：日本神経免疫学会 評議員

岩佐和夫：日本神経感染症学会 評議員

岩佐和夫：日本神経学会ガイドライン委員会

岩佐和夫：神経内科懇話会 世話人

岩佐和夫：石川脳血管障害研究会 世話人

岩佐和夫：金沢大学附属病院 臨床診療従事者（脳神経内科）

岩佐和夫：国立病院機構医王病院 嘱託医・看護研究指導

岩佐和夫：小松ソフィア病院 脳神経内科嘱託医

今井秀樹：長崎大学医学部非常勤講師

今井秀樹：羽咋市国民健康保険運営協議会委員

今井秀樹：羽咋市情報公開及び個人情報保護審査委員会委員

今井秀樹：羽咋市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査委
員会委員

今井秀樹：環境省化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信
頼性評価作業班班員

今井美和：日本病理学会 学術評議員

今井美和：石川県奨学生選考審査会委員

今井美和：石川県公害審査会委員

平居貴生：かほく市食育推進連絡会

平居貴生：大学コンソーシアム石川情報発信部会副部会長

市丸徹：金城大学 病理学 非常勤講師 2023.9～2024.2

西本壮吾, 市丸徹：金城大学 生理学実習 非常勤講師 2023.9～
2024.2

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

岩佐和夫, 牛村春奈(企画), 中村悦子(講演):「地域栄養ケアを極

める！～生き活きと生きるためにできること～」稲葉長彦(リハビリ)
「明日からすぐにできる！～元気いっぱいパーキンソン体操～」 地
域ケア総合センター事業，第4回パーキンソン病いきいきリハビリ教
室（七尾市） 2023. 7. 30

岩佐和夫，牛村春奈(企画)，服部信孝（講演）：「パーキンソン病治
療の明るい未来を語る」，柳明弘（リハビリ），田川壮也（リハビリ），
KMCスタッフ（リハビリ）：地域ケア総合センター事業，第5回パーキ
ンソン病いきいきリハビリ教室（金沢市）. 2024. 1. 21

今井美和：教員からの推薦図書コーナー 2023. 6-7

今井美和：ラジオ出演 FMかほく 月曜なるほどインタビュー 「子
宮頸がん予防」，2023. 6. 19

平居貴生：食品技術研究者ネットワーク幹事

平居貴生：日本薬理学会評議員

6.4 基礎看護学講座

所属（大講座等）・職位	基礎看護学講座・教授	氏名	石川 倫子
	基礎看護学講座・准教授		寺井梨恵子
	基礎看護学講座・講師		田村 幸恵
	基礎看護学講座・講師		南條 裕子
	基礎看護学講座・講師		石井 和美
	基礎看護学講座・助教		瀬戸 清華
	基礎看護学講座・助教		中嶋 知世
	基礎看護学講座・助教		千田明日香

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p><査読有></p> <p>寺井梨恵子, 丸岡直子, 林静子, 石川倫子: 視覚情報に基づく転倒予防ケア決定までの臨床判断ルーブリックの作成—信頼性・妥当性の検討—. 医療の質・安全学会誌, 19(1), 14-25, 2024.1</p> <p>丸岡直子, 石川倫子, 中嶋知世, 田村幸恵, 湯野智香子: 患者・家族との対話を基盤とした在宅療養移行支援研修プログラムに参加した看護師の学びの内容と行動の変化. 日本看護管理学会誌, 27(1), 188-197, 2023.7</p> <p>北川智, 丸岡直子, 石川倫子: 病院に勤務する副看護師長が看護師長と協働関係を構築するプロセス. 看護実践学会誌, 35(1), 59-70, 2023.3</p> <p>池田瑠海, 今井咲希, 岸凜太郎, 中嶋知世, 石川倫子: コロナ禍における臨地実習で看護学生が患者とのコミュニケーションで感じた困難と工夫—マスク着用とフィジカルディスタンスの影響から—. 石川看護雑誌, 21, 21-44, 2024.3</p> <p>佐野明世, 新井里美, 石井和美, 蛸島智子, 実法千恵, 葛西傑: がん患者へアロマセラピーを取り入れた足湯の効果 がん関連倦怠感をCFSとNRSで評価して. 日本看護学雑誌 18(2), 24-29, 2023</p> <p><査読無></p> <p>寺井梨恵子, 松本智里, 瀬戸清華: 本学の地域貢献事業におけるSDGs講座の展開. 石川看護雑誌, 35-44, 2024.3</p>

その他の原稿	
<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）</p>	<p>石川倫子，藤内美保，加藤克典，千田明日香，瀬戸清華：診療看護師(NP)における在宅療養移行支援に関する質指標の開発，第9回日本NP学会学術集会，札幌，2023. 10，第9回日本NP学会誌，7，106，2023</p> <p>中川智絵，石川倫子，丸岡直子，千田明日香，瀬戸清華：看護師長が所属部署の課題達成に向けて看護師と協働するための行動，第27回日本看護管理学会学術集会，東京，2023. 8，第27回日本看護管理学会学術集会Web抄録プログラム，P12-5，2023</p> <p>大岩麻紀，石川倫子，丸岡直子：女性看護師が末子の就学後もキャリアを継続するための課題と調整行動，第27回日本看護管理学会学術集会，東京，2023. 8，第27回日本看護管理学会学術集会抄録集，P5-3，2023</p> <p>小西千恵子，石川倫子，丸岡直子：新人看護師の1年間におけるコミュニケーション能力の変化と影響要因，第33回日本看護教育学会学術集会，福岡，2023. 8</p> <p>千田明日香，石川倫子：COVID-19患者専用病棟に配置する看護師の選出において重視された基準および影響要因，第43回日本看護科学学会学術集会，山口，2023. 12，第43回日本看護科学学会学術集会WEB抄録集，P2-8，2023</p> <p>塗師和佳奈，高橋真美，加藤克典，石川倫子：看護学生の手指衛生及び手荒れ予防行動の実施状況と手荒れとの関連，第16回看護実践学会学術集会，金沢，2023. 9，第16回看護実践学会学術集会抄録集，44，2023</p> <p>高橋真美，塗師和佳奈，加藤克典，石川倫子：看護学生における手荒れ予防の知識と教育へのニーズに関する実態調査，第16回看護実践学会学術集会，金沢，2023. 9，第16回看護実践学会学術集会抄録集，45，2023</p> <p>林静子，新田明日香，寺井梨恵子：移乗用具を用いた車椅子移乗時における被介助者の動作の特徴，第2回看護サイエンスケア学会，富山，2024. 3，第2回看護サイエンスケア学会抄録集，11，2024</p> <p>伊東愛，南條裕子，永井律子，遠藤美代子，丸山達也，森豊隆志：東大病院Phase1ユニットにおけるインシデント低減に向けたシステム改善に関する研究第2報，第44回日本臨床薬理学会学術総会，神戸，2023. 12，日本臨床薬理学会学術総会抄録集，44_1-C-002-1，2024. 1</p>

	<p>(優秀発表賞)</p> <p>角田希世美, <u>南條裕子</u>, 遠藤美代子, 丸山達也, 森豊隆志: 東大病院Phase1ユニットにおける継続可能な急変対応の教育システムの構築。第44回日本臨床薬理学会学術総会, 神戸, 2023.12, 日本臨床薬理学会学術総会抄録集, 44_2-C-014-2, 2024.1</p> <p><u>石井和美</u>, 石浦夕奈, 山下敬吾, 石丸章宏, 宮永葵子, 杉森千代子, 釜谷友紀, 宮崎彩乃, 松井希代子: ロールプレイと動画視聴を取り入れた口腔内吸引演習の効果—情意面の強化を目指した工夫—, 第5回日本看護シミュレーションラーニング学会, 東京, 2024.2, 第5回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会抄録集, 36, 2024</p> <p>垣花渉, <u>瀬戸清華</u>, 澤田忠幸: 探究学習が看護学生の自己効力感に及ぼす影響—双方向型の授業実践の観点から—。大学教育学会第45回大会, 大阪, 2023.6, 大学教育学会第45回大会発表要旨集録,</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が分担者 林静子, 任和子, 丸岡直子, <u>石川倫子</u>, 後藤彰彦, 林篤司: VR学習システムを活用した看護技術教育プログラムの開発と評価, R2～R6, 科学研究費補助金基盤研究(B), 40千円</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>石川倫子</u>, 藤内美保, <u>寺井梨恵子</u>, <u>田村幸恵</u>, <u>瀬戸清華</u>, <u>中嶋知世</u>: 診療看護師(NP)が患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発, R5～R7, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p><u>寺井梨恵子</u>: パフォーマンス評価を用いた看護師の動作観察能力を高める教育プログラムの効果, 2019年度～2022年度(2023年度まで延長), 研究活動スタート支援</p> <p><u>田村幸恵</u>, 木森佳子, 小林宏光: 在宅療養患者への看護師による携帯エコーを使用した心不全評価の臨床的意義, 2020～2023, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p><u>石井和美</u>: 清拭による皮膚ダメージの可視化と皮膚を傷つけないケア技術の考案, R5～R8, 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研</p>

	<p>究(C)</p> <p><u>瀬戸清華</u>：ALS患者・家族のピアサポートの様相とピアサポート支援プログラムの試案の作成. R2～R5延長, 学術研究助成基金助成金若手研究, 1340千円</p> <p>本学教員が分担者</p> <p><u>澤田忠幸</u>, <u>垣花渉</u>, <u>石川倫子</u>：初年次教育は学生の汎用的技能の育成にいかにかに寄与しうるか？ IRの視点からの検証, R2～R5, 科学研究費補助金基盤研究(C), 100千円</p>
学内研究助成金	<p><u>寺井梨恵子</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>峰松健夫</u>, <u>松本勝</u>, <u>佐能唯</u>, <u>千原裕香</u>, <u>大橋史弥</u>, <u>河合美佳</u>, <u>額奈々</u>, <u>室野奈緒子</u>, <u>高濱圭子</u>, <u>牛村春奈</u>：大学生の主体的な学習を促進する教育DX導入の有効性の評価, 2023-2024年度</p> <p><u>瀬戸清華</u>, <u>垣花渉</u>：かほく市を舞台にしたフィールドワーク型探究学習プログラムの作成, 2022～2023年度</p>
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>石川倫子</u>：2023年度石川県看護教員現任研修事業（1100千円）</p> <p>本学教員が分担者</p>
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	<p><u>寺井梨恵子</u>：資格取得, 石川県災害ボランティアコーディネーター, 2023. 6</p> <p><u>伊東愛</u>, <u>南條裕子</u>, <u>永井律子</u>, <u>遠藤美代子</u>, <u>丸山達也</u>, <u>森豊隆志</u>：東大病院Phase1ユニットにおけるインシデント低減に向けたシステム改善に関する研究第2報, 第44回日本臨床薬理学会学術総会, 神戸, 2023. 12, 日本臨床薬理学会学術総会抄録集, 44_1-C-002-1, 2024. 1 (優秀発表賞)</p>
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>石川倫子</u>：日本看護管理学会 評議員</p> <p><u>石川倫子</u>：日本看護管理学会 専任査読委員</p> <p><u>石川倫子</u>：日本看護学教育学会 評議員</p> <p><u>石川倫子</u>：日本看護学教育学会 専任査読者</p> <p><u>石川倫子</u>：日本看護研究学会 評議員</p>

石川倫子：看護実践学会 理事
石川倫子：看護実践学会 専任査読委員
石川倫子：看護実践学会 第18回看護実践学会学術集会企画委員
石川倫子：石川県看護協会認定看護管理者教育課程運営委員(委員長)
石川倫子：金沢医科大学病院特定行為研修部門運営委員会委員
石川倫子：金沢医療センター特定行為研修管理委員会委員
石川倫子：北陸大学薬学部「看護学」非常勤講師
石川倫子：石川県准看護師試験委員
石川倫子：認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）非常勤講師，
石川県看護協会，2023. 8. 11, 8. 18
石川倫子：新人看護職員研修 教育担当者研修講師，石川県看護協
会，2023. 8. 30
石川倫子：金沢医科大学病院特定行為研修（OSCE）非常勤講師，金
沢医科大学病院，金沢医科大学病院，2023. 9. 25

寺井梨恵子：かほく市介護認定審査員
寺井梨恵子：石川県立中央病院，看護研究指導・講評，2023. 5 ～
2024. 3
寺井梨恵子：金城大学公衆衛生看護学専攻科，「地域と看護」講義，
2023. 5. 26
寺井梨恵子：津幡町社会福祉協議会，津幡町いきいきサロン研修会「認
知症世界の歩き方ダイアログ」，2023. 11. 7

南條裕子：集中治療医学会 評議員

田村幸恵：看護研究指導，JCHO金沢病院，2023. 6. 20, 9. 27, 10. 19,
11. 30

石川倫子，池田富三香，寺井梨恵子，田村幸恵，南條裕子，石井和
美，中嶋知世，瀬戸清香，千田明日香：石川県看護教員現任研修「看
護基礎教育に臨床判断モデルを活用する」，石川県地場産業振興セン
ター第3研修室，2023. 9. 9

瀬戸清華：令和5年度かほく市介護認定審査会委員
瀬戸清華：令和5年度宝達志水町介護認定審査会委員
瀬戸清華：宝達志水病院看護研究指導，2023. 8. 23 11. 22 2024. 3. 8
瀬戸清華：石川中央保健福祉センター管内令和5年度小児慢性特定疾
病児童等の保護者交流会「慢性疾患をもつ子どもの子育ての工夫」
講師，2023. 11. 2

瀬戸清華：南加賀保健福祉センター管内令和5年度小児慢性特定疾病児童等の保護者交流会「当事者同士のピアサポートを広げるために」講師, 2023. 12. 7

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 瀬戸清華, 千田明日香：ご当地版 在宅療養移行支援システム創り（第2弾）, 石川県立看護大学地域ケア総合センター, Web開催, 2023. 10. 7

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世, 瀬戸清華, 千田明日香：2023年度石川県看護教員現任研修非常勤講師, 石川県, 2023. 6. 17, 9. 16

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世, 瀬戸清華, 千田明日香：能登半島地震による田鶴浜高等学校教育支援（石川県教育委員会要請）：校内実習支援, 2024. 2. 21, 3. 4・13・19.

石川倫子：能登半島地震による避難所支援（県庁健康福祉課要請）：避難者の健康観察, 2024. 2. 24

寺井梨恵子, 瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「認知症世界の歩き方 対話&デザイン」, 金沢未来まち創造館, 2023. 8. 10

寺井梨恵子, 森雅貴, 松本智里, 瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「脱炭素まちづくりカレッジ」, 金沢未来まち創造館, 2023. 8. 10

寺井梨恵子, 瀬戸清華, 松本智里, 武山雅志, 室野奈緒子：風水害24体験会, 石川県立看護大学, 2023. 12. 20

寺井梨恵子：風水害24作戦会議, 実践紹介-R6年度 能登地震災害ボランティア参加を通して, issue+design, Zoom, 2024. 2. 28

寺井梨恵子：石川県災害ボランティアコーディネーター活動, かほく市災害ボランティアセンター, 受付業務・災害ボランティアサークルふたばとの調整, 2024. 2. 7/2. 10/2. 17/3. 8/3. 23

寺井梨恵子：石川県災害ボランティアコーディネーター活動, 七尾市災害ボランティアセンター, 現地調査・マッチング資料作成・電話受付調整業務, 2024. 2. 20/2. 26/2. 28/3. 14

寺井梨恵子：石川県災害ボランティアコーディネーター活動, 能登町災害ボランティアセンター, 受付・ボランティア送迎・資材管理・帰着報告・ボランティア実施報告入力等, 2024. 2. 23/3. 9/3. 20/3. 30/3. 31

牧野智恵, 寺井梨恵子, 佐能唯：令和6年度能登半島地震被災地応援派遣, 金沢市2次避難所（キゴ山, 千寿閣）, 健康観察等, 2024. 2. 21

寺井梨恵子：金沢市社会福祉協議会, 金沢市2次避難所（額谷ふれあいセンター）一般ボランティア, 受付, 資材整理, 清掃, お話しボ

ランティア, 歩行介助等, 2024. 2. 24

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 中嶋知世, 千田明日香:
地域ケア総合センター人材育成事業: 能登北部4 病院の看護部長と
共同企画「ご当地版 在宅療養移行支援システム創り第2 弾」, 石川
県立看護大学・ZOOMオンライン, 2023. 10. 7

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世,
瀬戸清華, 千田明日香: 能登半島地震による田鶴浜高等学校教育支
援 (石川県教育委員会要請): 校内実習支援, 2024. 2. 21, 3. 4・13・19.

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世,
瀬戸清華, 千田明日香: 2023年度石川県看護教員現任研修非常勤講師,
石川県, 2023. 6. 17, 9. 16

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 瀬戸清華,
千田明日香: ご当地版 在宅療養移行支援システム創り (第2弾), 石
川県立看護大学地域ケア総合センター, Web開催, 2023. 10. 7

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世,
瀬戸清華, 千田明日香: 2023年度石川県看護教員現任研修非常勤講
師, 石川県, 2023. 6. 17, 9. 16

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世,
瀬戸清華, 千田明日香: 能登半島地震による田鶴浜高等学校教育支
援 (石川県教育委員会要請): 校内実習支援, 2024. 2. 21, 3. 4・13・19.

南條裕子: 能登半島地震褥瘡ケア支援, 2024. 2 ~ 3

南條裕子: レスピラトリーケアナーシングカンファレンス 監事

南條裕子: 第51回集中治療医学会学術集会 査読委員

南條裕子: 第51回集中治療医学会学術集会 座長 札幌, 2024. 3

南條裕子: 東京大学医学部附属病院 看護職員現任研修ラダーV看護
研究 研究指導者

南條裕子: 東京大学医学部附属病院救急・集中治療科 届出研究員

南條裕子: 東京大学大学院医学系研究科老年看護学分野 客員研究員

南條裕子: FMかほく (なるほどインタビュー) 出演「敗血症の予防
と早期発見」2023. 11

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 瀬戸清華,
千田明日香: ご当地版 在宅療養移行支援システム創り (第2弾), 石
川県立看護大学地域ケア総合センター, Web開催, 2023. 10. 7

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世,
瀬戸清華, 千田明日香: 2023年度石川県看護教員現任研修非常勤講
師, 石川県, 2023. 6. 17, 9. 16

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世, 瀬戸清華, 千田明日香 : 能登半島地震による田鶴浜高等学校教育支援 (石川県教育委員会要請):校内実習支援, 2024. 2. 21, 3. 4・13・19.
石井和美 : 能登半島地震による避難所支援 (県庁健康福祉課要請) : 避難者の健康観察, 2024. 2. 17 R6能登半島地震 避難所支援 (1日間)

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世, 瀬戸清華, 千田明日香 : 能登半島地震による田鶴浜高等学校教育支援 (石川県教育委員会要請):校内実習支援, 2024. 2. 21 3. 4 3. 13 3. 19
瀬戸清華 : 能登半島地震による避難所支援 (県庁健康福祉課要請) : 避難者の健康観察, 2024. 2. 12 3. 1

池田富三香, 石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 南條裕子, 中嶋知世, 瀬戸清華, 千田明日香 : 令和5年度石川県看護教員現任研修, 石川県立看護大学地域ケア研修室, 2023. 6. 17

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 南條裕子, 石井和美, 中嶋知世, 瀬戸清華, 千田明日香 : 令和5年度石川県看護教員現任研修, 石川県地場産業振興センター, 2023. 9. 16

池田富三香, 石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 南條裕子, 瀬戸清華, 中嶋知世, 千田明日香 : 令和5年度石川県看護教員現任研修, 石川県立看護大学地域ケア研修室, 2023. 6. 17

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 南條裕子, 石井和美, 瀬戸清華, 中嶋知世, 千田明日香 : 令和5年度石川県看護教員現任研修, 石川県立地場産業センター, 2023. 9. 16

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 千田明日香 : 地域ケア総合センター事業「ご当地版 在宅療養移行支援システム創り」, オンライン, 2023. 10. 7

千田明日香 : 金沢マラソンボランティア, 金沢市, 2023. 10. 31

千田明日香 : 能登半島地震による避難所支援 (県庁健康福祉課要請) : 避難者の健康観察, 2024. 2. 11・28.

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 石井和美, 南條裕子, 中嶋知世, 瀬戸清華, 千田明日香 : 能登半島地震による田鶴浜高等学校教育支援 (石川県教育委員会要請):校内実習支援, 2024. 2. 21, 3. 4・13・19.

6.5 母性看護学講座

所属（大講座等）・職位	母性看護学講座・教授	氏名	濱 耕子
	母性看護学講座・教授		亀田 幸枝
	母性看護学講座・教授		米田 昌代
	母性看護学講座・講師		曾山 小織
	母性看護学講座・助教		桶作 梢
	母性看護学講座・助教		河合 美佳
	母性看護学講座・助教		野沢ゆり乃

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p><査読有></p> <p>桶作梢, 濱耕子, 米田昌代: AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティにまつわる経験. 日本看護科学会誌, 43, 1-10, 2023.6</p> <p>桶作梢, 濱耕子, 米田昌代: AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティを評価/アセスメントするツールに関する文献検討. 看護実践学会誌, 35(3), 35-44, 2024.3</p> <p>西真理子, 米田昌代: 病産院の助産師が産後健診に行っている母親のメンタルヘルススクリーニングの実際. 看護実践学会, 35(3), 2024.3</p> <p><査読無></p>
その他の原稿	<p>濱耕子: MY RESEARCH, 産前産後の身体の不調に対応できる全機能一体型アンダーウェアの開発, 石川県立看護大学 大学新聞「CAMPUS NET」, 44, 5, 2023.11</p> <p>米田昌代: 今ふたたびふれあいを大切に、学生生活を! サークル活動・自治会・大学祭・異学年交流・地域交流 応援します!, 石川県立看護大学広報誌「CAMPUS NET」, 44巻, 2, 2023.11</p> <p>米田昌代: 学生も支援する教員もいきいきと主体的にそれぞれの自己実現に向かって進んでいくための学生支援体制の構築, 令和5年度看護系大学教員向け課題解決型研修報告集, 看護学教育研究共同利</p>

	<p>用拠点千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター, p22, 2024.2</p>
<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）</p>	<p>中田覚子, 濱耕子：日本人妊婦のQuality of Life尺度の開発～信頼性・構成概念妥当性・基準関連妥当性の検証～. 第37回日本助産学会学術集会, 一般口演オンライン, 東京, 2023.10, 第37回日本助産学会学術集会プログラム, 13, 2023</p> <p>Kozue Okesaku, Kouko Hama, Masayo Yoneda: Evaluate the content validity of an information-sharing tool on the sexuality of adolescent and young adult cancer survivors. 27th East Asia Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, 2024.3, 6-7, 2024</p> <p>亀田幸枝, *登美礼子, 今井美和：性成熟期の男女別にみた妊孕性知識と関連する因子. 第42回日本思春期学会 総会・学術集会（東京）, 2023. 8. 25-27</p> <p>今井美和, 亀田幸枝：若年成人女性のHPVワクチンキャッチアップ接種行動に関連する因子. 第42回日本思春期学会 総会・学術集会（東京）, 2023. 8. 25-27</p> <p>西真理子, 米田昌代：病産院の助産師が行う2週間健診を中心とした産後健診における母親へのメンタルヘルスケアの実践～メンタルヘルススクリーニングに焦点を当てて～. 石川, 6, 第39回石川県母性衛生学会総会・学術集会プログラム・抄録集, 13, 2023</p> <p>*寺田真理, 米田昌代：勤務助産師の乳房ケアに対する困難さとその対処経験を通して身につけた自分なりの乳房ケア. 石川, 6, 第39回石川県母性衛生学会総会・学術集会プログラム・抄録集, 23, 2023</p> <p>*村上あゆ, 米田昌代：夫婦で育児をしていくために開業助産師が行う支援 ～コペアレンティングに着目して～. 大阪, 10, 第64回日本母性衛生学会総会・学術集会抄録集, 178, 2023</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>< 科学研究費補助金 > 本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>

	<p><科学研究助成基金助成金></p> <p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>瀧耕子</u>，<u>城賀本晶子</u>：産後女性における骨盤矯正機能付き筋力サポートアンダーウェア着用効果の検証，2023-2025，学術研究助成基金助成金基盤研究（C），全期間総額3,770千円</p> <p><u>亀田幸枝</u>，分担者：<u>瀧耕子</u>，<u>米田昌代</u>，<u>曾山小織</u>，<u>河合美佳</u>，<u>野沢ゆり乃</u>：周産期の助産実践能力形成を促すルーブリックの開発と有用性，H31～R4（R6まで延長），学術研究助成基金助成金基盤研究（C）</p> <p><u>米田昌代</u>：周産期喪失に対するオンラインサポートグループミーティングシステムの開発と評価，2020-2023，科学研究費補助金基盤研究（C）学術研究助成基金助成金基盤研究（C）</p> <p><u>西村真実子</u>，<u>金谷雅代</u>，<u>千原裕香</u>，<u>米田昌代</u>，<u>曾山小織</u>：虐待や育児困難に悩む母へのペアレンティングプログラムを活用した継続的支援の評価，2019-2023，科学研究費助成事業基盤研究（C）</p> <p><u>曾山小織</u>：神経管閉鎖不全の発生リスク低減のための葉酸サプリメント摂取に関する女性の認識，2019-2023，科学研究費助成事業助成金基盤研究（C）</p> <p><u>桶作梢</u>：治療後に出産するAYA世代がんサバイバーの周産期ケアモデル構築のための研究，2019-2023，科学研究費助成事業助成金若手研究</p> <p>代表者：<u>河合美佳</u>，分担者：<u>瀧耕子</u>，<u>亀田幸枝</u>，<u>今井美和</u>：膀胱底の位置の縦断的計測による妊産褥婦の尿失禁リスク予測のための指標の探索，R5～R8，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>代表者：<u>高橋由紀</u>，分担者：<u>玉腰浩司</u>，<u>西田友子</u>，<u>野沢ゆり乃</u>：母乳育児を支える出産直後から切れ目ない早期母子接触実践プログラム構築，2023-2027，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>河合美佳</u>，<u>野沢ゆり乃</u>，<u>桶作梢</u>，<u>千原裕香</u>，<u>後藤亜希</u>：母性看護学実習の分娩期の学びに360度カメラとVRゴーグルを導入したことによる効果，R4-5，石川県立看護大学学内研究助成</p>

	垣花渉, 今井秀樹, 平居貴生, 大西陽子, 室野奈央子, 桶作梢: 健康と観光を癒合したヘルスプロモーションの推進, R4-5, 石川県立看護大学学内研究助成
研究助成金	本学教員が研究代表者 本学教員が分担者
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	米田昌代: 公益社団法人日本助産師会 会長表彰 2023. 4. 1 桶作梢: AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティに関する情報共有ツールの開発. 石川県立看護大学博士論文, 2023
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<委嘱状や依頼文書等が来たもの> 瀧耕子: 一般社団法人日本助産学会 機関誌「日本助産学会誌」専任査読者, 2023年10月～12月に論文1件査読・再査読 瀧耕子: 一般社団法人日本看護学教育学会 機関誌「日本看護学教育学会誌」専任査読者, 2023年5月～9月に論文1件査読・再査読, 2024年2月に論文1件査読 瀧耕子: 石川県建築審査会委員 (区分: 公衆衛生), 2023年度は開催なし 瀧耕子: 石川県開発審査会委員 (区分: 公衆衛生), 2023年9月6日, 2024年2月21日 瀧耕子: かほく市創生総合戦略推進計画事業に係る外部評価委員会 (有識者会議) 委員長, 2023年9月20日 亀田幸枝: 第32回母乳育児シンポジウム 実行委員 亀田幸枝: 日本助産学会 代議員 米田昌代: 日本看護学会学術集会 一般演題査読 米田昌代: 一般社団法人日本看護研究学会 専任査読委員 米田昌代: 一般社団法人日本助産学会 代議員 第37回日本助産学会学術集会抄録原稿査読 米田昌代: 日本母性看護学会 評議員 専任査読委員 第25回日本母性看護学会学術集会一般演題査読 2023. 2 米田昌代: 看護実践学会 査読委員 米田昌代: 公益社団法人大学コンソーシアム運営委員会委員 米田昌代, 千原裕香: 令和5年度かほく市子育て支援事業「幼児NP」ファシリテーター, 2023. 8～9

米田昌代：日本助産師会主催 厚生労働省委託事業「不妊症・不育症ピアサポーター等の養成研修」都道府県委託業務ピアサポーター向け・医療従事者向けグループワークファシリテーター・記録係，大阪府助産師会，2023.12.23

米田昌代：母乳育児シンポジウム実行委員，2023.11～2024.8

米田昌代：ペリネイタル・ロスを中心とした子どもを亡くした女性への支援～地域でできるグリーフケア～実践的プログラム，石川県健康福祉部少子化対策監室子育て支援課母子保健グループ令和5年度内母子保健コーディネーター等研修会グリーフケア研修，2023.11.17

米田昌代：石川県立鹿西高校1年生進路ガイダンス分野別説明会，石川県立鹿西高等学校，2024.3.13

桶作梢，河合美佳：性教育講座講師，かほく市立小学校（全6校），2023.9～2024.2

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

東浩司，瀧耕子，源司瑞季：石川県健康福祉部少子化対策監室主催次代を担う大学生向けライフプラン・キャリアデザインセミナー運営，石川県立看護大学（かほく市），2024年1月17日

① 「人生発見伝！今から考えよう、充実した人生・キャリアの形成について～仕事も生活も充実した毎日に向けて～」出前講座の開催（講師：株式会社ソラーレ 代表 東浩司氏）

② 結婚や妊娠・出産等に関する正しい知識に基づいたライフプラン形成について～これからの自分を考えてみよう～（講師：石川県少子化対策監室母子保健グループ 異保健師）

瀧耕子：月曜なるほどインタビュー，産前産後一体型の腹帯機能を持つサポートウェアの開発と着用体験の場づくりについて，FMかほく，2024.3.18

亀田幸枝：金沢がん哲学外来事務局

米田昌代，曾山小織，桶作梢，河合美佳，野沢ゆり乃，他：地域ケア総合センター人材育成事業 ペリネイタル・グリーフケア検討会企画・運営，2023.7.22，2023.2.18

後藤亜希，米田昌代，千原裕香，河合美佳，西村真美子：学童期・思春期のお子様がいるママのための子育て「Aka' akaサロン」ファシリテーター，かほく市総合センターおひさま（かほく市），2023.8～12

米田昌代：地域ケア総合センター地域貢献・連携事業 あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動, 通年

米田昌代, 亀田幸枝, 濱耕子, 曾山小織, 桶作梢, 河合美佳, 野沢ゆり乃：学部学生と助産学生・修了生の交流会, 石川県立看護大学, 2023. 9. 24

米田昌代：SIDS家族の会 医学アドバイザー

米田昌代：NPO法人ワークライフバランス北陸 副理事長

米田昌代：石川グリーンケアの会 グリーンケア・カフェ運営 隔月

曾山小織：月曜なるほどインタビュー, 妊娠前からの葉酸サプリメント摂取について, FMかほく, 2023. 7. 10

瀧澤理穂, 桶作梢, 牛村春奈：地域ケア総合センター人材育成事業「看護研究に活かせる現象学を学ぼう」（講師：群馬大学准教授 高井ゆと里氏, 石川県立看護大学名誉教授 牧野智恵氏）企画・運営・司会, 石川県立看護大学, 2023. 5. 23, 9. 2, 11. 21

益子直紀, 桶作梢, 木全明子, 他：日本がん看護学会小児・AYA世代がん看護特別関心グループ主催学習会「みんなで考える包括的性教育とSRHR（性と生殖に関する健康と権利）～看護師が妊孕性相談の入り口に立つために～」（講師：筑波大学大学院社会精神保健学分野博士課程 産婦人科医 遠見才希子氏）企画・運営, オンライン, 2024. 2. 5

6.6 小児看護学講座

所属（大講座等）・職位	小児看護学講座・教授	氏名	戸部 浩美
	小児看護学講座・講師		千原 裕香
	小児看護学講座・助教		後藤 亜希
	小児看護学講座・助手		西 真理子

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>編者：石垣和子，他3名 共著者：上野まり，徳田真由美，辻村真由子，石垣和子，<u>千原裕香</u>，他16名：看護学テキストNiCE 地域・在宅看護論 I 総論（改訂第3版）地域における暮らしと健康の理解を深める，p130「児童虐待予防」. p255「コラム ヤングケアラー」南江堂，東京，2024.1</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p>Nitta S, Minematsu T, Tomida S, <u>Tobe H</u>, Maeda T, <u>Sanada H</u>: C-fiber numbers increase in the epidermis and papillary dermis of dry skin-derived itch-prone model rats. Journal of Nursing Science and Engineering, 10, 146-156, 2023.7</p> <p><u>Haba D</u>, Itabashi M, Tamai N, <u>Tobe H</u>, <u>Sanada H</u>, Nakagami G: Effectiveness of Vibration Therapy for Hard-to-Heal Wounds in Clinical Study: A Scoping Review. Chronic Wound Care Management and Research, 1-12, 2024.1</p> <p><u>千原裕香</u>，<u>西村真実子</u>：高校生のための改良版「親子交流を通して親になることを考える」プログラムの評価. 子どもの虐待とネグレクト，25(2)，191-201，2023.8</p> <p><u>西真理子</u>，<u>米田昌代</u>：病産院の助産師が産後健診に行っている母親のメンタルヘルスクリーニングの実際. 看護実践学会，35(3)，2024.3</p> <p><査読無></p>
その他の原稿	
学会発表（研究発表・招聘講演，パネリスト，基調講演等）	<p><u>Tobe H</u>, Hart CH: Community-Based Participatory Research in Enhancing Resilience of Childrearing Families in Japan, International Family Nursing Association Conference, Dublin,</p>

	<p>Ireland, 2023.6</p> <p><u>Yuka Chihara</u>: High School Students' Thoughts on "Being a Parent Yourself" After Participating in the "Think About Becoming a Parent Program, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024), Hong Kong, 2024.3</p> <p><u>西真理子</u>, <u>米田昌代</u>: 産院の助産師が行う2週間健診を中心とした産後健診における母親へのメンタルヘルスケアの実践～メンタルヘルススクリーニングに焦点を当てて～, 第39回石川県母性衛生学会, 2023.6, 第39回石川県母性衛生学会抄録集, 13, 2023</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>< 科学研究費補助金 > 本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>< 科学研究助成基金助成金 > 本学教員が研究代表者</p> <p><u>戸部浩美</u>: ADHDを持つ子どもとその親向けのマインドフルネスプログラムの日本語版開発と効果検証, R5～R7, 科学研究費補助金基金若手研究</p> <p><u>千原裕香</u>, <u>後藤亜希</u>, <u>西村真実子</u>, <u>金谷雅代</u>: VRによる多様な家庭の子育て疑似体験を活用した子ども虐待防止支援プログラムの開発, 2023-2026, 科学研究費助成事業基盤研究(C) R5年度直接経費 900千円</p> <p>本学教員が分担者 <u>池田真理</u>, <u>キタ幸子</u>, <u>森崎真由美</u>, <u>小林京子</u>, <u>山路野百合</u>, <u>戸部浩美</u>, <u>篠崎智大</u>, <u>金生由紀</u>: 危機に直面した家族のレジリエンス高めるFamily-focused careの開発とその実装, R5～R9, 学術研究助成基金基盤研究(B)</p> <p><u>金谷雅代</u>, <u>千原裕香</u>, <u>後藤亜希</u>: 学校で医療的ケアを担う看護師への視覚教材等を用いた包括的支援プログラムの構築, 2023-2026, 科学研究費助成事業基盤研究(C) R5年度直接経費 600千円</p> <p><u>子吉知恵美</u>, <u>千原裕香</u>: 発達障害児の保護者の受容を促す保健師の</p>

	評価指標の開発と保健指導実践能力の検証, 2020-2024, 科学研究費助成事業基盤研究(C)
学内研究助成金	西真理子, 戸部浩美, 千原裕香, 後藤亜希: 特別養子縁組に子どもを託す実母支援の実態. R4年度, 石川県立看護大学学内助成, 配分金額236千円
研究助成金	本学教員が研究代表者 本学教員が分担者
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	Nakai A, <u>Minematsu T</u> , Nitta S, Hsu WJ, <u>Tobe H</u> , <u>Sanada H</u> : Development of a method to identify persistent and blanchable redness by skin blotting in mice, 受賞, 日本褥瘡学会 大浦賞, 2023.9 新田汐里, 峰松健夫, 富田早苗, <u>戸部浩美</u> , 前田智徳, 真田弘美: 看護理工学会学会賞, ドライスキン由来の痒み近くモデルラットにおける表皮および真皮乳頭層でのC繊維数の増加. 受賞, 看護理工学会 学会長, 2024.3 <u>戸部浩美</u> , スーザン・ボーゲルズ: テレビ出演, 金沢ケーブルテレビ「北國健康生きがい事業: マインドフルペアレンティング」講演会録画放映, 2023.12 ~ 2024.4 <u>戸部浩美</u> , スーザン・ボーゲルズ: 新聞掲載, 北國新聞朝刊「北國新聞生きがい支援事業: マインドフルペアレンティング」, 2023.12.3, 12.25
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<委嘱状や依頼文書等が来たもの> <u>戸部浩美</u> : 橋を架ける, Team Arise主催, 2023.4.30 (招待講演) オンライン <u>戸部浩美</u> : 保護者世代のメンタルヘルス対策, 三島市PTA連絡評議会主催 第1回家庭教育委員会, 2023.5.10 (招待講演) オンライン <u>戸部浩美</u> : 家族のレジリエンスを高める, 熊本ステーキ扶助協会, 2023.5.13 (招待講演) オンライン <u>戸部浩美</u> : 家族のレジリエンスを高める支援, 北茨城県職保健師会・全国保健師長会茨城県支部合同研修会, 2023.6.10 (招待講演) オンライン <u>戸部浩美</u> : 感情の癒し方・整え方, 子育て支援講習会. 月島保健センター, 2023.7.3 (招待講演) <u>戸部浩美</u> : レジリエンスを高める, さめじまボンディングクリニック

ク職員研修会，2023.7.3（招待講演）

戸部浩美：家族のレジリエンスを高める，広島ステーキ扶助協会・若い女性・初等協会合同セミナー，2023.8.6（招待講演）オンライン

戸部浩美：家族のレジリエンス，群馬県立健康科学大学 地域センター連携事業県民連携講座 令和5年度第1回公開講座，2023.8.19（招待講演）

戸部浩美：＜レジリエンス・ワークショップ＞個人・家庭・職場（親指導）に生かす元気アップ術～ペアでワイワイ楽しくトレーニングしよう！～，土浦市保健所総合母子保健事業，2023.10.10（招待講演）オンライン

戸部浩美：イライラ・不安を笑顔に変える～しなやかに立ち直る力を育てて親子・夫婦・家族関係を強める～，阿見町教育委員会，2023.11.5（招待講演）

戸部浩美：マインドフルペアレンティング，北國健康生きがい事業，北國新聞，令和5年度石川県看護大学プログラム 2023.12.2（招待講演）

戸部浩美：マインドフルペアレンティング，マルトリ予防士養成講座 福井大学友田明美教授主催，2023.12.1～12.31（招待講演）オンライン

戸部浩美：親子関係を強める，あそぼう会子育て世代自殺対策事業メンタルヘルス支援セミナー 三島市健康づくり課，2023.11.9，2024.3.14（招待講演）オンライン

戸部浩美：日本家族看護学会編集委員

戸部浩美：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 理事

戸部浩美：日本看護科学学会 査読委員

戸部浩美：かほく市子ども・子育て支援会議

戸部浩美：さめじまボンディングクリニックスーパーバイザー

米田昌代，千原裕香：令和5年度かほく市子育て支援事業「幼児NP」ファシリテーター，2023.8～9

千原裕香，後藤亜希：令和5年度かほく市子育て支援事業「乳児NP」ファシリテーター，2024.3～4

松本智里，千原裕香：公立能登総合病院 研究指導

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

戸部浩美，スーザン・ボーゲルズ，ジョージ・ランゲンバーグ，千原裕香，後藤亜希，西真理子：マインドフルネスリトレート-自分自身の親になる- 企画・運営，富士研修センター，2023.9.9～9.13

戸部浩美：国際交流事業 米国ブリガムヤング大学現地訪問 大学紹介, 2023. 9. 21 ~ 9. 27

戸部浩美：国際交流事業 インドネシアアーランダ大学本学訪問 大学紹介, 2024. 2. 27

戸部浩美：国際交流事業 米国イェール大学本学訪問 大学紹介, 2024. 3. 15

後藤亜希, 米田昌代, 千原裕香, 西真理子, 河合美佳, 西村真美子：
学童期・思春期のお子様がいるママのための子育て「Aka' akaサロン」
ファシリテーター, かほく市総合センターおひさま(かほく市),
2023. 8 ~ 12

6.7 成人看護学講座

所属（大講座等）・職位	成人看護学講座・教授	氏名	紺家千津子
	成人看護学講座・教授		峰松 健夫
	成人看護学講座・教授		臺 美佐子
	成人看護学講座・准教授		松本 智里
	成人看護学講座・准教授		松本 勝
	成人看護学講座・講師		大西 陽子
	成人看護学講座・講師		今方 裕子
	成人看護学講座・助教		瀧澤 理穂
	成人看護学講座・助教		額 奈々

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>紺家千津子：皮膚・創傷の管理. 地域・在宅看護論Ⅱ（改訂第3版）暮らしの場における多様な支援を考える. 98-107. 南江堂（東京），2024</p> <p>峰松健夫：感染症をめぐる新たな動向と課題. 老年看護学技術（第4版）最後までその人らしく生きることを支援する. 447-451. 南江堂（東京），2023</p> <p>峰松健夫，北村言，真田弘美：老年看護の将来に向けた看護技術の動向. 老年看護学技術（第4版）最後までその人らしく生きることを支援する. 452-458. 南江堂（東京），2023</p> <p>臺美佐子，今方裕子：リンパ浮腫エコー（真皮・皮下組織の観察）. がん看護に生かす画像の見かた読みかた 見るみるわかるBOOK. 252-256. メディカ出版(大阪)，2024</p> <p>東村志保，松本勝，大江真琴，真田弘美：高齢者の生活と看護—加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 4. 排泄. 老年看護学技術（第4版）最後までその人らしく生きることを支援する. 65-84. 南江堂（東京），2023</p> <p>松本勝，須釜淳子：第Ⅲ章 高齢者の生活と看護—加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 7. 体温. 老年看護学技術（第4版）最後までその人らしく生きることを支援する. 108-114. 南江堂（東京），2023</p> <p>松本勝，結束貴臣（編）：がん看護に生かす画像の見かた読みかた見</p>

	<p>るみるわかるBOOK : 検査説明&前・中・後のケアもばっちり! . メディカ出版, 大阪, 2024. 2</p> <p>松本勝, 真田弘美: エコーの可視化で症状評価編 排便のエコー (便の有無・性状・位置・量の観察). YORi-SOUがんナーシング2024年春季増刊 がん看護に生かす画像の見かた読みかた 見るみるわかるBOOK. 2024;233-236.</p> <p>河本敦夫, 松本勝: エコーで病態観察編 胸水・腹水のエコー (液体貯留の観察) . YORi-SOUがんナーシング2024年春季増刊 がん看護に生かす画像の見かた読みかた 見るみるわかるBOOK. 2024;257-260.</p>
<p>学術論文</p>	<p><査読有></p> <p><u>Konya C</u>, Mizokami Y, Kamide R, Tokunaga K, Nakagami G, <u>Sanada H</u>: Reliability and validity of ABCD-Stoma: a tool for evaluation of the severity of peristomal skin disorders, JWOCM, 27(1), 43-54, 2023. 4.</p> <p>Kitamura Y, <u>Konya C</u>: Attitudes, expectations, and lived experiences of cancer patients receiving dendritic cell vaccine therapy in Japan. Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing, 10, DOI:10.1016/j.apjon.2023.100317, 2023. 10</p> <p>Takizawa C, <u>Minematsu T</u>, Nakagami G, Kitamura A, Koudounas S, Kunimitsu M, <u>Sanada H</u>: Expression levels of NPPB, ITGB6, CPNE4, EML5, and ITSN1 in fresh exudates swabbed from critically colonised and infected full-thickness wounds in rats. International Wound Journal. 20(4), 1088-1097. 2023. 4.</p> <p>Nakai A, <u>Minematsu T</u>, Nitta S, Hsu WJ, Tobe H, <u>Sanada H</u>: Development of a method to identify persistent and blanchable redness by skin blotting in mice. Int Wound J. 20(4), 1168-1182. 2023. 4</p> <p>新田汐里, 峰松健夫, 富田早苗, 戸部浩美, 前田智徳, 真田弘美: ドライスキン由来の痒み易知覚モデルラットにおける表皮及び真皮乳頭層でのC線維数の増加. 看護理工学会誌. 10, 146-156. 2023. 4</p> <p>Higuchi S, Yoshida S, <u>Minematsu T</u>, Hatano Y, Notsu A, Ichinose T: Comparison of the effects of bathing and the dry technique on the skin condition of early neonates: A prospective observational study. Annals of Dermatology. 35(4), 256-265. 2023. Doi: 10.5021/ad.22.098. 2023. 8</p> <p>Sari DW, <u>Minematsu T</u>, Yoshida M, Kitamura A, Tomida S, Abe M, Khasanah U, <u>Sanada H</u>: Skin properties of itching without</p>

symptoms and associated factors among older adults in long-term care facilities. *Drug Discoveries & Therapeutics*. 17(3), 201-208. 2023. 7

Qin Q, Haba D, Takizawa C, Tomida S, Kunimitsu M, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: A method for harvesting viable cells from wound dressings. *Experimental Dermatology*. 32(9), 1521-1530. 2023. 9

Haba D, Qin Q, Takizawa C, Tomida S, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: Local low-frequency vibration accelerates healing of full-thickness wounds in a hyperglycemic rat model. *Journal of Diabetes Investigation*. 14(12), 1356-1367. 2023. 12

Haba D, Ohmiya T, Sekino M, Qin Q, Takizawa C, Tomida S, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: Efficacy of wearable vibration dressing on full-thickness wound healing in a hyperglycemic rat model. *Wound Repair Regen*. 31(6), 816-826. 2023. 12

Dai M, Yamashita S, Yang R, Okazaki M, Sugama J, Sanada H: Multidisciplinary approach for successfully managing lymphorrhoea and epidermolysis in lymphoedema patient with Klippel-Trenaunay syndrome: A case study. *British Journal of Nursing*. 33(3), 104-108, 2024.

Katayama M, Dai M: Self-care education for edema control using MOBIDERM® in older patients with lower extremity lymphedema: two case studies, *Lymphoedema Research and Practice*. 11(1), 1-8, 2024.

熊倉良太, 北川麻衣, 大貝和裕, 臺美佐子, 藤野陽, 大桑麻由美: フィルムドレッシング材被覆下の皮膚バリア機能と皮膚表面細菌 —内頸静脈に挿入された中心静脈カテーテルおよびスワングアンツカテーテル固定部の実態— *看護実践学会誌*. 35, 79-82, 2024.

Misawa N, Matsumoto M, Tsuda M, Tamura S, Takatsu T, Yoshihara T, Ashikari K, Kessoku T, Ohkubo H, Higurashi T, Sanada H, Kato M, Nakajima A: Diagnostic ability of ultrasonography compared to computed tomography for feces in the rectum. *Journal of the Anus, Rectum and Colon*. 8(2), 126-131, 2024. 2

Takahashi T, Kitamura A, Matsumoto M, Higashimura S, Nakagami

G, Sanada H: Introduction of augmented reality to the remote nursing consultation system for wound care. Journal of Wound Care. 2023;32: Sup8.

今方裕子, 本井裕子: がん患者が悪い知らせの受容過程において認識した認定看護師・専門看護師の看護実践. 死の臨床, 246(1), 169-174, 2023. 8

<査読無>

紺家千津子: 今、皮膚・排泄ケアの原点に立ち返る. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(1), 1-5, 2023. 4

紺家千津子, 石澤美保子, 竹内由則, 仲上豪二郎, 北村言, 森田光治良, 安倍吉郎, 正壽佐和子, 島田賢一, 田中克己, 樋口浩文, 水木猛夫, 茂木精一郎, 川上重彦, 真田弘美: 第1～4回褥瘡実態調査の推測統計による褥瘡有病率と褥瘡推定発生率の経年評価. 日本褥瘡学会誌, 25(2), 90-95, 2023. 6

石澤美保子, 紺家千津子, 北村言, 安倍吉郎, 島田賢一, 正壽佐和子, 竹内由則, 田中克己, 仲上豪二郎, 樋口浩文, 水木猛夫, 茂木精一郎, 西林直子, 森田光治良: 療養場所別自重関連褥瘡と医療関連機器圧迫創傷を併せた「褥瘡」の有病率, 有病者の特徴, 部位・重症度. 日本褥瘡学会誌, 25(2), 96-118, 2023. 6

石澤美保子, 紺家千津子, 北村言, 安倍吉郎, 島田賢一, 正壽佐和子, 竹内由則, 田中克己, 仲上豪二郎, 樋口浩文, 水木猛夫, 茂木精一郎, 西林直子, 森田光治良: 療養場所別自重関連褥瘡の有病率, 有病者の特徴, 部位・重症度およびケアと局所管理. 日本褥瘡学会誌, 25(2), 119-171, 2023. 6

石澤美保子, 紺家千津子, 北村言, 安倍吉郎, 島田賢一, 正壽佐和子, 竹内由則, 田中克己, 仲上豪二郎, 樋口浩文, 水木猛夫, 茂木精一郎, 西林直子, 森田光治良: 療養場所別医療関連機器圧迫創傷の有病率, 有病者の特徴, 部位・重症度, 発生関連機器. 日本褥瘡学会誌, 25(2), 172-188, 2023. 6

松井優子, 太田裕治, 紺家千津子, 卯野木健, 隅田劍生, 四谷淳子, 峰松健夫, 松本勝, 楠田佳緒: 【看護理工学における産学連携研究の現状と取り組み】(第1章)看護理工学会会員を対象とした産学連携研究の実施状況と阻害要因. 看護理工学会誌, 10, S2-S8, 2023. 8

大桑麻由美, 青木和恵, 安部正敏, 紺家千津子, 真田弘美, 玉井奈緒, 石澤美保子: 「防ぎきれない褥瘡」の定義策定に向けた検討 超高齢者における予備調査報告. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(3), 546-552, 2023. 10

	<p><u>紺家千津子</u>：【看護の力をリスクリングしよう 今、こうしているがわかる看護の最新トレンド2024】(Topic3)褥瘡・創傷ケアのいまアセスメントからケアまで 日常の業務で見直しておきたい褥瘡・創傷ケアの最新トレンド. Expert Nurse, 40(1), 37-42, 2023.12</p> <p><u>寺井梨恵子</u>, <u>松本智里</u>, <u>瀬戸清華</u>：本学の地域貢献事業におけるSDGs講座の展開, 石川看護雑誌, 21, 37-46, 2024.3</p> <p><u>松本勝</u>, <u>玉井奈緒</u>, <u>三浦由佳</u>, <u>真田弘美</u>：第5章 共同研究講座における産学連携研究. 看護理工学会誌, 2023; 10(Supplement), S18-S20.</p> <p><u>仲上豪二郎</u>, <u>麦田裕子</u>, <u>北村言</u>, <u>松本勝</u>, <u>真田弘美</u>：DXの教育・実践への活用：エコーを用いた高齢者のフィジカルアセスメント技法. 老年看護学. 2023;28(1):18-25.</p>
<p>その他の原稿</p>	<p><u>Minematsu T</u>: Skin blotting: A novel self-monitoring method for evaluating skin conditions. 第62回日本生体医工学会大会抄録・予稿集, 324-326, 2023</p> <p><u>臺美佐子</u>：国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会(ILFJ)における国際的学術活動の軌跡と今後の展望—第12回ILFJ学術集会を終えて—。リンパ浮腫管理の研究と実践. 11, 9-13, 2024.</p> <p><u>松本勝</u>：REHACARE2023に参加して. 石川看護雑誌, 21, 33-34, 2023.</p> <p><u>松本勝</u>：エコーで便秘を正しく評価することで根拠ある便秘のアセスメントができる！第2特集がん看護に生かす！ナースのはじめてのエコー. YORi-SOUがんナーシン, 13(3):75-76, 2023.</p> <p><u>松本勝</u>, <u>玉井奈緒</u>, <u>三浦由佳</u>, <u>真田弘美</u>：POCUSのトピックス：看護における超音波検査の活用. I 領域別超音波検査・診断・治療のトピックス. インナービジョン, 38(5):19-22, 2023;</p> <p><u>玉井奈緒</u>, <u>松本勝</u>, <u>三浦由佳</u>, <u>真田弘美</u>：実践講座欄「リハビリテーション医療に活かすエコー検査」排泄ケアにおけるエコー検査の活用. 総合リハビリテーション, 51(4): 425-431, 2023.</p> <p><u>松本勝</u>, <u>玉井奈緒</u>, <u>三浦由佳</u>, <u>真田弘美</u>：便秘エコーを習得してアセスメント力をアップ(第2回) 便秘エコー 撮影方法と画像の読み方. 2023;28(7): 651-655, 2023.</p> <p><u>松本勝</u>, <u>真田弘美</u>：【ケアの質向上と業務の効率化につながるエコー活用 看護師が聴診器のようにエコーを使う時代が到来する!?!】エコーに関する動向と基礎知識 看護師による活用の拡大に向けて. 看</p>

	<p>護管理, 33(10), 864-870, 2023.</p> <p>瀧澤理穂: 特集 支えあう仲間の大切さ—「一人で悩まないで! 乳がんサバイバー同士で語り合おう」を開催して—. BCSG石川 (Brest Cancer Support Group Ishikawa) 機関紙, 68, 1-3, 2023.12</p>
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p><u>紺家千津子</u>: 改定DESIGN-R2020について(シリーズ3) 深部損傷褥瘡(DTI)疑いのアセスメントと管理 (教育講演), 第25回日本褥瘡学会学術集会, 神戸, 2023.8, 日本褥瘡学会誌, 25(3), 288, 2023</p> <p><u>紺家千津子</u>: 全国に広がるエコーを用いた排便管理 (特別講演), 第3回慢性便秘エコー研究会, 東京, 2023.10</p> <p><u>紺家千津子</u>: 今知っておきたい、スキンケア (教育講演), 第19回日本褥瘡学会中部地方会学術集会, 福井, 2024.3, 第19回日本褥瘡学会中部地方会学術集会プログラム・抄録集, 32-33, 2024</p> <p>*<u>津田裕子</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>松本勝</u>, <u>小柳礼恵</u>, <u>仲上豪二郎</u>, <u>須釜淳子</u>, <u>真田弘美</u>: 排便に関する不快感やニードを医療者が十分に把握できない入院患者における排便管理の実態, 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 仙台, 2023.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 400, 2023</p> <p><u>遠藤瑞穂</u>, <u>紺家千津子</u>: 複数の社会福祉制度を利用する一事例に被覆材を用いた創傷予防策の評価, 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 仙台, 2023.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 397, 2023</p> <p>*<u>内潟瑠菜</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>大橋史弥</u>, <u>松本勝</u>, <u>大西陽子</u>, <u>峰松健夫</u>: 皮膚・排泄ケア認定看護師によるオンライン褥瘡回診によりケア支援を受けた看護師の思い, 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 仙台, 2023.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 386, 2023</p> <p><u>峰松健夫</u>, <u>滝沢知大</u>, <u>富田早苗</u>, <u>加藤頼子</u>, <u>尾田友香</u>, <u>平田善彦</u>, <u>脇坂都</u>, <u>仲上豪二郎</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>真田弘美</u>: ソホロファインバブルを用いた創部洗浄によるクリティカルコロナイゼーション創の治療促進, 第53回日本創傷治療学会, 軽井沢, 2-23.11, 日本創傷治療学会プログラム・抄録集53回, 89, 2023</p> <p>*<u>染谷実那</u>, *<u>田中亜美</u>, *<u>田之尻らら</u>, <u>大橋史弥</u>, <u>大西陽子</u>, <u>松本勝</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>峰松健夫</u>: 褥瘡発生を予測するATPポイントオブケア検査の開発(1) ポータブル測定器を用いたスキンプロッティング測定法と前処理法, 第11回看護理工学会学術集会. 神戸大学六甲台キャンパス 百年記念館 (兵庫県神戸市). 2023/6/10-11.</p> <p>*<u>田之尻らら</u>, *<u>染谷実那</u>, *<u>田中亜美</u>, <u>大橋史弥</u>, <u>大西陽子</u>, <u>松本勝</u>,</p>

紺家千津子, 峰松健夫: 褥瘡発生を予測するATPポイントオブケア検査の開発(2) ポータブル測定器を用いたスキンプロットティング測定法の信頼性検証, 第11回看護理工学会学術集会. 神戸大学六甲台キャンパス 百年記念館 (兵庫県神戸市). 2023/6/10-11.

*田中亜美, *田之尻らら, *染谷実那, 大橋史弥, 大西陽子, 松本勝, 紺家千津子, 峰松健夫: 褥瘡発生を予測するATPポイントオブケア検査の開発(3) ポータブル測定器を用いたスキンプロットティング測定法の妥当性検証, 第11回看護理工学会学術集会. 神戸大学六甲台キャンパス 百年記念館 (兵庫県神戸市). 2023/6/10-11.

井上沙耶, 北川敦子, 峰松健夫, 紺家千津子, 松崎恭一, 佐久間敦, 野村義宏: 低タンパク食飼育及び紫外線照射によるマウス皮膚脆弱モデルの創製, 第11回看護理工学会学術集会. 神戸大学六甲台キャンパス 百年記念館 (兵庫県神戸市). 2023/6/10-11.

峰松健夫, 滝沢知大, 富田早苗, 加藤頼子, 尾田友香, 平田善彦, 脇坂都, 仲上豪二郎, 紺家千津子, 真田弘美: ソホロファインバブルを用いた創部洗浄によるクリティカルコロナイゼーション創の治療促進. 第53回日本創傷治癒学会. 軽井沢プリンスホテルウエスト (長野県軽井沢町). 2023/11/21-22.

幅大二郎, 秦斉, 滝沢知大, 富田早苗, 峰松健夫, 真田弘美, 仲上豪二郎: 超音波と低周波振動の糖代謝促進効果の比較検証. 日本物理療法合同学術大会2023. 順天堂大学 (東京都文京区) およびWEB. 2023/2/18-19.

井上沙耶, 北川敦子, 峰松健夫, 紺家千津子, 松崎恭一, 佐久間敦, 野村義宏: 低タンパク食飼育及び紫外線照射によるマウス皮膚脆弱モデルの創製. 第11回看護理工学会学術集会. 神戸大学六甲台キャンパス 百年記念館 (兵庫県神戸市). 2023/6/10-11.

松原愛海, 春名めぐみ, 山田桃子, 米澤かおり, 吉崎歩, 峰松健夫, 白井由利子: 廃棄する医療用テープを用いた、新生児に侵襲のない皮膚細胞の採取と形態評価の開発. 第11回看護理工学会学術集会. 神戸大学六甲台キャンパス 百年記念館 (兵庫県神戸市). 2023/6/10-11.

米澤かおり, 清水咲月, 春名めぐみ, 峰松健夫: 生後1か月の皮膚のサイトカイン発現量と12か月時点のアレルギー疾患の関連. 第72回日本アレルギー学会学術大会. 東京国際フォーラム(東京都丸の内). 2023/10/20-22.

峰松健夫: Skin blotting: A novel self-monitoring method for evaluating skin conditions. オーガナイズドセッション: 情報とトランデュースデザイン. 第62回日本生体医工学会大会. 名古屋国際会議場 (愛知県名古屋市), 2023/5/18-20. 第62回日本生体医工

学会大会抄録集. P132

峰松健夫, 北村言: 滲出液成分の分布パターンから見る創傷治癒: ペルオキシダーゼ活性を中心に. 第53回日本創傷治癒学会. 軽井沢プリンスホテルウエスト (長野県軽井沢町). 2023/11/21-22.

Dai M, Imakata Y, Matsumoto C, Takizawa R, Konya C, Sugama J, Sanada H: Development of a Novel Lymphoedema Care Algorithm Using Ultrasonography: A Scoping Review and Group Focus Interview Approach, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口, 2023. 12

Dai M: Ultrasonography for improving lymphoedema care, 11th International Lymphoedema Framework Conference, Nottingham and web, Invited lecture, 2023. 6.

臺美佐子: リンパ浮腫ケア選定のためのエコーアルゴリズムの考案と実装, 第43回日本静脈学会学術集会, 松山, 教育講演, 2023. 7.

松本智里, 臺美佐子: リンパ浮腫患者に対する遠隔保存療法指導の試み, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, かほく市, スイーツセミナー, 2023. 9.

田崎あゆみ, 間脇彩奈, 小柳礼恵, 臺美佐子, 須釜淳子: 小児リンパ浮腫患者用QOL評価尺度を用いた若者のQOL実態調査, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, かほく市, 会長企画演題, 2023. 9.

村山祐子, 臺美佐子: リンパ浮腫患者に対する夏用弾性ストッキングの着心地改善に向けた改良とファッションデザイン性の向上, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, かほく市, 一般口演演題, 2023. 9.

キム チュウアイ, 臺美佐子, 清水三紀子, 大高洋平, 尾関恩, 小山総市朗, 大河内由紀, 中野有子, 鈴木真歩, 宇佐美瑞希: 日本語版上肢 LYMPHOQOL信頼性と妥当性, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, かほく市, 一般口演演題, 2023. 9.

間脇彩奈, 中谷壽男, 吉村文, 臺美佐子, 光田益士, 長尾静子, 須釜淳子: 看護ケア開発を目的としたドセタキセル誘因性浮腫モデルマウスの作製, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, かほく市, 一般口演演題, 2023. 9.

水谷洋, 臺美佐子, 神納美保, 佐野克明, 須釜淳子, 眞野恵子: 外陰部・下腹部の病変に伴う浮腫に対する放射線療法中の看護援助の検討, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, かほく市, 一般口演演題, 2023. 9.

野田早智恵, 臺美佐子, 安藤洋介, 神納美保, 河田健司, 須釜淳子, 眞野恵子: 下肢リンパ浮腫に対する運動療法期間中の転倒と今後の対策, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, かほく市, 一般口演演題, 2023. 9.

宇野みゆき, 臺美佐子, 神納美保, 須釜淳子, 眞野恵子: 全身浮腫が顕著ながん終末期患者への緩和ケアチームによる輸液管理と心理的援助症例報告, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, 一般口演演題, 2023. 9.

神納美保, 臺美佐子, 安藤洋介, 秋吉麻紀, 野田早智恵, 宇野みゆき, 河村愛, 河田健司, 須釜淳子, 眞野恵子: リンパ浮腫出現を危惧し標準治療を選択しなかった乳がん患者への意思決定支援, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, かほく市, 一般口演演題, 2023. 9.

久永みゆき, 山本淳子, 臺美佐子, 須釜淳子: 多量排液のある浮腫患者の自壊創管理にパウチングが奏功した1症例, 第32回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 仙台市, 一般示説演題, 2023. 7.

臺美佐子, 間脇彩奈, 須釜淳子: 第20回日本循環器看護学会学術集会, web, 特別企画 循環器疾患看護研究助成研究発表会, 2023. 9.

Makino T, Hasegawa N, Takizawa R, Matsumoto C, Kubo H, Aogi K: The facts and guidance regarding salivary cyclophosphamide excretion in breast cancer patients undergoing chemotherapy, The 3rd & 4th Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer, No.63, 149, 2023

*山崎菜月, 松本智里, 瀧澤理穂: 終末期がん患者にかかわった看護師がデスカンファレンスを通して得られた心情に関する文献研究, 第38回日本がん看護学会学術集会, 035-251, 169, 2024. 2

松本智里, 臺美佐子: スイーツセミナー リンパ浮腫患者に対する遠隔保存療法指導の試み, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, 29, 2023. 9

*天日更織, 牧野智恵, 松本智里, 瀧澤理穂: 新型コロナウイルス感染拡大により面会制限を受けた終末期がん患者の家族の経験, 第54回日本看護学会学術集会, 大阪, 2023. 9

松本勝, 大西陽子, 大橋史弥, 峰松健夫, 真田弘美, 紺家千津子: 膀胱エコー教育に対する初学者の主観的評価 対面教育と非対面教育の比較, 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 仙台, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2),

398, 2023

松本勝, 大西陽子, 大橋史弥, 峰松健夫, 真田弘美, 紺家千津子: 初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 仙台, 2023. 7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 27(2), 397, 2023

高橋聡明, 北村言, 阿部麻里, 麦田裕子, 島田宗太郎, 土屋悠, 牟田みや子, 堀之内愛, 松本勝, 仲上豪二郎, 真田弘美: 超音波検査を用いた末梢静脈カテーテル留置訓練に向けたハンドトラッキング複合シミュレーションの学習効果の予備的検証. 第11回看護理工学会学術集会, 神戸大学六甲台キャンパス 百年記念館, 兵庫, 2023. 6, 第11回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 59, 2023

松本勝, 大西陽子, 大橋史弥, 峰松健夫, 真田弘美, 紺家千津子: 初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 仙台, 2023. 7, 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 プログラム・抄録集, 34, 2023

保坂明美, 松本勝: 訪問看護師がエコーによる膀胱・直腸のアセスメントを行うことで尿閉・便秘に早期に介入できた一例. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 仙台, 2023. 7, 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 プログラム・抄録集, 34, 2023

新関こずえ, 西山真樹子, 小川真里子, 松本勝: 羞恥心から家族での排便ケアを希望した療養者に訪問看護師がエコーによる観察で浣腸実施日を提案した一症例. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 仙台, 2023. 7, 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 プログラム・抄録集, 34, 2023

松本勝, 玉井奈緒, 真田弘美: ワークショップ 救急 (POCUS・横断). ポイントオブケア看護エコー最前線. 日本超音波医学会第96回学術集会, 大宮, 日本超音波医学会第96回学術集会. Japanese journal of medical ultrasonics. 2023;50(Supplement):83. ソニックシティビル, 大宮, 5月28日

松本勝: 理事会企画4 令和6年度診療報酬改定に向けた本学会からの提案事項. 排尿自立支援加算・外来排尿自立指導料の算定要件拡大と名称変更の提案: 包括的排便ケアによる排泄自立支援. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 仙台, 2023. 7, 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 プログラム・抄録集, 34, 2023

松本勝: アフタヌーンセミナー 慢性便秘診療の現状とエコーの活

用. エコーを活用した便秘のアセスメント. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 仙台, 2023. 7, 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 プログラム・抄録集, 34, 2023

皆月美幸, 山中知子, 水谷依里, 高田千嘉, 松本勝, 紺家千津子, 真田弘美: 療養型病院における看護師による直腸エコーAIアシスト機能の活用: 症例報告. 第3回慢性便秘エコー研究会, 富士フィルム株式会社東京ミッドタウン本社, 2023. 10

皆月美幸, 水谷依里, 山中知子, 高田千嘉, 松本勝: 排泄ケアのアセスメントに簡易エコーを導入するための取り組み. 第16回看護実践学会学術集会 (オンライン), 2023. 9

三浦由佳, 松本勝: ワークショップ エコーアセスメントとリンパドレナージ体験. 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会, 2023. 9

結束貴臣, 津田桃子, 松本勝, 三澤昇, 三浦由佳: コンセンサスミーティング「治療とケア」. 第3回慢性便秘エコー研究会, 富士フィルム株式会社東京ミッドタウン本社, 2023. 10

松本勝: エコーを用いた直腸観察とそのエビデンス (日本看護科学学会, 日本薬理学会 共同企画シンポジウム「最新の看護ケアのための便秘時のアセスメント」). 第43回日本看護科学学会学術集会, 海峡メッセ下関・下関市生涯学習プラザ・下関市民会館, 2023. 12

松本勝: エビデンスに基づいた便秘エコーによるアセスメントとケア選択 (ランチョンセミナー4: 第6のフィジカルアセスメント～エコーを用いた看護ケアの最新Up to Date～). 第43回日本看護科学学会学術集会, 海峡メッセ下関・下関市生涯学習プラザ・下関市民会館, 2023. 9

大橋史弥, *田中愛莉, *藤尾大夢, 大西陽子, 松本勝, 松井弘樹, 峰松健夫, 藤野陽, 紺家千津子: 住み慣れた地域社会での生活継続を目指したセルフ心エコーによる心不全療養者の再入院予防に向けて, 日本エンドオブライフケア学会第6回学術集会, 群馬, 2023. 9, 日本エンドオブ学会誌 第6回学術集会特集号 プログラム・抄録集, 7(2), 92, 2023

今方裕子, 臺美佐子, 須釜淳子: リンパ浮腫アウトカムに関する日本調査報告: ILF-COM, 第12回 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会 抄録集17 2023. 9

今方裕子, 瀧澤理穂, *出口恵梨, *角田あすか, 牧野智恵: 看護師を対象とした終末期看護実践に関するグリーンワークで語られた内容. 第38回日本がん看護学会学術集会, 神戸, 2024. 2

	<p>牧野智恵, *長谷川昇, 瀧澤理穂, 松本智里: 外来化学療法を受ける乳がん患者の唾液からのシクロホスファミド排泄の実態と患者指導, 第3回・第4回合同がん緩和ケアに関する国際学会, 札幌, 2023.9</p> <p>瀧澤理穂, 牧野智恵, 井口雅史, 灘村真希, 久野真知子: 子どもに自己の病名を伝えていない乳がん患者の思いと子どもへの関わり方の工夫—患者らしい子どもとの関わり方を見出した一事例からの考察—, 日本家族看護学会第30回学術集会, 大阪, 2023.9</p> <p>瀧澤理穂, 牧野智恵: 乳がん患者が子どもに自己の病気について伝えることを控える理由—国内外の文献レビューから—, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口, 2023.12</p> <p>*津田珠海, 額奈々, 川島和代: 就寝前の温浴による認知症高齢者の夜間睡眠への影響, 日本看護研究学会第49回学術集会, オンライン開催, 2023.8</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>< 科学研究費補助金 ></p> <p>本学教員が研究代表者</p> <p>紺家千津子, 真田弘美, 須釜淳子, 松本勝, 大橋史弥: 介護保険施設のリモート支援による最良な皮膚障害予防・管理実装モデルの構築, R4～R7, 科学研究費補助金基盤研究(B)</p> <p>臺美佐子, 松本智里, 今方裕子, 瀧澤理穂, 他7名: リンパ浮腫ケア選定のための超音波検査技術アセスメントと遠隔システムの確立, R5～R8, 科学研究費助成事業 基盤研究(B)</p> <p>松本勝, 河本敦夫, 小路和幸, 玉井奈緒, 三浦由佳, 仲上豪二郎, 真田弘美: 訪問看護師のための超音波検査技術遠隔学習システムの構築と在宅での実装. R3～6, 科学研究費助成事業, 基盤研究B.</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>北川敦子, 野村義宏, 佐久間淳, 峰松健夫, 松崎恭一, 紺家千津子: スキンケアを惹起する皮膚脆弱モデルの創出から革新的な予防・治療促進ケア方法の確立, R4～R7, 科学研究費補助金(B)</p> <p>仲上豪二郎, 峰松健夫他: 滲出液中老化細胞を標的とした選択的創傷治療促進セノリティクス, R4～7, 科学研究費補助金基盤研究(A)</p> <p>三浦由佳, 河本敦夫, 松本勝, 真田弘美, 長谷剛志, 小路和幸, 玉井奈緒: 在宅でのエコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく介入の肺炎予防効果の検証. R4～7, 科学研究費助成事業, 基盤</p>

研究B.

玉井奈緒, 松本勝, 真田弘美, 高橋聡明, 仲上豪二郎:セルフエコーとAIケアリコメンデーションによる骨盤底筋訓練サポートシステムの開発. R4 ~ 6, 科学研究費助成事業, 挑戦的研究(萌芽).

<科学研究助成基金助成金>

本学教員が研究代表者

臺美佐子, 須釜淳子, 山下修二, 栢尾巧, 藤井匡:リンパ浮腫の蜂窩織炎再発予防に向けたアドバンストスキンケア方法の開発. R5 ~ 7, 挑戦的研究(萌芽).

牧野智恵, 松本智里, 瀧澤理穂, 今方裕子:がん遺伝子パネル検査を受ける患者の体験, R3 ~ R6, 科学研究費助成事業基盤研究(C)

大西陽子:浅い鎮静管理における人工呼吸器装着患者の固有反応の理解とその習得方法に関する研究, R4 ~ R6, 科学研究費助成事業若手研究

瀧澤理穂:乳がん患者が子どもに病名を伝える苦悩の体験, R2 ~ R5, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究

本学教員が分担者

松井優子, 久村和穂, 紺家千津子, 大貝和裕:がん患者のアピラランス問題解決のための美容業と患者の互助を促すICTツールの開発, R4 ~ R7, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

浅野きみ, 紺家千津子, 野口美樹, 道合万里子, 中島由香里:非造影CT画像における乳癌術後リンパ浮腫の予測ツールの開発, R2 ~ R5, 学術研究助成基金助成金基盤研究金基盤研究(C)

津田裕子, 紺家千津子, 真田弘美, 大橋史弥:革新的な観察手技によるおむつ内皮膚障害のアセスメントツールの開発と検証, R4 ~ R7, 学術研究助成基金助成金基盤研究基盤研究(C)

三浦由佳, 須釜淳子, 紺家千津子, 真田弘美, 野口博史:大睡眠中の誤嚥予防と安楽保持に最適な姿勢を促すロボティクスクッションの開発, R5 ~ R6, 学術研究助成基金助成金基盤研究挑戦的研究(萌芽)

坂本和大, 峰松健夫他:スキンプロテイング法による非侵襲的筋炎症マーカー定量法の開発と競技現場への応用, R4 ~ 7, 科学研究助成基金助成金基盤研究(C)

	<p>村山祐子, <u>臺美佐子</u>: リンパ浮腫患者の弾性ストッキング着用継続に向けたデザインによるアプローチ, 基盤研究 (C) . R4 ~ 6, 科学研究助成基金.</p> <p>大桑麻由美, 藤野陽, <u>真田弘美</u>, <u>臺美佐子</u>: 末梢動脈疾患ハイリスク患者への振動ケアがもたらす重症虚血肢移行遷延効果の検討, 基盤研究 (C) 2019年度4月-2024年度3月.</p> <p>牧野真弓, <u>松本智里</u>, 他4名: 認知症患者へ身体拘束を回避した転倒予防ケアを行う看護師チームメンタルモデルの構築, R2 ~ R5, 科学研究費助成事業基盤研究(C)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>峰松健夫</u>: ローラー法を用いたポイントオブケア脱水検査の確立, R5-6</p> <p><u>松本智里</u>, <u>今方裕子</u>: 看護師へのアピアランスケアの周知プログラムの構築 —がん看護に従事する看護師が抱くアピアランスケアの目的・意義の認識の実態調査—, R4-5</p> <p><u>松本智里</u>, <u>牧野智恵</u>: コロナ禍でのがん体験者の求める支援, R3-5</p> <p><u>松本勝</u>, <u>真田弘美</u>, 須釜淳子, 仲上豪二郎, 高橋聡明, 野口博史, 小池武嗣, 北村言, 小路和幸, 東村志保, 麦田裕子, 須藤翔太, 山家亮太: 訪問看護におけるAI/ARを活用した排泄ケア・褥瘡ケア・スキンケア・点滴ケア技術自己学習支援システムの効果検証. R4-5</p> <p><u>大西陽子</u>, <u>大橋史弥</u>, <u>松本勝</u>, <u>紺家千津子</u>: 従来のモデル人形による演習とVR教材を活用した演習による教育効果の比較—術後観察に焦点を当てて—. R4-5</p> <p><u>今方裕子</u>, <u>牧野智恵</u>, 高地弥里, 時山麻美: 臨床で行うリンパ浮腫ケアセミナーへのエコー導入における教育効果, R4-5</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>臺美佐子</u>: リンパ浮腫管理のためのエコーケアアルゴリズムの考案と効果検証, 公益財団法人テルモ生命科学振興財団 研究開発助成金, R5</p> <p><u>臺美佐子</u>: 小児リンパ浮腫症例のQOL評価尺度 (LYMPHOQOL日本語版) の妥当性の検証, 公益財団法人 循環器病研究振興財団 循環器看護研究助成, R5</p>

	<p>真田弘美, 仲上豪二郎, 高橋聡明, 野口博史, 小池武嗣, 松本勝, 北村言, 小路和幸, 東村志保, 麦田裕子, 須藤翔太, 山家亮太: AI/ARを活用した排泄ケア・褥瘡ケア・スキンケア・点滴ケア技術自己学習支援システムの開発. 日本医療研究開発機構(AMED) 長寿科学研究開発事業, R3-5</p> <p>今方裕子: 乳がん患者に対するドセタキセル療法中の下肢浮腫発現の超音波技術による予測妥当性: 前向きコホート研究. 安田医学記念財団 癌看護助成, R5</p> <p>額奈々: 特別養護老人ホームにおける看取り期の説明に関する実態調査及び看取りの説明を担う看護職に必要な実践能力と説明者育成のための支援の検討, 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 調査研究助成金, R4-5</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p>2023年度日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術論文 症例研究賞: <u>Hasegawa Y</u>, Yoshida M, <u>Minematsu T</u>, Hattori N, <u>Sanada H</u>: Nutritional management using ultrasonography of the temporal muscle for patients with pressure injuries in a home care setting: A case report. J Jpn WOCM. 26(4): 384-390</p> <p>看護理工学会令和5年度学会賞: 新田汐里, <u>峰松健夫</u>, 富田早苗, 戸部浩美, 前田智徳, <u>真田弘美</u>: ドライスキン由来の痒み易知覚モデルラットにおける表皮及び真皮乳頭層でのC線維数の増加. 看護理工学会誌. 10: 146-156. 2023</p> <p>2023年度優秀論文賞リンパ浮腫管理の研究と実践論文賞: 土屋紗由美, 佐藤文, 上田映美, <u>臺美佐子</u>, 大桑麻由美: 長時間座位保持高齢者の下肢慢性浮腫に対する加振の効果: パイロット研究. リンパ浮腫管理の研究と実践. 9: 14-22</p> <p>British Journal of Nursing Award 2024: <u>Dai M</u>: British Journal of Nursing Award 2024, Chronic Oedema Nurse of the Year, Silver Place, 2024.3</p> <p>2023年度日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術論文優秀賞: <u>Imakata Y</u>, Sugama J, Ookuwa M, Kayahara M, Munemoto M, Sakakura K, Yamamori Y, Dake K, Edo C, Oe M: Clinical features of lower limb edema in patients with breast cancer</p>

	<p>who underwent docetaxel chemotherapy: A retrospective observational study. J Jpn WOCM. 26(3): 269-277</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 理事長, 評議員, 将来構想検討委員会委員長, 便秘対策アドホック委員会委員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本褥瘡学会 評議員, 実態調査委員会委員, 在宅褥瘡管理者認定委員会委員, 国際委員会委員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本創傷治癒学会 理事, 評議員, 将来構想検討委員会委員長, 規約委員会委員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本看護科学学会 代議員 和文誌専任査読委員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本看護研究学会 代議員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本がん看護学会 評議員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 看護理工学会 評議員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本老年医学会 代議員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本看護技術学会 代議員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 評議員, 規約委員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会プログラム委員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 第54回(2023年度)日本看護学会学術集会抄録選考委員</p> <p><u>紺家千津子</u>: 北越ストーマリハビリテーション講習会 幹事</p> <p><u>紺家千津子</u>: 北陸ストーマ研究会 世話人</p> <p><u>紺家千津子</u>: 北陸PEG・在宅栄養研究会 世話人</p> <p><u>紺家千津子</u>: 日本褥瘡学会中部地方会 世話人</p> <p><u>紺家千津子</u>: 公益社団法人 日本オストミー協会石川県支部 顧問</p> <p><u>紺家千津子</u>: 専門的看護実践力研修事業(分野別実践看護師養成研修「がん看護」「危機理論」講師, 金沢大学附属病院(WEB開催), 2023. 7. 29</p> <p><u>紺家千津子</u>: 「クリティカルケア看護学特論C(急性・重症患者治療感理論): 創傷管理」講義(非常勤講師), 金沢医科大学大学院看護学研究科, 2023. 7. 28</p> <p><u>紺家千津子</u>: 「創傷のアセスメントと管理」講義(非常勤講師), 京都橘大学看護教育研究センター 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程, 2023. 9. 13</p> <p><u>紺家千津子</u>, 石井光子: 専門的看護実践力研修事業(分野別実践看護師養成研修紺皮膚・排泄ケア)企画・運営, 石川県立看護大学(WEB開催), 2023. 9</p>

紺家千津子：「こうすれば大丈夫！ 褥瘡・スキン-ケア 管理のコツ」アボットジャパン ライブセミナー講師，株式会社コンバテック (WEB開催)，2023. 10. 11

紺家千津子：「タスク・シフト/シェアの時代に 求められている看護師の専門性の発揮」サラヤ スキンケア勉強会講師 (WEB開催)，2023. 11. 28

紺家千津子：「看護学：クリティカルケアと周手術期ケア，創傷とその管理方法，臓器移植に関する法的整備と倫理的問題」講義 (非常勤講師)，北陸大学 薬学部，2023. 10. 27，11. 10，11. 17

峰松健夫：看護理工学会 常任理事，理事，評議員，編集委員会委員長，倫理委員会委員，会則検討委員会委員

峰松健夫：日本創傷治癒学会 理事，評議員，教育委員会委員長，将来構想委員会委員，関連学会協議委員会委員，財務委員会委員

峰松健夫：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 評議員，学会連携委員会委員

峰松健夫：日本褥瘡学会 車いすアスリート支援委員会委員

峰松健夫：高知県立大学講師 (非常勤)

峰松健夫：東京大学非常勤講師

峰松健夫：金沢大学研究協力員

臺美佐子：藤田医科大学客員教授，2023. 4-

臺美佐子：国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会理事

臺美佐子：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 評議員

臺美佐子：日本リンパ浮腫治療学会 評議員

臺美佐子：看護理工学会 評議員

臺美佐子：日本看護科学学会 査読委員

臺美佐子：看護実践学会 査読委員

臺美佐子：「リンパ浮腫管理」講義と演習，藤田医科大学，2023. 10-11

松本智里：日本運動器看護学会 査読委員

松本智里：日本運動器看護学会 研究プロジェクトメンバー

松本智里：日本運動器看護学会 2025年度学術集会 企画委員

松本智里：日本がん看護学会 査読委員

松本智里：看護実践学会 査読委員

松本智里：「看護学」講義，北陸大学，2023. 11. 24，12. 1

松本智里：石川県立中央病院 研究指導，2023. 6. 9，6. 23，6. 30，

8. 29, 10. 4, 3. 29 (3. 29は紙面による研究指導講評)

松本智里：公立能登総合病院 研究指導, 2023. 5. 19, 2024. 2. 7

松本勝：エコーによる大腸便貯留評価の活用, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会第1回排便管理講習会, 2023. 5. 14

松本勝：便秘ケアに活かす！エコーを用いた大腸便貯留のアセスメント, 心臓血管研究所 慢性便秘症セミナー, 2023. 5. 24

松本勝：訪問看護で活かすエコーの知識と実践, 令和5年度 大阪公立大学大学院 看護学研究科 訪問看護専門研修事業Cコース 新しい訪問看護の知と技, オンライン, 2023. 8

松本勝：「創傷のアセスメントと管理」講義, 静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程 (皮膚・排泄ケア), 2023. 8

松本勝：「創傷のアセスメントと管理 I」講義, 京都橘大学 看護教育研修センター認定看護師教育課程 (皮膚・排泄ケア), 2023. 9

松本勝：高齢者の排尿排便障害へのエコーの活用. 福井大学大学院 老年看護学演習. 2023. 9

松本勝：排泄ケアの新しいツール「ポケットエコー」を用いた排泄アセスメントとケア, 石川県立こころの病院排泄ケア研修, 石川県立こころの病院, 2023. 12. 7

松本勝：日本在宅ケア学会オンデマンドセミナー「エコーとテレナーシング」ライブセミナー, ファシリテーター, 2023. 12. 17, 2024. 2. 4

松本勝：大学コンソーシアム石川, 産学官連携人材育成専門部会, 学都いしかわグローバルチャレンジプログラムWGメンバー

松本勝：看護理工学会 評議員

松本勝：看護理工学会 教育委員会委員

松本勝：日本看護科学学会 和文誌査読委員

松本勝：看護実践学会 査読委員

松本勝：第3回慢性便秘エコー研究会 プログラム委員

松本勝：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 評議員

松本勝：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 便秘対策アドホック委員会 委員

松本勝：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 便秘対策アドホック委員会ワーキンググループ

松本勝：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 社会保険委員会 委員

松本勝：日本看護科学学会 看護ケア開発・標準化委員会 委員

松本勝：日本看護科学学会 「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」作成メンバー

松本勝：日本看護科学学会「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」パネル会議メンバー

松本勝：日本在宅ケア学会 在宅ケアイノベーション研究研修委員会委員

松本勝：日本褥瘡学会 評議員

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師，石川県立看護大学（石川），2023.7.22

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師，北美原クリニック（函館、オンライン），2023.7.30

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師，よどきり医療と介護のまちづくり株式会社（大阪），2023.9.30

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師，石川県立看護大学（石川），2024.2.20

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師，石川県立看護大学（石川），2024.2.21

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師，よどきり医療と介護のまちづくり株式会社（大阪），2024.3.9

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師，福岡大学（福岡），2024.3.22

大西陽子：珠洲市総合病院研究指導

今方裕子：北陸大学非常勤講師

今方裕子：石川県立中央病院 研究指導

今方裕子：浅ノ川総合病院 研究指導

岩本健良，菊池建至，植田幸代，額奈々：第7回LGBTQ+と教育ダイアログ，トークセッション

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

紺家千津子：看護師に対するスキンケア教育支援，千木病院、芳珠記念病院、二ツ屋病院，2023

紺家千津子：能登半島地震 褥瘡ケア支援部会メンバー

臺美佐子: 学術集会開催, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会大会長, 2023. 9

臺美佐子: 市民公開講座開催, 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会主催, 2023. 9

Dai M: International Lymphoedema Framework Board member, 2023. 4-

臺美佐子: 臨床活動, リンパ浮腫保存療法指導 東京大学医学部附属病院形成外科外来, 2023. 5-12.

松本智里: 多職種とともに考えるがん患者の事例検討会, 2023. 6. 6, 8. 1, 10. 3, 12. 5, 2024. 2. 6, 3. 5

松本智里: 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第12回学術集会 実行委員長, 2023. 9

松本勝: 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会 実行委員, 2023. 9. 17

松本勝: 第3回慢性便秘エコー研究会 プログラム委員, 2023. 10. 28

松本勝: 第19回日本褥瘡学会中部地方会学術集会 実行委員, 2024. 3. 17

松本勝: 第12回看護理工学会学術集会 実行委員

松本勝: 「睡眠」「食」「排泄」「活動」について学ぼう～日々の活動のパフォーマンスを高めるには！？～. かほく市いきいきシニア活動推進事業 地域公開講座, かほく市いきいきステーション, 2023. 8. 10

松本勝: 研究発表支援, 医療法人浅ノ川千木病院, 2023. 9, 2023. 10

松本勝: 研究発表支援, 訪問看護ステーションフレンズ, 2023. 6

松本勝: 研究発表支援, よどきり訪問看護ステーション, 2023. 5

松本勝: 届出研究員, 東京大学医学部附属病院看護部

松本勝: 客員研究員, 東京大学大学院医学系研究科老年看護学／創傷看護学分野

松本勝: 客員研究員, 一般社団法人次世代看護教育研究所

大西陽子: 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン学術集会 実行委員, 2023. 9. 17

大西陽子: 第12回看護理工学会 実行委員

今方裕子: 第12回 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会 運営委員, 事務局

今方裕子: 地域ケア総合センター事業「CNS関係者による看護事例検討会」企画責任者

今方裕子：地域ケアセンター事業「臨床で行うリンパ浮腫のケア」
企画責任者

瀧澤理穂：地域ケア総合センター事業「ひとりで悩まないで！乳がんサバイバー—同士語り合おう」企画責任者

瀧澤理穂：地域ケア総合センター事業「看護研究に活かせる現象学を楽しく学ぼう」企画責任者

額奈々：日本看護研究学会 近畿北陸地方会 広報委員

額奈々：第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン学術集会
実行委員，2023.9.17

額奈々：第12回看護理工学会学術集会 実行委員

額奈々：日本ACLS協会 BLSインストラクター・ACLSインストラクター

額奈々：LGBTQ+出張授業 基礎知識担当

6.8 老年看護学講座

所属（大講座等）・職位	老年看護学講座・准教授	氏名	中道 淳子
	老年看護学講座・講師		大橋 史弥
	老年看護学講座・助教		近藤 考朗
	老年看護学講座・臨時助手		宮本菜々恵

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>三重野英子, 會田信子, 深堀浩樹（編）最新 老年看護学 第4版(2024年版)</p> <p><u>中道淳子</u>(分担執筆)：第7章認知症高齢者の看護日本看護協会出版会, 東京, p 304-309, 348-350, 2024. 2. 1発行</p>
学術論文	<p>< 査読有 ></p> <p>*<u>宮本菜々恵</u>, <u>中道淳子</u>, <u>川島和代</u>, *<u>森垣こずえ</u>：もの忘れ外来受診に至った認知機能低下を認めた高齢者の家族の知識と高齢者への受診までのアプローチ, 日本老年看護学会誌, 29 (1), 50-59, 2024</p> <p>*<u>吉崎彩</u>, <u>中道淳子</u>, <u>川島和代</u>：老人看護専門看護師が非がん疾患高齢者・家族とのACPを躊躇したときの実践, 日本老年看護学会誌, 29 (1), 78-85, 2024</p> <p>*<u>Shinohara M</u>, <u>Oohashi F</u>, <u>Konya C</u>: Consultation and education needs of nurses managing patients with a pressure ulcer or risk of pressure ulcer development: from Certified Nurse in Wound, Ostomy and Continence Nursing. Japanese Society of Wound, Ostomy, and Continence Management, 27 (3), 525-536, 2023. 9</p> <p>*<u>近藤考朗</u>, <u>川島和代</u>, <u>中道淳子</u>, 中山詠美, 窪田雅江, 前田郁子, 中島照美, 小幡法子, 福島真弓, 大家理恵：地域包括ケア病棟入院を契機とした高齢者の住まいの変化、日本老年医学会雑誌, 2024. 3. 13</p> <p>< 査読無 > なし</p>
その他の原稿	長山豊, 田中浩二, 近田真美子, 飯嶋勇貴, <u>大橋史弥</u> , 佐藤大介,

	<p>亀谷茉莉子：若手研究者のつながりと発信．看護研究 医学書院，56巻2号，128，2023. 4</p> <p>中道淳子：令和6年能登半島地震直後の老年看護学実習を振り返って，日本老年看護学会誌，29（1），11-15，2024</p>
<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演， パネリスト， 基調講演等）</p>	<p>*<u>山崎未祥</u>，<u>中道淳子</u>：軽度の認知機能障害をもつ高齢者とのコミュニケーションにおいて病棟看護師が意識している内容，第12回日本認知症予防学会学術集会，p 193，2023. 9.（新潟）</p> <p>*<u>松村愛</u>，*<u>荒井愛実</u>，*<u>宮本菜々恵</u>，<u>中道淳子</u>：認知症の診断告知が家族に与える影響と家族が必要とする支援，第12回日本認知症予防学会学術集会，p 200，2023. 9.（新潟）</p> <p>*<u>宮本菜々恵</u>，*<u>荒井愛実</u>，*<u>松村愛</u>，<u>中道淳子</u>：認知症高齢者の家族介護者の日常生活におけるふれあいの実態，第12回日本認知症予防学会学術集会，p 201，2023. 9.（新潟）</p> <p>*<u>宮本菜々恵</u>，<u>中道淳子</u>，<u>川島和代</u>，*<u>森垣こずえ</u>，<u>森本茂人</u>，<u>奥野太寿生</u>：認知機能低下を認めた高齢者と家族がもの忘れ外来受診に至ったプロセス，日本老年看護学会第28回学術集会，p183，2023. 6.（横浜）</p> <p><u>大橋史弥</u>，*<u>田中愛莉</u>，*<u>藤尾大夢</u>，<u>大西陽子</u>，<u>松本勝</u>，<u>松井弘樹</u>，<u>峰松健夫</u>，<u>藤野陽</u>，<u>紺家千津子</u>：住み慣れた地域社会での生活継続を目指したセルフ心エコーによる心不全療養者の再入院予防に向けて，日本エンドオブライフケア学会第6回学術集会，群馬，2023. 9，日本エンドオブ学会誌 第6回学術集会特集号 プログラム・抄録集，7(2)，92，2023</p> <p>*<u>内潟瑠菜</u>，<u>紺家千津子</u>，<u>大橋史弥</u>，<u>松本勝</u>，<u>大西陽子</u>，<u>峰松健夫</u>：皮膚・排泄ケア認定看護師によるオンライン褥瘡回診によりケア支援を受けた看護師の思い，第32回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会，宮城，2023. 7，日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集，27（2），386，2023</p> <p>*<u>松本勝</u>，<u>大西陽子</u>，<u>大橋史弥</u>，<u>峰松健夫</u>，<u>真田弘美</u>，<u>紺家千津子</u>：膀胱エコー教育に対する初学者の主観的評価：対面教育と非対面教育の比較，第32回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会，宮城，2023. 7，日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集，27（2），398，2023</p> <p>*<u>松本勝</u>，<u>大西陽子</u>，<u>大橋史弥</u>，<u>峰松健夫</u>，<u>真田弘美</u>，<u>紺家千津子</u>：初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証，第32回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術</p>

	<p>集会，宮城，2023.7，日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集，27（2），397，2023</p> <p>*<u>大橋史弥</u>，<u>大江真琴</u>，<u>須釜淳子</u>：サーモグラフィ画像を用いた褥瘡再発予測方法の開発：偽陽性・偽陰性の要因の検討，第32回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 主題演題，宮城，2023.7，日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集，27（2），307，2023</p> <p>*<u>藤尾大夢</u>，<u>大橋史弥</u>，*<u>田中愛莉</u>，<u>大西陽子</u>，<u>松本勝</u>，<u>松井弘樹</u>，<u>峰松健夫</u>，<u>藤野陽</u>，<u>紺家千津子</u>：下大静脈径を評価するセルフ心エコーにAR技術を援用した遠隔教育，第11回 看護理工学会，兵庫，2023.6，第11回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集，50，2023</p> <p>*<u>染谷実那</u>，*<u>田中亜美</u>，*<u>田之尻らら</u>，<u>大橋史弥</u>，<u>大西陽子</u>，<u>松本勝</u>，<u>紺家千津子</u>，<u>峰松健夫</u>：褥瘡発生を予測するATPポイントオブケア検査の開発(1) ポータブル測定器を用いたスキنبロッキング測定法の妥当性検証，第11回 看護理工学会，兵庫，2023.6，第11回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集，42，2023</p> <p>*<u>田之尻らら</u>，*<u>田中亜美</u>，*<u>染谷実那</u>，<u>大橋史弥</u>，<u>大西陽子</u>，<u>松本勝</u>，<u>紺家千津子</u>，<u>峰松健夫</u>：褥瘡発生を予測するATPポイントオブケア検査の開発(2) ポータブル測定器を用いたスキنبロッキング測定法の妥当性検証，第11回 看護理工学会，兵庫，2023.6，第11回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集，42，2023</p> <p>*<u>田中亜美</u>，*<u>田之尻らら</u>，*<u>染谷実那</u>，<u>大橋史弥</u>，<u>大西陽子</u>，<u>松本勝</u>，<u>紺家千津子</u>，<u>峰松健夫</u>：褥瘡発生を予測するATPポイントオブケア検査の開発(3) ポータブル測定器を用いたスキنبロッキング測定法の妥当性検証，第11回 看護理工学会，兵庫，2023.6，第11回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集，43，2023</p> <p>*<u>近藤考朗</u>，<u>川島和代</u>，<u>中道淳子</u>，<u>中山詠美</u>，<u>窪田雅江</u>，<u>前田郁子</u>，<u>中島照美</u>，<u>小幡法子</u>，<u>福島真弓</u>，<u>大家理恵</u>：地域包括ケア病棟における高齢者と家族の退院先への意向と実態，第9回地域包括ケア病棟研究大会，東京，2023.7 口頭発表</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が分担者 <u>川島和代</u>，<u>渡辺達也</u>，<u>額奈々</u>，<u>中道淳子</u>：「介護保険施設における認知症高齢者の難聴に着目した支援プログラム作成に関する研究」R3-R5，日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究(C)</p>

	<p>磯光江, <u>川島和代</u>, 横田文子, 吉竹将司, <u>中道淳子</u>: 「高齢腎不全患者におけるフレイル改善への介入効果と腎代替療法への影響についての調査」 R2-R5, 日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究(C)</p> <p><科学研究助成基金助成金></p> <p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>大橋史弥</u>: 在宅心不全療養者へのセルフ心エコー導入による先駆的な遠隔医療システムのモデリング, R4-R6, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 4,550千円</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>津田裕子, <u>紺家千津子</u>, <u>真田弘美</u>, <u>大橋史弥</u>: 革新的な観察手技によるおむつ内皮膚障害のアセスメントツールの開発と検証, R4-R7, 日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究(C)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>宮本菜々恵</u>, <u>大橋史弥</u>, <u>近藤考朗</u>, <u>中道淳子</u>: 老年看護学教育へのDX導入に向けた認知症教育プログラムの開発 - 認知症VR導入による教育効果の検証 -, R5, 学内研究助成金 4,720千円</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>大橋史弥</u>, 谷内宇世, 宮本千香, <u>中道淳子</u>, <u>近藤考朗</u>, <u>宮本菜々恵</u>: 身体拘束ゼロを実現するネック型CVC自己抜去予測センサーの開発と評価, R5, 一般社団法人日本老年看護学会 2,000千円</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>なし</p>
<p>その他受賞等</p> <p>受賞, 特許, 臨床活動</p>	
<p>社会貢献・地域貢献</p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>中道淳子</u>: 日本老年看護学会災害支援検討委員会・委員</p> <p><u>中道淳子</u>: 日本認知症予防学会・代議員</p> <p><u>中道淳子</u>: 日本認知症予防学会・査読委員</p> <p><u>中道淳子</u>: 石川県介護支援専門員実務研修・企画委員</p> <p><u>中道淳子</u>: かほく市地域密着型サービス施設等整備事業者選考委員会・委員</p> <p><u>中道淳子</u>: 「介護予防メイト養成講座」講義, 津幡町役場, 2023.9.5</p> <p><u>中道淳子</u>: 第12回日本認知症予防学会学術集会 講演2「認知症の多</p>

職種連携と育成」座長，朱鷺メッセ，2023. 9. 15.

中道淳子：令和5年度石川県看護教員現任研修「人生100年時代の看護教育」『シンポジウム』高齢者の<生活>を見つめる，シンポジスト，石川県立看護大学，2023. 10. 28

中道淳子：看護研究指導・講評，河北中央病院，メール指導，2024. 1. 18

中道淳子：認定認知症領域検査技師 日臨技指定講習会 講演8 認知症ケアの基礎と実際講師（2024. 2. 1～2. 29オンライン講習）

大橋史弥：令和5年度石川県看護教員現任研修「人生100年時代の看護教育」運営参加・支援2023. 10. 28

大橋史弥：JANS（日本看護科学学会）若手の会 第3回 甲信越・北陸エリア検討会 コーディネーター 2023. 9. 23

大橋史弥：公立宇出津総合病院 看護研究指導 2023. 5～現在

大橋史弥：かほく市介護認定審査会委員 2023. 4～現在

大橋史弥：学校法人桐丘学園桐生大学 非常勤講師 看護専門職論Ⅷ（国際看護）講師2023. 4

大橋史弥：日本看護科学学会（JANS 若手の会 エリアコーディネーター）～現在

大橋史弥：令和5年度石川県看護教員現任研修「人生100年時代の看護教育」運営参加・支援2023. 10. 28

近藤考朗：令和5年度石川県看護教員現任研修「人生100年時代の看護教育」運営参加・支援2023. 10. 28

宮本菜々恵：令和5年度石川県看護教員現任研修「人生100年時代の看護教育」運営参加・支援2023. 10. 28

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

中道淳子：認知症予防ボランティアの会「いちご会」20周年記念講演会，企画・運営・司会，高松まちかど交流館，2023. 11. 3.

大橋史弥：FMかほく 月曜なるほどインタビュー「心不全とはどのような病気か、心不全の再発予防について」出演2024. 2. 19

大橋史弥：石川県立看護大学災害対策支援本部 褥瘡ケア支援部会 2024. 2

大橋史弥：2nd Lawang Sewu Internasional Symposium on Health Sciences: Medical Laboratory Technology-Scientific Committee. 2023. 6

大橋史弥：かほく市いきいきシニア活動推進事業 地域公開講座 講師2023. 6

大橋史弥：大学コンソーシアム「文化系芸術祭」実行委員会委員

6.9 地域看護学講座

所属（大講座等）・職位	地域看護学講座・教授	氏名	塚田 久恵
	地域看護学講座・教授		米澤 洋美
	地域看護学講座・准教授		金子 紀子
	地域看護学講座・助教		室野奈緒子
	地域看護学講座・助教		嶋 雅奈恵

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p><u>米澤洋美</u>（分担執筆）：第3章. 高齢者保健医療福祉活動. 中谷芳美（著者代表）：標準保健師講座, 対象別公衆衛生看護活動 第5版. 92-118, 医学書院, 東京, 2024.</p> <p><u>米澤洋美</u>（分担執筆）：第1部第1章3, 在宅医療・在宅看護・地域保健活動の発展. 石垣和子, 上野まり, 徳田真由美, 辻村真由子（編集）：地域・在宅看護論 I 総論 地域における暮らしと健康の理解を深める 改訂第3版. 19-24, 南江堂, 東京, 2024.</p> <p><u>金子紀子</u>（分担執筆）：第II章2 個人の暮らしと健康. 第III章2B 保健に関する制度・施策. 第III章2G 生活習慣病予防, 基本チェックリスト, 後期高齢者の質問票と介護予防. 石垣和子, 上野まり, 徳田真由美, 辻村真由子（編集）：地域・在宅看護論 I 総論 地域における暮らしと健康の理解を深める 改訂第3版. 36-42, 88-95, 124-126, 南江堂, 東京, 2024.</p> <p><u>室野奈緒子</u>（分担執筆 p127-129）：石垣和子, 上野まり, 徳田真由美, 辻村真由子 編：地域・在宅看護論 I 総論 改訂第3版. 南江堂, 東京, 2024. 1</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p><u>Kaneko N</u>, Nishino Y, Ito Y, Nakaya T, Kanemura S: Association of socioeconomic status assessed by areal deprivation with cancer incidence and detection by screening in Miyagi, Japan between 2005 and 2010. Journal of Epidemiology, 33(10), 521-530, 2023.</p> <p><u>Kaneko N</u>, Nishijo M, Agawa K, Ishigaki K, Nishino Y: The effects of neighborhood trust and support on parenting stress of mothers with young children in Japan. Journal of Primary Care and Community Health, 15, 1-8, 2024.</p> <p>Takiguchi T, Nishijo M, <u>Kaneko N</u>, Yoshita K, Arai Y, Demura</p>

	<p>N, Nishino Y: Foods and nutrients at risk for insufficient intake by community-dwelling healthy older women eating alone and together in Japan-a preliminary finding. <i>Nutrients</i>, 15(10), 2391, 2023.</p> <p><査読無></p>
<p>その他の原稿</p>	<p><u>塚田久恵</u>：地域ケア総合センター INFORMATION, 石川県立看護大学 広報誌「CAMPUS NET」, 43巻, 2023. 5</p> <p><u>塚田久恵</u>：地域ケア総合センター INFORMATION, 石川県立看護大学 広報誌「CAMPUS NET」, 44巻, 2023. 11</p> <p><u>塚田久恵</u>：地域ケア総合センター「事業報告書（第20巻）」発刊に寄せて, かほく市との包括的連携協定に関わる取り組み. 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター第20巻事業報告書, 20巻, 2024, 3</p> <p><u>金子紀子</u>：研究紹介 地理的剥奪指標（ADI）とがん罹患、検診発見状況との関連. 日本がん疫学・分子疫学研究会 NEWS Letter, P4-5, No. 128, 2023.</p>
<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）</p>	<p><u>米澤洋美</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>室野奈緒子</u>：地方農村部シルバー人材センター会員が抱える心配事（物忘れ・認知症）との関連要因（示説）, 244, 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会. 福岡. 2024. 01.</p> <p><u>室野奈緒子</u>, <u>米澤洋美</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>金子紀子</u>, <u>嶋雅奈恵</u>：公衆衛生看護学実習におけるアバターロボットを活用した実習指導の有用性検証（示説）, 182, 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会. 福岡. 2024. 01.</p> <p><u>嶋雅奈恵</u>, <u>米澤洋美</u>, <u>塚田久恵</u>：福祉型障害児入院施設における知的障害児支援に関する文献レビュー（示説）, 226, 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会. 福岡. 2024. 01.</p> <p><u>田村須賀子</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>米澤洋美</u>, <u>室野奈緒子</u>, 他5名：統括保健師に求められる専門的・行政的管理能力の整理と存在可能性（示説）, 215, 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会. 福岡. 2024. 01.</p> <p><u>田村須賀子</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>米澤洋美</u>, <u>室野奈緒子</u>, 他5名：統括保健師に求められる専門的・行政的管理能力の整理と存在可能性（示説）, 215, 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会. 福岡. 2024. 01.</p> <p>Shiho Akihara, <u>Hiromi Yonezawa</u>, Kazuko Fjino: Characteristics of Multidrug-Resistant Tuberculosis Patients from a Nurses</p>

	<p>Perspective - Difficulties of Foreign Tuberculosis Patients, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, 2024.3 (Poster Presentation)</p> <p>西条旨子, 瀧口知彌, <u>金子紀子</u>, 西野善一: ベトナムにおける母親のダイオキシン暴露の出生児の性差に与える影響, 第23回分子予防環境医学研究会, 福井, 2024.1</p> <p>瀧口知彌, 西条旨子, 奥野太寿生, 長澤晋哉, <u>金子紀子</u>, 高橋裕太郎, 西野善一: 地域在住高齢者における口腔機能と歩行周期との関連, 第94回日本衛生学会学術総会, 鹿児島, 2024.3</p> <p>Haruna Ushimura, Hideki Imai, Mikie Hidaka, <u>Naoko Muro</u>no, Tomoko Yamaji, Shihomi Sakurai: Tongue pressure is associated with oral health-related quality of life and nutritional status among Japanese elderly people. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, 2024.3 (Poster Presentation)</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が分担者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>米澤洋美</u>, 長谷川美香, 北出順子, 秋原志穂: 団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築 (20K11069), 2020-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p><u>金子紀子</u>, *<u>阿川啓子</u>, 石垣和子: 妊娠・子育て期に都市部から農村部へ転入した母親の地域のつながりの過程の解明, 2019 ~ 2023, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p><u>室野奈緒子</u>, 森河裕子, 中田ゆかり, <u>塚田久恵</u>: メンタル不調者の職場復帰支援における産業看護職の人事労務担当者との連携の影響因子, 2021 ~ 2023年, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p>本学教員が分担者 谷本千恵, 河西千秋, <u>大江真吾</u>, <u>塚田久恵</u>, 船山健二: 患者の自殺</p>

	<p>を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, R1～R5, 科学研究費助成事業基盤(C)</p> <p>長谷川美香, <u>米澤洋美</u>, 川口めぐみ, 北出順子:大学生のデートDV予防と援助要請行動促進を一体化した教育プログラムの開発(20K11096), 2020-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p>秋原志穂, <u>米澤洋美</u>, 山田修平:隔離状況下にある結核患者のQOL評価および包括的ストレス緩和プログラムの開発(20K10766), 2020-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p>*<u>阿川啓子</u>, 安田謙二, <u>金子紀子</u>, 佐藤基, 小田香澄:コロナ禍対応:先天性心疾患児(幼児期)と家族のための運動と遊びのプログラム開発, 2022～2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p>
学内研究助成金	
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>その他受賞等</p> <p>受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p><u>塚田久恵</u>: 石川県立看護大学ベストティーチャーズ賞(看第100号), 2023. 5. 29</p>
<p>社会貢献・地域貢献</p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>塚田久恵</u>: 日本公衆衛生看護学会査読委員</p> <p><u>塚田久恵</u>: 北陸公衆衛生学会査読委員</p> <p><u>塚田久恵</u>: 令和5年度厚生労働科研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「統括保健師に求められる専門的・行政的管理能力並びにその育成及び能力の発揮に向けた体制づくりの方法(23LA0301)」研究班研究協力者</p> <p><u>塚田久恵</u>: JANPU高度実践看護師教育課程認定委員会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>: 石川県障害者施策推進協議会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>: 石川県防災会議震災対策部会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>: 石川県介護保険審査会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>: かほく市地域福祉計画策定委員会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>: 羽咋市健康づくり基本計画策定委員会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>: 令和5年度「保健師等ブロック別研修会(東海北陸ブロック)」実践報告・グループトーク等コーディネーター, 2023. 9. 1</p> <p><u>塚田久恵</u>: 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協</p>

議会学術集会市民公開講座閉会地域ケア総合センター長挨拶
塚田久恵：河北ロータリークラブ卓話「看護大学とかほく市との地域医療の連携等」講師, 2023. 11. 29

塚田久恵：石川県新任保健師研修会講師, 2023. 11. 14, 11. 21

塚田久恵：令和6年能登半島地震に係る避難所支援, 2024. 2. 9

米澤洋美：全国保健師教育協議会「保健師教育」編集委員

米澤洋美：福井県保健師人材育成検討委員会委員長

米澤洋美：かほく市自立支援協議会会長

米澤洋美：福井県自治体保健師合同就職説明会講演「これからの保健師活動～保健師を目指す方へ～」2023. 08. 28

米澤洋美：福井県自治体保健師合同就職説明会パネルディスカッション座長「知りたい保健師の魅力」2023. 08. 28

米澤洋美：北海道看護協会統括保健師研修会講師「統括保健師における実践の評価」2023. 08. 25

米澤洋美：かほく市いきいきシニア活動推進事業「令和5年度生涯現役フォーラム」講師「怒りとうまく付き合うコツ」2023. 11. 08

米澤洋美：FMかほく「なるほどインタビュー」出演「退職後高齢者の健康と社会参加」2023. 12. 18

米澤洋美：石川県中堅保健師研修会講師、「中堅期保健師に求められること」2023. 10. 24

米澤洋美：令和6年能登半島地震に係る避難所支援, 2024. 2. 9, 2024, 02, 12

米澤洋美：石川県新任保健師研修会事例検討ファシリレーター, 2023. 11. 14～11. 21

金子紀子：かほく市健康づくり推進協議会 会長

金子紀子：かほく市介護認定審査会 委員

金子紀子：かほく市地域包括支援センター運営協議会 委員

金子紀子：宝達志水町健康づくり推進協議会 委員

金子紀子：文化看護学会第16回学術集会 企画委員

金子紀子：文化看護学会 編集委員

金子紀子：日本看護系大学協議会 災害連携委員

金子紀子：日本看護協会 代議員

金子紀子：令和6年能登半島地震に係る避難所支援, 2024. 2. 26, 2. 29

金子紀子：石川県新任保健師研修会事例検討ファシリレーター, 2023. 11. 14, 11. 21

室野奈緒子：石川県新任保健師研修会事例検討ファシリレーター,

2023. 11. 14, 11. 21

嶋雅奈恵：石川県新任保健師研修会事例検討ファシリレーター，
2023. 11. 14, 11. 21

室野奈緒子：令和6年能登半島地震に係る避難所支援，2024. 2. 23

嶋雅奈恵：令和6年能登半島地震に係る避難所支援，2024. 2. 11, 2. 13

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

塚田久恵：大学コンソーシアム石川地域連携専門部会委員

塚田久恵：能登キャンパス推進協議会幹事会委員

田村須賀子，塚田久恵，米澤洋美，室野奈緒子，他5名：第12回日本
公衆衛生看護学会ワークショップ，統括保健師に求められる専門的管
理能力と行政的管理能力に何があるのか「地域保健対策の推進に関
する基本的な指針」の改正を受けて，144, 2024. 01. 06

金子紀子：かほく市地域公開講座 講師「健康寿命をのばそう！フ
レイル、ロコモとは？」9月6日

金子紀子：金沢医科大学 協力研究員（令和5年12月1日～令和6年3
月31日）

6.10 在宅看護学講座

所属（大講座等）・職位	地域在宅精神看護学講座・教授	氏名	桜井志保美
	地域在宅精神看護学講座・講師		日高未希恵
	地域在宅精神看護学講座・助教		山路 朋子
	地域在宅精神看護学講座・助手		牛村 春奈

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	桜井志保美：地域包括ケアシステムと地域包括支援センター（地域・在宅看護論Ⅰ総論 編集 石垣和子他），p132-137, 南江堂, 2024.
学術論文	<p><査読有></p> <p>嶋田さくら，高島唯，日高未希恵：石川県における新型コロナウイルス感染症流行以降の特別養護老人ホームでの面会制限の状況と看護師の看取りケアに対する認識. 石川看護雑誌，21，11-20，2024. 3</p> <p>高島唯，嶋田さくら，日高未希恵：在宅看取りに関連する住民の認識—石川県内灘町を対象として—. 石川看護雑誌，21，1-10，2024. 3</p> <p><査読無></p> <p>なし</p>
その他の原稿	なし
学会発表（研究発表・招聘講演，パネリスト，基調講演等）	<p>桜井志保美，河野由美子，日高未希恵，山路朋子，牛村春奈，他1名：訪問看護師の経管栄養をしている2歳未満児の育児支援を考える，第43回日本看護科学学会学術集会，山口，2023. 12.</p> <p>日高未希恵，今井秀樹，牛村春奈，山路朋子，桜井志保美，他1名：高齢化・過疎が進行する農村部における高齢者の社会的つながりの現状第43回日本看護科学学会学術集会，山口，2023. 12.</p> <p>Haruna Ushimura, Hideki Imai, Mikie Hidaka, Naoko Murono, Tomoko Yamaji, Shihomi Sakurai : Tongue pressure is associated with oral health-related quality of life and nutritional status among Japanese elderly people, The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, China. 2024. 3.</p>
研究助成金・研究費等の獲得	<p><科学研究費補助金></p> <p>本学教員が研究代表者</p> <p>なし</p>

	<p>本学教員が分担者 なし</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>桜井志保美</u>(代表：80万円)，<u>河野由美子</u>，<u>金谷雅代</u>，<u>牛村春奈</u>：2歳未満の医療的ケア児における食と発達に関する育児支援ガイド作成(2022-2025年) 科学研究助成基金助成金・基盤研究(C)</p> <p><u>日高未希恵</u>：地域特性に基づく社会的つながりに着目した高齢者ヘルスケアシステムに関する研究R4-R8，学術研究助成基金助成金・若手研究</p> <p><u>牛村春奈</u>，<u>桜井志保美</u>，<u>日高未希恵</u>：舌機能は生活をとらえる指標になり得る，R5-7，科学研究助成基金助成金・基盤研究(C)</p> <p>本学教員が分担者 <u>河野由美子</u>，<u>山崎智可</u>，<u>桜井志保美</u>，<u>北林正子</u>，<u>桜井志保美</u>，他2名：認知症グループホームの介護職に対する倫理観の確立を目指す研修パッケージの開発(2020-2022，2023年まで延長) 科学研究助成基金助成金・基盤研究(C)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>日高未希恵</u>，<u>今井秀樹</u>，<u>室野奈緒子</u>，<u>牛村春奈</u>，<u>桜井志保美</u>：珠洲市に暮らす高齢者の日常的な身体活動や社会的活動と身体機能との関連</p> <p><u>山路朋子</u>，<u>桜井志保美</u>，<u>日高未希恵</u>，<u>牛村春奈</u>：地域ケアスタッフが捉える高齢者の退院後の日常生活における課題</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者 <u>今井秀樹</u>，<u>桜井志保美</u>，<u>日高未希恵</u>，<u>山路朋子</u>，<u>牛村春奈</u>，他2名：珠洲市受託研究事業</p> <p><u>日高未希恵</u>，<u>今井秀樹</u>，他：高齢者における尿失禁を起因とする社会的孤立・孤独のメカニズムとフレイルとの関連。2023年度大和証券財団調査研究助成</p> <p>本学教員が分担者 なし</p>

<p>その他受賞等 受賞，特許，臨床活動</p>	<p>なし</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの> <u>桜井志保美</u>：石川県医療計画推進委員 <u>桜井志保美</u>：かほく市介護保険運営協議会委員 <u>桜井志保美</u>：かほく市障害者福祉計画等策定委員 <u>桜井志保美</u>：宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会委員 <u>桜井志保美</u>：宝達志水町認知症初期集中支援評価委員 <u>桜井志保美</u>：かほく高松訪問看護ステーション運営委員 <u>桜井志保美</u>：介護職員等による喀痰吸引等の研修講師 <u>桜井志保美</u>：北陸大学薬学部・非常講師「看護学」2コマ</p> <p><u>桜井志保美</u>，<u>日高未希恵</u>，<u>山路朋子</u>，<u>牛村春奈</u>：2次避難所の支援 (巡回健康相談)</p> <p><u>日高未希恵</u>：石川県看護協会職能Ⅱ委員 2023.4～2024.3 <u>日高未希恵</u>：「気持ちよく出すことを叶える排泄ケア」の看護教育導入プロジェクトメンバー 2023.12月～ <u>日高未希恵</u>：かほく市いきいきシニア活動推進事業「地域公開講座」1コマ担当，2023.10.26</p> <p><u>牛村春奈</u>：全国パーキンソン病友の会 石川県支部2023年9月定例会ミニ勉強会「パーキンソン病と口のはたらき」，2023.9 <u>牛村春奈</u>：かほく市いきいきシニア活動推進事業，令和5年度地域公開講座，口からはじめる介護予防～口の衰えは要介護状態につながる!?!～，2023.9</p> <p><委嘱状や依頼文書等が来ていないもの> <u>桜井志保美</u>：看護サイエンス学会誌査読</p> <p><u>日高未希恵</u>：世田谷区 生活サポートNPO等協議会 オブザーバー <u>日高未希恵</u>：宮崎県椎葉村民生委員児童委員協議会研修会「椎葉村における地域のつながりと健康」担当，2023.9.25</p>

6.11 精神看護学講座

所属（大講座等）・職位	精神看護学講座・教授	氏名	美濃由紀子
	精神看護学講座・講師		大江 真吾
	精神看護学講座・助教		高濱 圭子
	精神看護学講座・助教		川俣 文乃

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p><査読有></p> <p>大江真吾, 清水暢子, 石田元彦: 農業機械操作時の知的障害者および発達障害者が抱く困難性と機械操作への思い, 北陸公衆衛生学会, 第50巻 第2号, 11-22</p> <p>N Shimizu, C Yamazaki, K Asano, <u>S Ohe</u> and M Ishida: Non Randomized Controlled Trial Examining the Effects of Livestock on Motivation and Anxiety in Patients with Chronic Psychiatric Disorders, SAGE Open Medicine 2023 4</p> <p>N Shimizu, K Asano, <u>S Ohe</u> , and M Ishida: Effects of a One Day Experiential Sheep Rearing Experience on Motivation, Anxiety, and Frontal Lobe Brain Activity in Patients with Chronic Psychiatric Disorders : A Crossover Pilot Study, Psychiatry International 2024.3</p> <p><査読無></p> <p><u>Yukiko Mino</u>, Takaki Makino, Yutaka Emoto: Investigation of in-home monitoring methods for forensic outpatients treated under the Medical Treatment and Supervision Act. Japan Journal of Medical Informatics, Vol. 43, pp981-984, 2023</p>
その他の原稿	
学会発表（研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等）	<p>美濃由紀子, 松浦佳代, 菊池安希子: 国公立大学における「司法精神看護学」の学部教育内容の検討. 第19回日本司法精神医学会大会 (The 19th Annual Conference of the Japanese Society of Forensic Mental Health) , p68 , 2023.9</p> <p>竹内雅結, <u>川俣文乃</u>, <u>大江真吾</u>, <u>美濃由紀子</u>: 医療観察法にもとづ</p>

	<p>く通院処遇対象者への訪問看護に関する研究動向と課題の検討. 第30回日本精神科看護専門学術集会, p63, 2023.11</p> <p><u>Yukiko Mino</u>, Takaki Makino, Yutaka Emoto: Investigation of in-home monitoring methods for forensic outpatients treated under the Medical Treatment and Supervision Act. The 43rd Joint Conference on Medical Informatics. 2-J-2-02, 2023.11</p> <p><u>美濃由紀子</u>, <u>川俣文乃</u>, <u>高濱圭子</u>, <u>大江真吾</u>, <u>宮本眞巳</u>: 看護職の感情活用能力向上のための「感性を磨く事例検討会」. 第43回日本看護科学学会学術集会, [K4], 2023.12</p> <p><u>大江真吾</u>: 精神科訪問看護師が実践する地域で生活する自閉スペクトラム症者への効果的な看護ケアに関する研究, 第43回日本看護科学学会, 2023.12</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者 谷本千恵, 河西千秋, <u>大江真吾</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>船山健二</u>: 患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, R1 ~ R5, 科学研究費助成事業基盤(C)</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>美濃由紀子</u>: 文部科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 他害行為を行った精神障がい者の評価, 治療, 社会復帰支援における看護師の役割. 基盤(C), 課題番号16K12240</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>高濱圭子</u>, <u>大江真吾</u>, <u>川俣文乃</u>, <u>松本勝</u>, <u>美濃由紀子</u>: 精神科入院患者における便秘の実態調査と超音波画像装置(エコー)を用いた看護ケアの検討. 2023年度 石川県立看護大学 学内研究助成(二次), 2023-2024</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者 <u>石田元彦</u>, <u>市丸徹</u>, <u>大江真吾</u>, 他7名: 障害者による粗飼料生産での</p>

	<p>機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発, R4 ~ R5, イノベーション創出強化研究推進事業</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの> <u>美濃由紀子</u>, <u>川俣文乃</u>, <u>高濱圭子</u>, <u>宮本眞巳</u>他：一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師教育課程 精神科看護学3 精神科看護実践における援助関係（援助関係、プロセスレコード、事例検討という方法、患者一看護者関係に焦点をあてた事例検討会）企画委員, 研修会講師, ファシリテーター. 2023. 7. 9 ~ 10. <u>美濃由紀子</u>, <u>川俣文乃</u>, <u>高濱圭子</u>, <u>宮本眞巳</u>他：一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師教育課程 精神科看護学3 精神科看護実践における援助関係（援助関係、プロセスレコード、事例検討という方法、患者一看護者関係に焦点をあてた事例検討会）企画委員, 研修会講師, ファシリテーター. 2023. 7. 22 ~ 23. <u>美濃由紀子</u>, <u>川俣文乃</u>, <u>宮本眞巳</u>他：一般社団法人日本精神科看護協会 研修会「気がかりを見つめ直しケアにつなげる異和感の対自化」. 企画委員, 研修会講師, ファシリテーター. 2023. 11. 12 <u>美濃由紀子</u>：国立・精神神経研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 客員研究員 <u>美濃由紀子</u>：日本司法精神医学会 査読委員 <u>美濃由紀子</u>：かほく市地域自立支援協議会 委員 <u>大江真吾</u>：かほく市自殺対策推進委員会 委員長 <u>大江真吾</u>：あおカフェ, かほく市こども発達相談支援センター <u>大江真吾</u>：看護研究指導・講評, 国立病院機構金沢医療センター <u>大江真吾</u>：看護師国家試験試験対策テスト 作問, メディカ出版 <u>大江真吾</u>：看護実践学会 査読委員 <u>大江真吾</u>：国際交流事業 米国イェール大学本学訪問 研究発表「Development of technology to support the use of machinery and sheep production in roughage production by people with disabilities」, 2024. 3. 15 <委嘱状や依頼文書等が来ていないもの> <u>美濃由紀子</u>, <u>大江真吾</u>, <u>川俣文乃</u>, <u>高濱圭子</u>, <u>宮本眞巳</u>：地域ケア総合センター事業「感性を磨く事例検討会」, 石川県立看護大学, オンライン開催, 2023. 4. 13, 5. 11, 6. 8, 7. 13, 9. 14, 10. 12, 11. 9, 12. 14,</p>

2024. 1. 11, 2. 8, 3. 14

美濃由紀子, 大江真吾, 川俣文乃, 高濱圭子: 地域ケア総合センター事業「こころのシネマ学園台」: 石川県立看護大学, 2023. 10. 22, 2024. 3. 9

美濃由紀子, 大江真吾, 川俣文乃, 高濱圭子: 地域ケア総合センター事業「CINEMA de カフェ」: 石川県立看護大学, 2023. 10. 22, 2024. 3. 9

美濃由紀子: 石川看護雑誌 査読委員

美濃由紀子: 丸善「映像で学ぶ地域包括ケアシステム 精神障害者篇」第1巻「統合失調症の地域生活に向けた多職種連携-急性期～退院前」. 監修協力

美濃由紀子: 丸善「映像で学ぶ地域包括ケアシステム 精神障害者篇」第2巻「統合失調症の地域生活に向けた多職種連携-退院後～地域生活」. 監修協力

美濃由紀子: 丸善「映像で学ぶ地域包括ケアシステム 精神障害者篇」第3巻「アルコール依存症をかかえる人の地域生活に向けた多職種連携」. 監修協力

美濃由紀子: 丸善「映像で学ぶ地域包括ケアシステム 精神障害者篇」第4巻「介護による抑うつ状態をかかえた人の地域生活に向けた多職種連携」. 監修協力

高濱圭子: 「なるほどインタビュー (暮らし) アルコール依存症 (講義・対談) FMかほく 2023. 4. 17 (石川県かほく市)

6.12 看護理工学共同研究講座

所属（大講座等）・職位	老年看護学講座・教授	氏名	大貝 和裕
	老年看護学講座・准教授		長谷川陽子

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p><査読有></p> <p>Nana BC, Esemu LF, Besong ME, Atchombat DHN, <u>Ogai K</u>, Sobgui TMP, Nana CMM, Seumko'o RMN, Awanakan H, Ekali GL, Leke RGF, Okamoto S, Ndhlovu LC, Megnekou R: Soluble biomarkers of HIV-1-related systemic immune activation are associated with high plasma levels of growth factors implicated in the pathogenesis of Kaposi sarcoma in adults. <i>Frontiers in Immunology</i>, 18, 2023.9</p> <p>Ogura K, Furuya H, Takemoto N, Watanabe S, Yamazaki A, <u>Ogai K</u>, Sugama J, Okamoto S: A multi-locus sequence typing method of <i>Staphylococcus aureus</i> DNAs in a sample from human skin. <i>Microbiology and Immunology</i>, 67(10), 438-446, 2023.10</p> <p><u>Ogai K</u>, Nana BC, Lloyd YM, Arios JP, Jiyarom B, Awanakam H, Esemu LF, Hori A, Matsuoka A, Nainu F, Megnekou R, Leke RGF, Ekali GL, Okamoto S, Kuraishi T: Skin microbiome profile in people living with HIV/AIDS in Cameroon. <i>Frontiers in Cellular and Infection Microbiology</i>, 13, 2023.10</p> <p><u>Hasegawa Y</u>, Yoshida M, Minematsu T, Sugama J, Sanada H: The reliability and validity of visually assessing temporal wasting in older adults. <i>Journal of Nursing Science and Engineering</i>, 11, 37-46, 2023.</p> <p><査読無> なし</p>
その他の原稿	

<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）</p>	<p><u>大貝和裕</u>：Researches on Skin Microbiome, 2nd Lawang Sewu International Symposium on Health Sciences, Universitas Muhammadiyah Semarang, インドネシア, 2023.12（オンライン）（招待講演）</p> <p><u>長谷川陽子</u>, 伊地知秀明, 深柄和彦：外科感染症予防と治療のために管理栄養士ができること・すべきこと（日本外科感染症学会/日本臨床栄養代謝学会合同シンポジウム），第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会，横浜，2024.1.</p> <p>太田英二，田中真理奈，高橋千文，<u>長谷川陽子</u>，南原真子，加藤寛子，川村知世，黛知子，國方歩，松井彦郎：小児集中治療室長期滞在症例における潜在的微量元素欠乏．第50回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2023.3, 日本集中治療医学会雑誌 30(Suppl.1), S403-S403, 2023.</p> <p>天尾理恵，<u>長谷川陽子</u>，小川陽介，犬塚亮，平田康隆，緒方徹：DCMに対し体外設置型補助人工心臓を装着し、心臓移植に至った男児のリハビリテーション．第9回日本小児理学療法学会学術集会，WEB, 2022.11, 小児理学療法学1(Suppl.2), 84-84, 2023.</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が研究代表者 <u>大貝和裕</u>，須釜淳子：皮膚細菌・真菌叢に着目した失禁関連皮膚炎の新規リスクファクター探索と予防ケア開発，R3～R6，科学研究費補助金基盤研究（B），2,600千円</p> <p>本学教員が分担者 岡本成史，須釜淳子，小倉康平，向井加奈恵，<u>大貝和裕</u>，中島由加里：リンパ浮腫に続発するレンサ球菌での蜂窩織炎発症機序とその予防・緩和ケア対策，R3～H6，科学研究費補助金基盤研究（B），100千円</p> <p>樋口幸，吉田成一，<u>大貝和裕</u>：妊娠期の高脂肪食摂取が出生児の皮膚に与える影響と増悪・感受性要因の解明，R5～R8，科学研究費補助金基盤研究（B），500千円</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>長谷川陽子</u>：スキンプロテイング法を用いた非侵襲的栄養評価法の開発と在宅栄養管理への応用，2023～2025，学術研究助成基金助</p>

	<p>成金若手研究.</p> <p>本学教員が分担者 松井優子, 久村和穂, <u>紺家千津子</u>, 西部明子, <u>大貝和裕</u>: がん患者のアピアランス問題解決のための美容業と患者の互助を促すICTツールの開発, R4 ~ R6, 科学研究助成基金助成金基盤研究 (C), 30千円 宮前奈央, 大桑麻由美, <u>大貝和裕</u>, 岡本成史, 大江真琴: 頭頸部がん患者の重症放射線皮膚炎の評価指標と関連するスキンパラメーターの同定, R5 ~ R7, 科学研究助成基金助成金基盤研究 (C), 430千円 嶋田努, 榎原弘子, 崔吉道, <u>大貝和裕</u>, 藤田有美: 経皮吸収型製剤の皮膚透過に与える薬剤性皮膚機能変動の影響と網羅的メカニズムの解明, R5 ~ R7, 科学研究助成基金助成金基盤研究 (C), 100千円</p>
学内研究助成金	
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者 なし</p>
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	<p><u>大貝和裕</u>: 受賞, 看護理工学会 学会賞, 2023. 6</p> <p><u>Hasegawa Y</u>, Yoshida M, Minematsu T, Hattori N, Sanada H: Nutritional management using ultrasonography of the temporalis for patients with pressure ulcers in a home care setting: A case report, 受賞, 2023年度日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術論文症例研究賞, 2023. 7.</p>
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>大貝和裕</u>: 看護理工学会 評議員, 編集委員, 広報委員会副委員長, 教育委員会</p> <p><u>大貝和裕</u>: 日本創傷治癒学会 評議員</p> <p><u>大貝和裕</u>: 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 論文賞・研究助成選考委員会</p> <p><u>大貝和裕</u>: 第12回看護理工学会学術集会 実行委員長</p> <p><u>大貝和裕</u>: 金沢大学つるま同窓会 会長 / 金沢大学学友会 副会長</p> <p><u>大貝和裕</u>: 金沢大学医薬保健研究域保健学系 研究協力員</p>

大貝和裕：東京大学大学院医学系研究科老年看護学／創傷看護学分野 客員研究員

大貝和裕，峰松健夫，長谷川陽子：国際交流事業 インドネシアアイルランガ大学本学訪問 共同研究講座看護理工学の紹介「Introducing our research」，2024. 2. 27

大貝和裕：「栄養・生化学」講義，金沢大学，2023. 4～2023. 8

大貝和裕：「医用工学概論」講義，金沢大学，2023. 4～2023. 8

大貝和裕：「情報管理学」講義，金沢大学，2023. 10～2024. 1

大貝和裕：「医用工学概論実習」講義，金沢大学，2023. 10～2023. 12

長谷川陽子：日本臨床栄養代謝学会 学術評議員

長谷川陽子：看護理工学会 学会賞選考委員会委員

長谷川陽子：京都府立大学生命環境学部食保健学科 共同研究員

長谷川陽子：第12回看護理工学会学術集会 実行委員（会計）

長谷川陽子：「糖尿病の食事療法」講義，日本母性看護学会 令和5年度糖代謝異常妊産褥婦への看護支援セミナー，2023. 12.

長谷川陽子：「褥瘡の栄養管理」講義，石川県令和5年度専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア」研修プログラム，2023. 9.

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

大貝和裕：R6能登半島地震褥瘡ケア支援部会活動，2024. 2. 16，2. 22

長谷川陽子：第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会 実行委員

長谷川陽子：第2回次世代看護研究会 実行委員長

長谷川陽子：日本栄養士会 ラオ日栄養改善プロジェクト病院給食検討チーム

長谷川陽子：石川県立看護大学災害対策支援本部 褥瘡ケア支援部会担当

長谷川陽子：石川県栄養士会 災害支援活動

長谷川陽子：「日本人の食事摂取基準（2025年度版）の策定に資する各栄養素等の最新知見の評価及び代謝性疾患等の栄養評価に関する研究」レビューメンバー

長谷川陽子：「高齢者の栄養管理」講義，サラヤ株式会社スキンケア勉強会，2023. 7.

長谷川陽子，大貝和裕，峰松健夫：国際交流事業 インドネシアアールランダ大学本学訪問，講座紹介，2024. 2

長谷川陽子，大貝和裕，松本勝，峰松健夫：国際交流事業 米国

イエール大学本学訪問，講座紹介，2024.3

7. 国際交流

7.1 国際交流委員会

委員長：石川 倫子 教授

委員：戸部教授、松本（智）准教授、大江講師、工藤講師、大橋講師

委員補助：川俣助教

事務局：久保石専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

アメリカ看護研修（国際看護演習Ⅰ）への参加者を増やすために、前期授業時も国際看護演習Ⅰを開講する、新年度ガイダンスでアメリカ看護研修（国際看護演習Ⅰ）のアナウンスをするなど、学生の参加しやすい時期、学生の国際研修の関心度を高める工夫を行う。米国教員の招聘を実現し、学生の異文化理解、国際看護への関心を高める。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. アメリカ看護研修（国際看護演習Ⅰ）、タイ看護研修（国際看護演習Ⅲ）を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況や燃料費高騰の影響により、現地研修が難しい場合は、海外から看護系教員を招聘する。
2. 海外から看護系教員を招聘し、国際交流研修を実施する。
3. 学生の異文化理解を深めるため、日本在留の海外留学生等との交流（International Café）を行う。

<今年度の活動実績・評価>

1. アメリカ看護研修（国際看護演習Ⅰ）、タイ看護研修（国際看護演習Ⅲ）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や燃料費高騰の影響により、現地での海外研修は中止とした。
 - 1) 国際看護演習Ⅰは海外から看護系教員を招聘したり、海外留学生などの協力を得たりして実施し、41名の学生が受講した。
 - 2) 国際看護演習Ⅲは休講とした。
2. 米国から2名の看護教員を招聘し講演会および院生・教員向けの個別指導を実施した。また、海外留学生による学部生への講義等を実施した。
 - 1) イリノイ大学Doorenbos教授による講演会を以下のように開催した。
 - ①教員と大学院生向け講演「Career Cartography: Career Mapping to Increase Impact」を8月24日（木）15:00～16:30に本学大講義室で開催し、64名が参加した。
 - ②学部生への講義「Resilience & Self-care」「Building a program of nursing research」を8月23日（水）10:00～11:30、13:00～14:30に本学中講義室で行い、国際看護演習Ⅰの受講生41名が参加した。
 - 2) イリノイ大学Doorenbos教授による院生および教員向けの個別研究指導を8月21日（月）15:00～17:05、22日（火）15:00～17:35に本学地域ケア研修室で行い、本学教員および

院生5名が個別指導を受けた。

3) カリフォルニア大学ロサンゼルス校Barbara M Bates-Jensen教授による講演会を以下のように開催した。

①教員への講演「How we can support students to reach their potential」を12月13日(水)10:40~12:10に本学地域ケア研修室およびオンラインでのハイブリッドで開催し、本学教員47名が参加した。

②院生への講演「Tips for successful research」を12月13日(水)14:00~15:00に本学地域ケア研修室およびオンラインでのハイブリッドで開催し、10名が参加した。

③学部生への講演「How the nursing profession has enriched my life」を12月14日(木)10:40~12:10に本学大講義室で開催し、2年生83名が参加した。

4) ペンシルベニア大学看護学部2年生 Mashi Molligoda氏による講義「アメリカの医療制度や看護教育について」を6月26日(月)10:00~10:30に本学大講義室で行い、1年生83名が参加した。

3. International Caféは、財団法人石川県国際交流協会等の協力を得て、10月6日(金)16:30~18:00に本学地域ケア研修室にて対面で開催し、学生8名が参加した。留学生の母国の文化や生活をプレゼンテーションして頂き、意見交換など行い交流を深めた。

4. 海外留学生の研修受け入れを行った。研修生はペンシルベニア大学看護学部2年生 Mashi Molligoda氏で6月26日(月)~30日(金)の5日間にわたって、看護専門領域に関する講義・演習に参加し研修を行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

現地でのアメリカ看護研修の安全な実施に向けて、委員会全体で企画・運営を緻密に計画し、実施する。また、米国教員の招聘を継続し、学生の異文化理解、国際看護への関心を高める。

7.2 アメリカ看護研修

アメリカ看護研修は新型コロナウイルス感染症の感染拡大や燃料費高騰の影響により中止した。

8. 附属図書館

8.1 図書館運営委員会

委員長：岩佐 和夫 教授（附属図書館長）
委員：石川教授、峰松教授、千原助教
事務局：中島総務課主幹兼係長、藤田専門員

石川県立看護大学附属図書館は、看護学の教育・研究拠点に相応しい人間形成と学術情報発信の基盤となることを使命と考えている。学生・教員・本図書館を利用される学外の皆様の教育・研究活動を支援し、情報サービスを学内外に提供していくことを目指すとともに看護学の発展に寄与していくために、利用者ファーストを基本に以下の方針に則り委員会での活動を行っている。

1. 学生・教職員・学外の利用者のニーズを把握し利用しやすい図書館となる。
2. 最新の看護学の学術情報活用のための利用者支援システムを構築する。
3. 館内の歴史的な知的資産を将来にわたって利用できるように内容を精査・管理する。
4. 利用者の利便性を図るために図書館スタッフの向上心を育み、設備・施設の充実を図る。
5. 県内および他大学の図書館と連携を強化し利用者が必要とする情報を提供する。

8.2 今年度の主な活動概況

8.2.1 図書館事業の実施

1. 文献検索データベース講習会等の実施

- ・3月6日（水） 教員・院生対象 「いぶなサーチ」について
外部講師

2. 企画・展示の実施

①教員、学生からの推薦図書コーナーの展示

- | | | |
|---------|--------------|--|
| 4月～5月 | 母性看護学講座（野沢） | 「マタニティーヨーガ」 |
| | 精神看護学講座（高濱） | 「その本は」 |
| | | 「Le Petit Prince Antoine De Sant-Exupery 小さな王子様」 |
| 6月～7月 | 健康科学講座（今井美和） | 「こわいもの知らずの病理学講義」 |
| | 小児看護講座（戸部） | 「まんがでわかる7つの習慣」1-4、Plus |
| | | 「完訳 7つの習慣 人格主義の回復」 |
| 8月～9月 | 母性看護学講座（桶作） | 「くもをさがす」 |
| | 成人看護学講座（臺） | 「悩むナースたちへ」 |
| | 成人看護学講座（松本勝） | 「タンタンの冒険」 |
| 10月～11月 | 在宅看護講座（日高） | 「「その日」の前に」 |
| | 人間科学領域（松田） | 「芸術・無意識・脳—精神の深淵へ
:世紀末ウィーンから現代まで」 |

「B.F. スキナー重要論文集I

心理主義を超えて」

12月～1月	老年看護講座（大橋）	「樹木希林120の遺言 死ぬときぐらい好きにさせてよ」
	地域看護学講座（室野）	「FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣」
2月～3月	基礎看護学講座（南條）	「その先の看護を変える気づき： 学びつづけるナースたち」
	精神看護学講座（川俣）	「Shrink～精神科医ヨワイ～」
10月～3月	学生からの推薦図書	「ライオンのおやつ」「QOLって何だろう」「流浪の月」 「82年生まれ、キム・ジョン」「Nのために」「電話をしてるふり」

3. ナーシング・スキルの導入に向けた準備として10月～12月にトライアルを実施

4. 選定図書購入

- ・各講座より購入希望図書を選定し、図書329冊、DVD15点、電子図書22点を購入した。
- ・学生、教員からの推薦図書として10冊を購入した。

8.3 資料整備状況

資料整備状況（令和6年3月31日現在）（ ）内令和5年度受入れ数

コレクション別		総 数	内 訳	合 計
図 書	和 書	63,155冊（冊）	購入：737冊 寄贈：295冊	合計69,227冊 (1,042冊)
	洋 書	6,072冊（冊）	購入：2冊 寄贈：8冊	
雑 誌	和雑誌	1,260誌 (紀要等を含む)	継続購入：100誌 継続寄贈：20誌	合計 1,451誌
	洋雑誌	191誌	継続購入：11誌	
新 聞	日本紙	6紙	—	7紙
	英字紙	1紙	—	
視聴覚資料	CD-ROM	109点	—	合計 2,183点 (37点)
	ビデオ	916点	—	
	DVD	1,004点	購入：15点	
	eBOOK	154点	購入：22点	

8.3.1 分野別蔵書構成（令和6年3月31日現在）

○総冊数：69,227冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	芸術	言語	文学
冊数	4,633	4,009	826	10,949	1,846	23,464	15,384	1,316	274	2,078	1,485	2,963

8.3.2 医学分類蔵書構成（令和6年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：23,464冊

分類	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
標目	医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
冊数	1,937	3,506	1,890	7,534	2,225	1,159	249	176	4,490	298

8.3.3 看護系資料分類別構成（令和6年3月31日現在）

○看護学関係図書の本冊数：15,384冊

分類	N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
標目	看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家庭看護	状態別看護
冊数	2,408	1,350	4,115	694	532	1,945	585	609	2,026	1,120

8.4 利用統計

8.4.1 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	24	23	26	25	20	24	25	24	23	22	18	22	276
入館者数	2,304	2,047	3,006	3,059	2,201	1,215	2,428	2,314	2,015	1,408	2,113	889	24,999
1日平均	96	89	116	122	110	51	97	96	88	64	117	40	91

8.4.2 館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	140	145	114	72	62	116	265	186	169	158	86	33	1,546
	冊数	284	274	231	123	145	343	577	426	365	360	153	64	3,345
院生	人数	48	40	37	35	9	12	21	12	11	18	10	12	265
	冊数	117	98	104	75	19	31	59	40	27	46	35	40	691
教職員	人数	56	56	61	55	56	51	98	50	59	46	42	40	670
	冊数	127	111	129	147	135	132	187	151	161	97	82	104	1,563
一般	人数	30	25	28	39	34	27	28	30	31	18	19	28	337
	冊数	84	84	88	110	103	95	84	73	85	41	59	78	984
計	人数	274	266	240	201	161	206	412	278	270	240	157	113	2,818
	冊数	612	567	552	455	402	601	907	690	638	544	329	286	6,583

8.4.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	4	68	12	11	12	17	5	15	12	18	18	28	220
学生	1	14	31	4	19	26	14	1	8	5	17	28	168
一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	82	43	15	31	43	19	16	20	23	35	56	388

8.4.4 他大学・公共図書館・その他機関からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	11	22	8	1	14	2	9	3	7	1	1	1	80
学生	15	22	27	17	42	40	28	33	11	3	11	14	263
一般	2	0	10	3	3	5	8	6	1	1	0	1	40
計	28	44	45	21	59	47	45	42	19	5	12	16	383

8.4.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	16	20	24	32	39	14	25	20	9	6	12	13	230
枚数	229	276	434	338	361	142	404	308	94	88	180	205	3,059

8.4.6 相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
公共	4	8	7	5	0	2	0	2	6	0	1	3	38
大学	2	3	4	5	4	1	2	1	2	0	2	2	28
合計	6	11	11	10	4	3	2	3	8	0	3	5	66

8.4.7 相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	22	66	60	79	37	32	50	56	55	28	20	35	540
大学	3	3	2	0	0	3	0	1	1	0	4	1	18
合計	25	69	62	79	37	35	50	57	56	28	24	36	558

8.4.8 データベース利用状況

○和雑誌：メディカルオンライン（メテオ社）（ダウンロード件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	795	528	620	455	441	343	443	675	250	266	212	638	5,666

○洋雑誌：Nursing & Allied Health Premium（ProQuest社）（検索件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	14	29	32	31	68	22	21	88	83	34	65	23	510

8.5 利用者サービス

8.5.1 学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者・内容	参加人数	内 容
4月 4日 (火)	院生説明会	約30名	図書館システムの概要説明
4月 5日 (水)	新入生ガイダンス	約90名	図書館の使い方 図書館システムの概要説明
2月 6日 (火)	卒業研究ガイダンス (3年生)	約80名	館内文献複写依頼方法 他大学への文献複写依頼方法

8.5.2 学外向図書館サービス

日 時	名 称	対 象・参加者	内 容
5月24日 (水)	県政バス見学会	一般	図書館見学
7月15日 (土)	オープンキャンパス	高校生、保護者	図書館見学
8月29日 (火)	石川県立田鶴浜高等学校 文献検索学習会	高校生	図書館概要説明 文献検索実習
9月12日 (火)	県政バス見学会	一般	図書館見学
10月6日 (金)	県外高校教員視察	一般	図書館見学
10月14日 (土)	オープンキャンパス	高校生、保護者	図書館見学
10月16日 (月)	県政バス見学会	一般	図書館見学
11月10日 (金)	県政バス見学会	一般	図書館見学
11月15日 (水)	県政バス見学会	一般	図書館見学
3月19日 (火)	石川県立田鶴浜高等学校 文献検索学習会	高校生	図書館概要説明 文献検索実習

8.5.3 学内で利用できるデータベース

	内 容	同時使用
最新看護索引web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度(第42回)より、電子版を掲載。全10領域の「論文集(電子版)」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	フリーアクセス
メディカルオンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供。	フリーアクセス
Nursing & Allied Health Premium	看護・保健・医療分野の文献情報データベース。550誌以上の専門誌が対象。データ数1万件以上。(ProQuest社)	フリーアクセス
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	フリーアクセス
JDreamⅢ*	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文DB。収録約5,200万件。	2
Nii, CiNii (国立情報学研究所)	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 (主宰：国立情報学研究所)	フリーアクセス
ELSEVIER Science Direct	購読タイトル(11誌)の2007年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research」他10誌 サブジェクト・コレクションの論文すべて 対象サブジェクト：Nursing and Health Professions	フリーアクセス

※「*」は学内からのみアクセス可能です。

8.6 職員研修

8.6.1 附属図書館職員の研修

日 時	場 所	名 称	内 容	参加者名
4月13日(木)	石川県立図書館	図書館協力業務 ネットワーク担当者会議	協力業務の運営 県立図書館のサービス Library-Net いしかわ	古橋 和子
6月13日(火)	Zoom	公立大学図書館協議会総会	業務報告・決算報告 予算承認等	藤田 一彦
6月28日(水)	金沢星稜大学	県大学図書館協議会 総会・講演会	業務報告・決算報告 予算承認等	藤田 一彦
6月29日(木)	石川県立図書館	図書館実務講習会	図書や資料の修復と 管理について	古橋 和子
10月12日(木)	Zoom	県大学図書館協議会研修会	講演会	藤田 一彦
10月24日(火)	Zoom	公立大学協会図書館協議会 東海・北陸地区会議	事業進捗報告 ローテーション確認 活動予定と現状	藤田 一彦

9. 附属地域ケア総合センター

9.1 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：塚田 久恵 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：松本（勝）准教授、寺井准教授、中道准教授、日高講師

事務局：河端教務学生課長、久保石専門員

開催頻度：年6回開催

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 人材育成事業、地域連携・貢献事業について
コロナ禍の影響を受け、対面による参加者数の減少や地域公開講座等における学生のボランティア活動が低迷している。
2. 地域創生事業について
コロナ禍の影響を受け、事業の中止や学生の参加者が少ない。
3. かほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会
かほく市との連携事業については、事業評価を発展させた取り組みに繋がっていない。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 人材育成事業、地域連携・貢献事業について
オンライン開催や対面開催のそれぞれの利点を検討しつつ、効果的に事業を開催し、中期目標である能登北部地区での専門職研修、事例検討会を中心に人材育成につなげる。
2. 地域創生事業について
学生への周知を積極的に行い、参加者を募る。
3. かほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会
かほく市との連携事業を発展させ、事業評価に繋げる。

<今年度の活動実績・評価>

運営委員会は主に第3木曜日（隔月開催）に開催し、人材育成、地域活動・地域創生、国際貢献の3部会の審議事項・報告、大学コンソーシアム石川の地域連携専門部会の議案の検討、かほく市と石川県立看護大学の包括的連携に関する議案について検討した。

1. 人材育成事業、地域連携・貢献事業について
 - 1) 地域連携・貢献事業について
10事業が実施され、能登半島地震の影響等で1事業が中止となった。対面のみ8事業、オンラインのみ1事業、ハイブリッド1事業であった。また、地域公開講座事業においては、学生にボランティアとして参加してもらい、シニア世代との交流も促進された。
 - 2) 人材育成事業について
7事業が実施された。対面のみ1事業、オンラインのみ4事業、ハイブリット2事業であった。オンライン開催によって、県外等の参加者もあった。

以上、開催の工夫によって、予定事業全ての実施が実現した。

3) 地域創生事業について

本学は「能登・祭りの環」関係人口創出事業に参加している。今年度は矢波諏訪祭（能登町）と黒島天領祭（輪島市）に参加した。参加人数は、矢波諏訪祭が学生2名・教員2名、黒島天領祭が学生2名であった。

学都いしかわグローバルチャレンジプログラムについては、地域課題の解決力や人への適切な対応力等の獲得を目指す課程の「ローカルチャレンジプログラム」を本学4年次学生1名が修了した。

4) 令和6年度事業の採択について

12月に募集し、1月に能登半島地震による被災地支援を視野に入れた活動を追加募集した。専門部会長間でセンター事業の採択基準に基づき審査、地域連携・貢献事業として9事業を採択した。

2. 国際貢献事業について

「JICA日系研修」「JICA青年研修」について

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法における位置づけが5類とされたことから、来年度以降、JICA日系研修、青年研修を再開することも視野に入れ、JICAと協議を行った（最短で令和8年度）。

3. 大学コンソーシアム石川の地域連携専門部会について

地域課題研究ゼミナール支援事業地域共創支援枠に、垣花教授のゼミによる「働き盛り世代の健康を増進する実践的アプローチについて」が採択された。そして、2024年2月23日に学生による発表が行われ、奨励賞を受賞した。

4. かほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会について

今年度はかほく市が事務局を勤め2回開催した。すべての事業を実施することができた。また、かほく市健康推進課との共同事業として「かほく市内の働き盛り世代の健康を増進する実践的アプローチ」や長寿介護課との「地域在住高齢者のeスポーツ体験の効果検証」など事業評価を発展させた取り組みを行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 人材育成事業、地域連携・貢献事業について

地域連携・貢献事業については、広く周知し、また、オンラインを使用する等企画の内容により方法を工夫し、参加者の増加を図る。また、地域公開講座等における学生のボランティア活動を促す。来年度新規事業となるIPNU（いぶな）地域相談室の周知と住民の利用促進を図る。

人材育成事業については、キャリア看護支援センターへの移行に伴い、地域ケア総合センター事業での人材育成事業は今年度にて終了となった。

2. 地域創生事業について

能登半島地震による影響で、事業中止が懸念されるが、開催の際は学生への周知を積極的に行い、参加者を募る。

3. かほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会

かほく市との連携事業を発展させ、事業評価に繋げる。

9.1.1 人材育成部会

部会長：寺井 梨恵子 准教授

委員：垣花教授、千原講師

開催頻度：随時

活動内容：

<前年度までの課題>

コロナ禍で引き続きオンライン開催やハイブリット開催、小規模開催で事業を実施した影響があり、参加者数が限定的であり、実際の満足度や成果が見えにくい状況にある。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

オンライン開催や対面開催のそれぞれの利点を検討しつつ、効果的に事業を開催し、中期目標である能登北部地区での専門職研修、事例検討会を中心に人材育成につなげる。

<今年度の活動実績・評価>

人材育成事業として7事業が実施された。対面のみ1事業、オンラインのみ4事業、ハイブリット開催2事業など開催の工夫によって、予定事業全ての実施が実現した。オンライン開催によって、県外等の参加者もあった。

平成30年度から応募のある能登北部地区の医療・介護職、行政職を対象に専門職研修が実施された。「ご当地版 在宅療養移行支援システム創り 第2弾～事例検討から練る～」では、能登北部地区の看護職・介護職を対象に、病院や本学をZoom会議システムでつないで事例検討会が開催された。2つの事例を通して、「住み慣れた家で最期を看取る」ための病院での体制の工夫や自治体での看取りのためのシステム創りが共有され、地域に根差した在宅移行支援に関する理解を深めた。

<次年度以降に向けた課題・発展>

地域ケア総合センター事業での人材育成部会は今年度にて終了となった。

9.1.2 地域活動・地域創生部会

部会長：松本 勝 教授

部会員：金子准教授、日高講師

事務局：久保石専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

本部会は地域連携・貢献事業、能登キャンパス推進事業、グローバル人材育成事業を担当している。地域連携・貢献事業ではかほく市での地域公開講座を年5回開催してきた。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響がある中、対面での開催による参加者は徐々に増えつつあるものの、本学の学生と地域住民との交流が図れていない現状であった。また、能登キャンパス推進事業では本学学生の参加者がいない状況であった。さらにグローバル人材育成事業においてはコロナ禍の影響もあり、本学学生がプログラムの要件を満たすことが難しく、グローバル

人材の育成には至っていない状況であった。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

令和5年度は各事業において本学学生の参加を促進することを目標とし、各事業を展開した。まず、学生への周知を4月のオリエンテーション時にいち早く行うこととし、説明用の動画をmoodleにアップしその後いつでも視聴できるようにした。また、地域連携・貢献事業のかほく市の地域公開講座では、本学の学部1年生の必修科目「フィールド実習」の活動として講座の運営補助や地域住民の健康測定を行うこととし、地域公開講座・フィールド実習双方で地域住民・本学学生の交流を持てるようにした。さらに、グローバル人材育成事業においては、学都いしかわグローバルチャレンジプログラムにおける本学学生の単位認定基準を一部緩和（本学では他大学と比較しても地域について学ぶ科目が多く、それが正当に評価されるようにプログラムを修正）した。

<今年度の活動実績・評価>

1. 地域連携・貢献事業

かほく市いきいきステーション（七塚健康福祉センター集会室）にて地域公開講座を開催し、看護大学教員の知見を市民に還元すること、さらに学生においては対象理解や地域のニーズ把握を促進し、シニア世代には社会参加の機会となるように働きかけることを目標とした。

いきいきステーションの協力のもと、本学教員による地域公開講座を6月から10月に全5回実施し、男性44名・女性148名の計192名が参加した。企画書をいきいきステーションに提出、開催概要を提示し、いきいきステーションからかほく市の広報誌に掲載、各回の参加者募集を依頼した。6/14～6/15に開催した第1回の地域公開講座ではテーマを「まだまだ間に合う！もっと増やそう！筋肉貯金！！～筋肉の量をみてみよう～」とし、本学の学部1年生の必修科目「フィールド実習」の一環として、学生及び教員がいきいきステーションを訪問し、地域公開講座の運営補助やいきいきステーションの行事に参加し、かほく市のシニア世代との交流活動を行った。

4月より早々にスケジュール調整を行ったことで積雪前の参加しやすい時期に全日程を終えることができた。参加者数は例年より多かった。6/14～6/15の公開講座では特に参加人数が多く2日間の参加者は述べ86名であった。体組成（筋肉量、脂肪量等）の項目などの測定会を取り入れたことや看護大学の学生も参加すると事前にチラシで宣伝いただいたこと等が参加者増につながったと考えている。看護大学の学生にはこれまで高齢者との関わりを持ったことが少ない学生もあり、公開講座や測定会の運営をサポートしながら多くの高齢者と関わりを持ったことは大きな学びになっていた。参加した高齢者からも看護大学の学生と交流をもてたことに喜びの声が挙がっていた。また普段は女性の割合が高い講座ではあるが、「筋肉／筋力」に関するテーマを取り入れたことで男性の参加者も増加したと考えている。

2. 能登キャンパス推進事業

年度内に、協議会（年2回）及び幹事会（年3回）に出席したほか、「能登・祭りの環」関係人口創出事業実行委員会において、「能登・祭りの環」長期インターンシップ事業および短期・当日インターンシップ事業に参加した。両事業において本学は、従前から引き続き能登町の矢

波諏訪祭り（能登町）を担当し、参加学生の募集、事前の連絡・調整、祭り当日の引率等を行った。8/15（火）・8/16（水）矢波諏訪祭りにおいて、本学の2年生2名を含む、計16名の学生の引率を本学の教員2名で行った。年度始めからの学生への周知や、このような活動への参加がグローバル人材育成事業などにもつながっていることを説明したことが2名の学生の参加につながった可能性がある。

3. グローカル人材育成事業

本学では本年度も「ローカルチャレンジプログラム」及び「グローバルチャレンジプログラム」を設定し、大学コンソーシアム石川の「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」として認定された。これまで、本学のオリジナリティの高い「フィールド実習」がプログラムの中では1単位とされていたが、地域について学ぶ極めて重要な科目であることから、これを2単位として認めることとし、単位認定の基準を緩和した。大学コンソーシアム石川の産学官連携人材育成専門部会に出席し、部会での議論を経て、学生へのメリットが伝わるように、4月のオリエンテーションではプレゼンテーションした。9月時点では申し込みがなかったものの、10月に再度周知したところ、4年生から1名認定希望者が出た。審査の結果、ローカルチャレンジプログラムの認定がされることとなり、本学としてはプログラム改正後の初めての認定者となった。学生への周知でメリットや単位認定基準の緩和について伝えたことがプログラムへの申請・認定につながった可能性がある。

<次年度以降に向けた課題・発展>

学生の実習（今回は1年次のフィールド実習）やその他の課外活動などと絡めて地域公開講座等を開催できれば学生の学びや参加者の満足度にもつながると考えられるため、次年度も担当者を中心にして企画を考えていきたい。それぞれの企画について、年度始めのオリエンテーションでの周知を引き続き行っていきたい。「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」に関しては必要単位の認定の基準についてさらに緩和できる可能性があるかを引き続き探り、さらに多くの学生が認定されるように支援していきたい。

10. 看護キャリア支援センター

10.1 看護キャリア支援センター運営委員会

委員長：紺家 千津子 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：真田弘美学長、中村博之事務局長

活動内容：

<今年度の目標・年度計画>

令和6年度より特定行為研修を含む皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程を開講するために準備を行い、受講生を確保する。

<今年度の活動実績・評価>

次年度の新たな教育課程の準備にあたり、適宜運営会議を開催した。主な内容は以下であった。

- 1) 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程規定、細則について
- 2) 日本看護協会への皮膚・排泄ケア認定看護師の教育機関の申請について
- 3) 厚生労働省への特定行為指定研修機関の申請について
- 4) 令和6年度「皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程」募集要項、入学試験体制、運営について
- 5) 令和6年度教員・事務職員人事について
- 6) 令和6年度予算について

<次年度以降に向けた課題・発展>

令和7年度皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の受講生を確保する。県内の医療施設等のニーズを把握し、令和8年度以降の認定看護師教育課程開講の準備を行う。

10.2 認定看護師教育課程フォローアップ研修

<今年度の活動実績>

1. 目的

看護キャリア支援センター開設10周年に際し、これまでとこれからの認定看護師の役割について改めて考える機会とする。

2. 日時・参加者

【日時】令和5年11月3日(金) 第1部10:30～12:00 第2部13:00～16:00

【参加者数】第1部 170名

第2部 感染管理分野 104名

認知症看護分野 91名

3. 実施内容

第1部 特別講演会

テーマ：これまでとこれからの日本医療に応えるために深化する認定看護師とは

講師：溝上 祐子（東京医療保健大学大学院 准教授、日本看護協会研修学校元課程長）

座長：紺家 千津子（石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター長）

第2部 分野別研修会

【感染管理認定看護師の部】

○特別講演

テーマ：感染対策の最新の話題と感染管理認定看護師に期待する活動

講師：森兼 啓太（山形大学医学部附属病院 検査部・感染制御部部長）

座長：谷渕 舞（社会福祉法人恩賜財団済生会 富山県済生会高岡病院）

生地あゆみ（市立池田病院）

○活動報告

シンポジスト：

4期生 小谷口みさき（医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院）

3期生 生地あゆみ（市立池田病院）

1期生 今江 利香（一般財団法人 日本パプテスト連盟医療団 日本パプテスト病院）

座長：坂本 信彰（医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院）

井口 聡子（国家公務員共済組合連合会 北陸病院）

○森兼 啓太先生との座談会

座長：坂本 信彰（医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院）

井口 聡子（国家公務員共済組合連合会 北陸病院）

【認知症看護認定看護師の部】

○特別講演

テーマ：認知症の人と暮らす生き方の支援～認知症基本法から考える～

講師：川島 和代（石川県立看護大学 学部長）

座長：和泉 唯（国家公務員共済組合連合会 北陸病院）

福田 人味（医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院）

○シンポジウム：共生社会を目指す認知症看護認定看護師の現在地

シンポジスト：

3期生 中山 和昭（かみいち総合病院）

2期生 木谷 陽子（京都市立病院）

1期生 畔田 早苗（済生会富山病院）

座長：秋田和賀子（白山石川医療企業団 公立つるぎ病院）

畠 理子（石川県立こころの病院）

<次年度以降に向けた課題・発展>

感染管理6期、認定証看護3期にわたる教育課程を実施し、現在はいずれも一旦閉講して次年度から開講予定の皮膚・排泄ケア分野の特定行為研修を含んだ新たな認定看護師教育課程を準備中である。

教育分野が多くなり、修了生の人数も多くなってきており、フォローアップ研修へのニーズも修了年次によって変化している。また修了後どこまでフォローが必要かという観点から

今後の運営について修了生の意見を聞きながら変革していく時期を迎えた。

認知症分野は、できる限り従来通り修了生全体で継続開催したい意向がある。感染管理分野は、1期生が修了してすでに10年経過しているため分野全体でのフォローアップは不要と考え、各期に応じて自主的な学習会を企画したい意向がある。

よって、開催については場所の配慮や備品の使用などできる範囲で相談に応じながら対応していく。

次々年度は、皮膚・排泄ケア(WOC)認定看護師教育課程1期生が修了する予定なので、WOC分野の1期生を対象として企画する。

10.3 石川県委託事業の開催

10.3.1 石川県看護教員現任研修事業

<研修目的・年度計画>

研修ニーズに基づき、看護教員全体と臨床で実習指導に関心がある看護職員を対象とした研修を企画した。

【看護教員対象】

看護教員として直面する教育方法・教育評価の課題に対して、課題の糸口を見出すことができることをねらいとして企画した。

【看護教員と実習指導者や実習指導に関心がある看護職員対象】

改正カリキュラムを展開する中で直面している課題に対して、課題の糸口を見出すことができることをねらいとして企画した。

<今年度の活動実績>

【看護教員対象】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
6/17 (土)	10:00 ~	受付等		
	10:30 ~ 12:00	新しい教育評価の考え方(基礎編) 1) 教育評価の変遷と課題 2) 目標に準拠した評価の考え方と課題 3) 真正の評価の考え方	石川県立看護大学 教授 石川倫子 <ファシリテーター> 石川県立総合看護専門学校 教務主任 金田明子	石川県立看護大学 地域ケア 研修室
	13:00 ~ 14:30	日頃の教育評価の疑問に答えます!	石川県立看護大学 助教 瀬戸清華	
15:00	アンケート等	助教 千田明日香		

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
7/8 (土)	10:00 ~ 10:30 ~ 14:30 15:00	受付等 臨地実習指導における教員の役割 1. 臨地実習指導の課題 1) 実習指導での課題を抽出する 2) 課題解決の方法を見出す 2. 臨地実習指導方法の実際 1) みえる・ふれる・感じる 2) 学生が語れる聞き方とは 3) 学生が自己の経験を意味づけるための指導方法 3. 実習指導者と教員との連携 アンケート等	国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校 副学校長 西村民子 <ファシリテーター> 国立病院機構 金沢医療センター附属金沢看護学校 教員 坂本泰子 教員 津田朋恵	石川県立看護大学 地域ケア研修室

【看護教員と実習指導者対象】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
9/9 (土)	13:00 ~ 16:00	看護基礎教育に 「臨床判断モデル」を活用する ・「臨床判断モデル」とは ・改訂ポイントの読み解き ・看護基礎教育への活用の実際	聖路加国際大学 准教授 三浦友理子 司会： 看護キャリア支援センター 特任准教授 池田富三香 演習補助：寺井・田村・ 南條・瀬戸千田・中嶋	石川県地場産業振興センター 第1研修室

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
10/28 (土)	10:00 ～ 12:00	人生100年時代の看護教育 【第Ⅰ部】 <シンポジウム> 高齢者の<生活>をみつめる 病院、CNSの立場から 在宅の立場から 教員の立場から	<座長兼進行> 金沢医科大学 准教授 橋本智江 石川県立総合看護専門学校 副学校長 越野まゆみ <シンポジスト> 千木病院 看護部長 高田千嘉 白山鶴来訪問看護ステーション 管理者 澤久美子 石川県立看護大学 准教授 中道淳子	石川県立看護大学 中講義室4
	13:00 ～ 14:30	【第Ⅱ部】 <講義> 人生100年時代の超高齢社会に求められる看護教育	石川県立看護大学 学部長 川島和代 演習補助： 大橋・近藤・宮本	
	15:00	アンケート		

10.3.2 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

<今年度の目標・年度計画>

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

<今年度の活動実績>

日 時	研修内容	講 師
令和5年11月17日(金)		
10:00～	オリエンテーション 開講式	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 教 員 池田 富三香 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子
11:00～11:40	石川県の看護の状況	石川県健康福祉部医療対策課 高山 次代
13:00～15:30	地域包括時代における看護管理と リーダーシップ①	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
11月18日(土)		
9:00～12:00	地域包括時代における看護管理と リーダーシップ②	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
13:00～15:30	看護管理者のための病院(病棟) 経営 —データを活用した看護管理—	滋賀県立総合病院 院長補佐兼看護部長 西村 路子
11月24日(金)		
9:00～12:00	看護師の働き方を支えるための 基礎知識	加藤社労士弁護士事務所 加藤 明子
13:00～15:30	組織の課題達成にむけて —組織分析の意義と手法—	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター 看護部長 藤田 恵子
11月25日(土)		
9:30～11:45	看護管理者としての能力開発	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
12:45～15:30	組織における倫理的課題	常磐大学 教授 吉田 千文
15:30～15:45	アンケート/閉校式	石川県立看護大学附属 看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子

10.3.3 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修:皮膚・排泄ケア研修」

<今年度の目標・年度計画>

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

<今年度の活動実績>

日 時	分 野	科目・講師
令和5年9月10日(日)		
9:25～9:55	-	看護の動向について
		石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ係 主査 高山 次代
10:00～10:55	Wound	褥瘡のリスクアセスメント
		福井医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 北川 敦子
11:00～11:55	Wound	体圧管理
		久藤総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 ゆかり
13:00～13:55	Wound	MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)
		金沢医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理
14:00～14:55	Wound	創傷治癒とDESIGN-R2020
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
15:00～15:55	Wound	スキンケアとドレッシング材の選択
		JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹
令和5年9月15日(金)		
9:00～9:55	Wound	スキン-ケア
		石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子
10:00～10:55	Wound	下肢の潰瘍のケア
		金城大学 看護学部 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
11:00～11:55	Wound	糖尿病のフットケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴
13:00～13:55	Wound	褥瘡の栄養管理
		石川県立看護大学 共同研究講座 准教授 長谷川 陽子
14:00～14:55	Wound	褥瘡のリハビリテーション
		一般社団法人オーディナリーライフ 理学療法士 神野 俊介
15:00～15:55	Wound	褥瘡の外科的・物理的療法
		金沢医科大学 名誉教授南ヶ丘病院 院長 川上 重彦

日 時	分 野	科目・講師
令和5年9月16日(土)		
9:00～9:55	Ostomy	消化器ストーマと術後管理
		金沢医科大学 一般・消化器外科学准教授 藤田 秀人
10:00～10:55	Wound	ストーマケアの基礎
		石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子
11:00～11:55	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア
		金沢大学附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 清美
13:00～13:55	Wound/ Ostomy/ Continence	ケア相談・これまでの復習
		皮膚・排泄ケア認定看護師 紺家 千津子、山田 清美、石井 光子
14:00～14:55	Ostomy	瘻孔管理
		小川医院 院長 小川 滋彦
15:00～15:55	Wound/ Ostomy	がん薬物療法時のスキンケア
		公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子
令和5年9月18日(月・祝)		
9:00～9:55	Ostomy/ Continence	泌尿器ストーマと失禁の管理
		金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学
10:00～10:55	Continence	IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美
11:00～11:55	Continence	失禁対策
		金城大学 看護学部 特任講師, 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
13:00～14:10	Wound/ Continence	褥瘡のケア計画 1
		皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、山下 美樹 山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子、石井 光子
14:15～14:45	Wound/ Ostomy/ Continence	褥瘡のケア計画 2
		皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、山下 美樹 山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子、石井 光子

10.4 地域貢献

<今年度の目標・年度計画>

地域の機関からの依頼による地域貢献の役割を果たす。

<今年度の活動実績>

氏名	テーマ	主催者名	場所・機関	年月（西暦）
池田富三香	講義：安全管理研修 ヒヤリハット事故報告について	医療法人社団映寿会 介護保険サービス事業所	医療法人社団 映寿会病院	2023. 9. 20
池田富三香	講義：認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 人材育成の基礎知識	石川県看護協会	石川県看護協会	2023. 10. 26 10. 30
池田富三香	研修：2023 マネジメント塾 in 南加賀(1) 日々の看護に潜むマネジメント	石川県看護協会 南加賀地区	小松市民病院	2023. 10. 21
池田富三香	研修：2023 マネジメント塾 in 南加賀(2) 認知的ケチからの克服	石川県看護協会 南加賀地区	小松市民病院	2023. 12. 16
池田富三香	研修：2023 マネジメント塾 in 南加賀(3) 振り返ってみよう私の役割支援	石川県看護協会 南加賀地区	小松市民病院	2024. 3. 2

11. 大学施設の開放

実施年月日	内 容	参加 人数(人)
5. 6 ~ 6. 1	野球練習	50
5. 7. 30	ミニコンサート	30
5. 8. 9	こども食堂の活動	6
5. 9. 4	食品衛生責任者 研修会	180
5. 11 ~ 6. 1	サッカー練習	30
5. 11. 12	音楽発表会	15
5. 12. 24	ピアノ発表会	150
6. 2. 29 3. 1	田鶴浜高等学校卒業式	400

編集後記

石川県立看護大学の令和5年度年報が発刊の運びとなりました。今回で第24巻となります。年報には、本学教職員が日々取り組んだ教育、研究、地域貢献、学内運営の実績が記されています。ここでは、本文で伝えきれなかった大学内での様子を少し補足させていただきます。

令和5年度に日本で起きた重大な出来事として、5月8日新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行したと1月1日に発生した令和6年能登半島地震が挙げられます。

新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行したことに伴い、本学では、これまで感染対策のために自粛していた地域活動が再開しました。地域活動に参加できるようになり、コロナ禍で大幅に減少したヒューマン・ヘルス・ケアの履修登録者数が回復、復調の兆しがみえました。学生サークル活動も元気を取り戻し、現在、掲示板には数々のサークルの案内が貼られています。夏休みには、学生サークル「子育て応援隊ひよっこ」が校内でこども食堂を開催し、校内を歩く多くの小学生の姿を見かけました。オープンキャンパスは4年ぶりに対面での開催となりました。国際交流では、米国の大学から看護教員を招聘したり、看護学部生の研修を受け入れたりしました。コロナ禍では静粛であった校内から、現在は話し声や笑い声が聞けるようになりました。様々な面で教職員・学生の活動が活発になり、校内にも活気が戻ってきたことを実感しています。

令和6年能登半島地震では、本学の建物への大きな被害はありませんでしたが、本学には、奥能登出身の学生が多く在籍しています。生活や精神面へのダメージは計り知れないものがあったと思います。多くの支援や自助努力の結果、2月を迎える頃には、全員揃って大学で講義を受講する様子を見るようになりました。教職員による被災者支援活動が開始され、学生も自主的にボランティアとして支援活動に参加する者が出てきました。様々な苦難を乗り越え、前を向いて取り組んでいく学生たちを頼もしく感じました。

本学独自の出来事では、教育において「教育DX化構想」のもとペーパーレス授業を導入しました。これにより、新入生の教科書は、全て電子教科書に、講義資料も全てPDF等の電子媒体となりました。これは、北陸地方の看護系大学では初めての取り組みです。新入生は、小中高等学校でICTを活用した学習を受けてきているとはいえ、ICTの操作に慣れている学生もいれば、そうでない学生もいます。入学当初から、学生委員会、DX推進委員会が中心となり、学生支援・教員支援活動を展開し、これまで大きな混乱もなく、ペーパーレス授業が順調に進んでいます。

編集後記を読んで、危機状況を乗り越え活気を取り戻した本学の様子を感じていただけたら幸いです。

最後になりましたが、本誌の編集にあたり各委員会、各付属施設の皆様から多大なるご協力をいただきましたことにお礼を申し上げます。また、実質的な作業を一手に担った外主任主事および部会員の曾山委員の労を労いたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

自己点検評価委員会 年報編集部会長 桜井志保美

令和5年度 石川県立看護大学年報 第24巻
令和6年12月 発行

編集：石川県立看護大学 自己点検・評価委員会
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
tel.076-281-8300 (代) fax.076-281-8319

「著作権は石川県公立大学法人に帰属する。」

(この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。)

